

目次

■2023年度 開講科目一覧(2019年度以降入学生)

科目		担当講師	ページ
教養科目	日本国憲法	江川 栄一／竹原 有基	2・3
	体育(理論)	井口 恵子	4
	体育(実技)	井口 恵子	5
	外国語コミュニケーションⅠ	数井 宏信／唐沢 俊光	6・7
	外国語コミュニケーションⅡ	数井 宏信／唐沢 俊光	8・9
	情報処理	森 志保子	10
	キリスト教概論	貴田 直樹	11
目的に関する科目・保育の本質・目	保育原理	鯛谷 和代	12
	教育原理	中村 早苗	13
	子ども家庭福祉	永井 亮／森脇 晋	14・15
	社会福祉	堀江 久子	16
	子ども家庭支援論	小玉 絹江	17
	社会的養護Ⅰ	関 博之	18
	保育者論	鯛谷 和代	19
理解に関する科目・保育の対象の	地域福祉	影山 幸子／小泉 久子	20・21
	保育の心理学	小沢 恵美子	22
	子ども家庭支援の心理学	長田 美穂／前川 洋子	23・24
	子どもの理解と援助	松田 知佳子	25
	子どもの保健	梅崎 あさ	26
	子どもの食と栄養Ⅰ	島野 僚子／宮木 弘子	27・28
	子どもの食と栄養Ⅱ	島野 僚子／宮木 弘子	29・30
方法に関する科目・保育の内容・目	児童館の機能と運営	小玉 絹江	31
	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ	小玉 絹江	32
	保育・教育課程の意義と編成	松本 佳代子	33
	保育内容総論	松本 佳代子	34
	保育内容指導法 健康	阿江 美知代	35
	保育内容指導法 人間関係	氏家 博子	36
	保育内容指導法 環境	岩田 大／岸 久美子	37・38
	保育内容指導法 言葉	氏家 博子	39
	保育内容指導法 表現	森脇 環帆	40
	子どもの音楽表現	神崎 由布子	41
	子どもの造形表現	森脇 環帆	42
	子どもの身体表現	田中 麻夜	43
	保育方法・技術演習Ⅰ	浅井 忍	44
	保育方法・技術演習Ⅱ	浅井 忍	45
	乳児保育Ⅰ	横山 正美	46
	乳児保育Ⅱ	横山 正美	47
	子どもの健康と安全	梅崎 あさ	48
	特別支援保育Ⅰ	橋場 隆／藤原 彩子	49
	特別支援保育Ⅱ	橋場 隆／藤原 彩子	50
	社会的養護Ⅱ	関 博之	51
	子育て支援	東 敦子／川崎 里香	52・53
	子どもの人間関係	菅原 陽子	54
	子どもの環境	岩田 大／岸 久美子	55・56
	子どもの言葉	浅井 忍	57
	子ども理解	徳田 多佳子	58
	子どもの造形表現Ⅱ	森脇 環帆	59
	音楽Ⅰ	堀井 朝子・梶前 亜希子・笠原 青子・加藤 香代子・神崎 由布子・後藤 ゆかり・小峰 純子・鳥居 留美子・三橋 淑子	60
	音楽Ⅱ	堀井 朝子・梶前 亜希子・笠原 青子・加藤 香代子・神崎 由布子・後藤 ゆかり・小峰 純子・鳥居 留美子・三橋 淑子	61
	音楽Ⅲ	堀井 朝子・梶前 亜希子・笠原 青子・加藤 香代子・神崎 由布子・後藤 ゆかり・小峰 純子・鳥居 留美子・三橋 淑子	62
	音楽Ⅳ	堀井 朝子・梶前 亜希子・笠原 青子・加藤 香代子・神崎 由布子・後藤 ゆかり・小峰 純子・鳥居 留美子・三橋 淑子	63
実保育	保育実習Ⅰ(保育所)	安達 麻衣子／土井 美沙緒	64
	保育実習Ⅰ(施設)	田口 美登里	65
	保育実習指導Ⅰ(保育所)	安達 麻衣子／土井 美沙緒	66
	保育実習指導Ⅰ(施設)	田口 美登里	67
	保育実習Ⅱ	安達 麻衣子／土井 美沙緒	68
	保育実習指導Ⅱ	安達 麻衣子／土井 美沙緒	69
	保育実習Ⅲ(施設)	田口 美登里	70
	保育実習Ⅲ(児童館)	小玉 絹江	71
	保育実習指導Ⅲ(施設)	田口 美登里	72
	保育実習指導Ⅲ(児童館)	小玉 絹江	73
総合演習	保育・教職実践演習Ⅰ	小堀 哲郎／横山 正美	74・75
	保育・教職実践演習Ⅱ	阿江 美知代／横山 正美	76・77
科独自	園芸Ⅰ	高浜 真理子	78
	保育・教育相談の基礎と方法	長田 美穂／前川 洋子	79・80
	キリスト教保育	菅原 陽子	81
	教育社会学	江川 栄一／竹原 有基	82・83
	保育総合教養	各クラス担任他	84～87
実教習	教育実習	祐成 かおり	88・89
	教育実習演習(事前事後指導)	祐成 かおり	90・91

◆教育課程(2019年度以降入学生) 92・93

開講年次:1年次春		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名		日本国憲法			
担当教員		江川 栄一			
授業概要: 日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義に加え、政治の仕組みがどうなっているのか理解できるように、具体的な諸問題を取り上げて一緒に考える。さらに新聞や資料を読み込んでいくことで時事問題を理解し、自分の意見が持てるように学ぶ。					
授業の到達目標: 「一人ひとりの個人を尊重する」という基本的な価値観に基づいて作られた日本国憲法を知り、それはどう私たちの国民生活に関わっているのか理解することを目標とする。さらに私たちが社会人として生きる上での支えとするべく、法律についての基本的な知識を持つことを目指す。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	学習計画と目標を知る／法律とは何か				
2	憲法とは何か				
3	立憲主義と現代国家				
4	国民主権の基本原理				
5	基本的人権の原理				
6	基本的人権の限界と公共の福祉				
7	包括的基本権と新しい人権				
8	法の下での平等				
9	ケーススタディ「現代日本は法の下に平等か？」				
10	精神的自由権(思想・良心の自由、信教の自由、表現の自由)				
11	経済的自由権と社会権				
12	権力分立と国会の地位				
13	内閣と裁判所				
14	地方自治／憲法改正				
15	9条と平和主義の原理、総まとめ				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容: シラバスの授業計画だけでなく、授業の最後に次時の講義内容を示し、予習を促す。また、復習の徹底を指導するとともに、小レポートや課題なども適宜実施し、事前・事後の学習の習慣化を図る。					
テキスト: 伊藤真, 2022, 『伊藤真の憲法入門[第7版]』日本評論社。					
参考文献: 随時プリントを配布します。					
学生に対する評価: 定期試験:70% 受講姿勢(授業態度・レポート提出状況)30%					
実務経験のある教員による授業科目:－					

開講年次:1年次春		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名		日本国憲法			
担当教員		竹原 有基			
授業概要: 教育基本法が「日本国憲法の精神にのっとり」制定されたように、日本国憲法は教育関係法規の頂点に位置する。これから子どもに関する法律等を学んでいくにあたり、「個人の尊厳」や「基本的人権」など、憲法の精神がどのように子どもを守っているのかを知り、憲法を学ぶことは保育者にとってどのような意義があるのかを考える。 主に教育・保育に関連する事例・判例や最新の憲法に関するニュースを参照しながら、時に映画やドキュメント、CM等の映像を観ることで、憲法を身近なものとして感じられるようになることを目指す。					
授業の到達目標: ・保育者にとって日本国憲法を学ぶ意義を理解する。 ・「子どもの最善の利益」に関するさまざまな法律は日本国憲法からの派生であることを理解する。 ・「個人の尊厳」や「基本的人権」を尊重することは、子どもと接する際にどう関わっていくかを理解する。 ・日常の中や教育・保育の現場で日本国憲法がどう活かされているのかを知る。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	オリエンテーション 日本国憲法が教職課程必修科目になっている意味、憲法を守るのは誰なのか				
2	憲法とは何か 日本の憲法史、人権保障の国際的な広がり、憲法をどのように学ぶか				
3	個人の尊厳と基本的人権 いじめと人権、憲法の私人間効力論、幸福追求権と新しい人権				
4	人権の共有主体 人権の多様性と限界、子どもの権利、教師と人権について				
5	「平等」「差別」とはどんなことか 法の下での平等				
6	自分らしく生きるための心の自由 思想・良心・信教の自由				
7	教師の教育の自由、大学の自治 学問の自由				
8	表現の自由 自由の限界とヘイトスピーチ、著作権				
9	コロナ禍で制限されたものとは 経済的自由権、子どもの貧困				
10	教育の機会均等と教育格差 教育を受ける権利と義務教育				
11	国会と内閣 権力分立(三権分立)、国民主権と参政権、政治の主役と“檻の中のライオン”				
12	警察に捕まってしまったら 刑事事件で保障される権利、裁判所と違憲審査権				
13	地方自治とはどんなことか 教育の地方自治				
14	平和主義 第9条と日本国憲法前文				
15	憲法改正 18歳の投票権、選挙権				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容: ・暮らしの中で憲法、特に「個人の尊厳」や「基本的人権」を意識するよう心がける。 ・インターネット、TV、新聞等で憲法に関わる記事を注視する。AIやメタバースと憲法の間接的な関係を考える。 ・インクルージョンやダイバーシティといった考え方や憲法がどう関係するかを考える。					
テキスト: 斎藤一久・城野一憲編著、2020、『アクティバート教育学15 教職のための憲法』ミネルヴァ書房。					
参考文献: 芦部信喜著、高橋和之補訂、2019、『憲法 第七版』岩波書店。 上田健介・尾形健・片桐直人、2020、『START UP 憲法判例50!〔第2版〕』有斐閣。 斎藤一久・堀口悟朗編、2021、『図録 日本国憲法 第2版』弘文堂。 棟大樹、2016、『檻の中のライオン』かもがわ出版 雑誌『法学セミナー』(日本評論社)、『法学教室』(有斐閣) 他、講義内で適宜紹介する。					
学生に対する評価: 定期試験:70%、 受講姿勢(授業態度・レポート):30%					
実務経験のある教員による授業科目:ー					

開講年次:1年次春		必修	単位数:1	時間数:15	授業形態:講義
科目名		体育(理論)			
担当教員		井口恵子			
授業概要: 健康・運動・安全確保の方法を学び、生涯を通じて楽しく動ける基盤を作る為の要因を学ぶ。					
授業の到達目標: 自分達の体のしくみを知り、おかれた環境の中で適切に対応できる基本的な要素を学び、健康で安全な体育活動ができる保育士を目指す。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	私達の体-骨と筋肉①				
2	私達の体-骨と筋肉②				
3	健康とは				
4	運動とは				
5	スポーツと遊び①				
6	スポーツと遊び②				
7	ストレスと休養①				
8	ストレスと休養②				
9	トレーニングと栄養①				
10	トレーニングと栄養②				
11	救急処方と安全管理①				
12	救急処方と安全管理②				
13	運動遊び指導法				
14	運動遊びの指導計画①				
15	運動遊びの指導計画②				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容: 事前学習は特に必要ないが、どんな事を学習するのかは把握しておいてほしい。 授業の終わりにその日学んだ事、感じた事、質問等を書き提出する。 次回返却するので、他のプリントと同様に見返せるようファイリングしておくこと。					
テキスト: プリント配布。					
参考文献: (1)前橋明編著, 2017,『幼児の体育-動きを通して心を育む』建帛社。 (2)井上勝子編著, 2008,『すこやかな子どもの心と体を育む運動遊び』建帛社。 (3)岩崎洋子編, 2008,『保育と幼児期の運動遊び』萌文書林。					
学生に対する評価: ・試験結果:70% ・受講姿勢:30%					
実務経験のある教員による授業科目 ・1986年4月～2015年3月まで 財団法人児童育成協会こどもの城 主任指導員として体育・水泳指導(対象0歳～) ・2015年4月～現在 児童館・母子支援センター主催の親子体操や運動あそび、地方自治体・NPO主催の指導者講習会の指導					

開講年次:2年次秋		必修	単位数:1	時間数:45	授業形態:実技
科目名		体育(実技)			
担当教員		井口恵子			
授業概要: 楽しく動くことを日常生活や遊びの中にどの様に取り入れられるかを学ぶ。 また、その為に保育士自身の体を整える事を目標とし、毎時間ストレッチや筋力トレーニングを行い基礎体力を高めていく。					
授業の到達目標: ・保育活動の中でも重要な運動遊びの楽しみ方を、身近にある道具や体そのものを使って習得する。 ・保育士となっても動ける体を作り、健康に対する意識を持てるようにする。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	オリエンテーション				
2	組遊び・力遊び				
3	鬼ごっこ①				
4	鬼ごっこ②				
5	用具:ロープ				
6	用具:フープ				
7	用具:紙				
8	用具:布				
9	用具:ボール①				
10	用具:ボール②				
11	用具:ディスク①				
12	用具:ディスク②				
13	作ってあそぼう				
14	パラバルーン				
15	実技テスト				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容: 体調管理の徹底・基本的に当日見学は不可。 授業後どんな活動をしたか記録しておくが良い。					
テキスト: なし(但し、毎回運動着。運動靴着用厳守)。					
参考文献: 実技例が出ているので参考に。 ・羽崎泰男, 2006,『イラスト版からだあそび-こどもとマスターする46の体力づくり』合同出版。 ・こどもの城体育事業部編著,1999,『イラストで見るスポーツ遊びで健康づくり』					
学生に対する評価: ・実技試験:60% ・受講姿勢:40%					
実務経験のある教員による授業科目 ・1986年4月～2015年3月まで (財)児童育成協会こどもの城 主任指導員として体育・水泳指導(対象0歳～) ・2015年4月～現在 児童館・母子支援センター主催の親子体操や運動あそび、地方自治体・NPO主催の指導者講習会の指導					

開講年次: 1年次春		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名	外国語コミュニケーションⅠ				
担当教員	数井 宏信				
授業概要: Role playing and practice in English					
授業の到達目標: English for Early Childhood Care and Education Majors					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	Children's Garden				
2	The first Day of the Internship				
3	Out We Go				
4	Splish, Splash				
5	Check Test ①				
6	Pancake Day				
7	Read me, Tell me Stories				
8	Activities with Watermelons				
9	Happy Birthday!				
10	Check Test ②				
11	Children at Play				
12	Baby News				
13	The Tooth Fairy				
14	The Green-Eyed Witch				
15	Check Test ③				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容: Reviewing after class is important.					
テキスト: 赤松直子, 2009, 『Children's Garden－ English for Early Childhood Care and Education Majors』成美堂.					
参考文献: None					
学生に対する評価: Class lesson and report					
実務経験のある教員による授業科目:－					

開講年次:1年次春		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		外国語コミュニケーションⅠ			
担当教員		唐沢 俊光			
授業概要:幼稚園や保育園の先生を目指している学生のための多数のアクティビティやロールプレイを中心とした授業です。スピーキング、リスニングやライティングのアクティビティによって、子どもや保護者とのコミュニケーションについて分かりやすい授業構成になっています。朝の挨拶、子どもへの指示、子どもの行動や問題などを保護者に伝える方法などさまざまな英語表現を身に付けます。ペアワークやロールプレイを中心に、コミュニケーション活動を通して、協力しながら英語学習に取り組みます。幼児教育・保育についての課題練習を行います。授業中は、積極的に発言して、ペアワークやロールプレイに対して、積極的に参加することが求められます。					
授業の到達目標: ・様々な場面の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えを理解することができる。 ・様々な場面の英語を読んで、目的に応じて情報や考えを理解することができる。 ・様々な話題について、目的や場面、状況に応じて英語で話すことができる。 ・様々な話題について、目的や場面、状況に応じて英語で書くことができる。 ・複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	Introduction of the course, ガイダンス Unit 1 : What's your name? お名前は?				
2	Unit 2 : Where are you from? どこから来たの? (出身地は?)				
3	Unit 3 : Good morning ! おはよう!				
4	Unit 4 : Are you OK? 大丈夫?				
5	Unit 5 : What are you doing? 何してるの?				
6	Unit 6 : How are you feeling? どんな気分?				
7	Unit 7 : What's she like? 彼女はどんな人?				
8	Unit 8 : Do's and don'ts していいことと悪いこと				
9	Unit 9 : Let's eat lunch! お昼を食べよう?				
10	Unit 10 : What do you want to do? 何したい?				
11	Unit 11 : What do you have to do? 何をしなければならないの?				
12	Unit 12 : I need to go potty トイレに行きたい				
13	Unit 13 : Good job! よくやったね!				
14	Unit 14 : Injuries and emergencies ケガと緊急事態				
15	Unit 15 : We're going to go outside 外で遊ぼう				
	定期試験期間における試験: 実施しない				
事前・事後学習の内容: 事前学習は、スピーキングのダイアログをCDで聴いておくこと。プラクティスを考えておくこと。 事後学習は、CDに合わせて何度も話すこと。					
テキスト: Speaking of Childcare Authors: Peter Vincent and Naoko Nakazato Publisher:NAN' UN-DO					
参考文献: 特になし					
学生に対する評価: 授業への参加度:50% 課題:50%					
実務経験のある教員による授業科目:－					

開講年次: 2年次秋		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		外国語コミュニケーションⅡ			
担当教員		数井 宏信			
授業概要: Role playing and practice in English					
授業の到達目標: English for Early Childhood Care and Education Majors					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	Hello!				
2	Numbers and Colors				
3	Let' s Play! Let' s Move!				
4	Quiz Show				
5	I like Fruit				
6	Reading a Picture Book				
7	Do you have a Pencil?				
8	What Subject Do you Like?				
9	My Favorite Place				
10	Let's Help Our Family!				
11	Let' s Cerebrate!				
12	She can skateboard. He can play the Trumpet				
13	Ordering Food at a Restaurant				
14	How was Your Summer Vacation?				
15	What do You Want to be?				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容: Reviewing after class is important					
テキスト: 泉 恵美子, 2022, 『Basic English for Teachers of Young Learners』朝日出版社					
参考文献: None					
学生に対する評価: Class lesson and report					
実務経験のある教員による授業科目:－					

開講年次:2年次秋		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		外国語コミュニケーションⅡ			
担当教員		唐沢 俊光			
授業概要:幼児教育を専攻する学生が必ず経験する実習を学習のテーマとした授業構成になっています。テキストに登場する主人公である保育士を目指す実習生と同じ目線で保育実習を英語で体験できるような実在感あふれる授業になっています。先生の幼児への声かけや先生と幼児との会話や日記、実習の心得やエピソードに触れることができるようになっています。マザーグースなど楽しい歌、詩や言葉遊びの活動を通して、多面的に学習に取り組むことによって、保育士や幼稚園教諭を目指すみなさんは、実践的な英語を学んで行きます。					
授業の到達目標: ・様々な場面の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えを理解することができる。 ・様々な場面の英語を読んで、目的に応じて情報や考えを理解することができる。 ・様々な話題について、目的や場面、状況に応じて英語で話すことができる。 ・様々な話題について、目的や場面、状況に応じて英語で書くことができる。 ・複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 ・複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	Introduction of the course, ガイダンス Chapter 1 : Children’s Garden “I Start My First Internship Next Month” こどもの園保育園「来月、実習が始まります」				
2	Chapter 2 : The First Day of the Internship 実習初日「実習生の加藤みえです」				
3	Chapter 3 : Out We Go! さあ、出かけましょう!「いいお天気ね」				
4	Chapter 4 : Splish, Splash バシャバシャ、水しぶき「オリンピック選手みたい」				
5	Chapter 5 : Pancake Day ホットケーキの日「おいしい、おいしい、おいしいよ」				
6	Chapter 6 : Read Me, Tell Me Stories 本を読んで、お話を聞かせて「今日は何のお話し?」				
7	Chapter 7 :Activities with Watermelons すいかで遊ぼう「おなかですいかがが大きくなるよ」				
8	Chapter 8 : Happy Birthay! お誕生日おめでとう「スターが生まれました」				
9	Chapter 9 : Children at Play 子どもと遊び「マークくん、やったー!」				
10	Chapter 10 : Baby News 赤ちゃんニュース「おむつ交換をしてもよろしいですか」				
11	Chapter 11 : The Tooth Fairy 歯の妖精「枕の下にお金を置いてくれるの」				
12	Chapter 12 : The Green-Eyed Witch 緑の目の魔女「どの魔女がどの時計を見たの?」				
13	実習について、英語によるプレゼンテーション①				
14	実習について、英語によるプレゼンテーション②				
15	実習について、英語によるプレゼンテーション③ まとめ				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容: 事前学習は、各チャプターのセクション2.3.4.5.6をCDで聴いておくこと。セクション1.2.3.4.5を考えておくこと。 事後学習は、音声に合わせて何度も話すこと。					
テキスト: Children’s Garden Naoko Akamatsu Seibido Publishing Co., Ltd					
参考文献: 特になし					
学生に対する評価: 授業への参加度:50% プレゼンテーション:50%					

開講年次:1年次秋、2年次春		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名		情報処理			
担当教員		森志保子			
授業概要: 実際の幼稚園行事の流れに沿ってお便り・園だより編集・スライド作成・Web会議・音響機器の扱いを実習し、保育者として必要なパソコンリテラシーと情報リテラシーを学ぶ。					
授業の到達目標: 幼稚園の現場でも日常業務にコンピュータは不可欠な時代になっている。工作上必要なWord・PowerPointの操作を習得し、園だより作成他実務に活かせる応用力を身につけ、業務を効率化して幼児教育現場の質を向上することを目標とする。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	講義ガイダンス・入力テスト・正しいUSBメモリ取外し方 保護者向けお知らせ:文書作成方法① Word基礎				
2	タッチタイピング練習アプリ使用方法 保護者向けお知らせ:文書作成方法② Word応用:両面印刷方法・差し込み印刷				
3	Word応用:「園だより」の作成①				
4	Word応用:「園だより」の作成② 図・写真の挿入				
5	Word応用:「園だより」の作成③ オリジナルのイラストを描く				
6	Word応用:「園だより」の作成④ オリジナルのイラストを描く 印刷設定 印刷 課題提出				
7	発表技術: PowerPoint スライド作成①				
8	PowerPoint スライド作成② 園児の一日表作成				
9	PowerPoint スライド作成③ プレゼンテーション実行 印刷設定 印刷 課題提出				
10	Zoom:Web会議・リモート授業				
11	コミュニケーションツール・著作権・情報リテラシー				
12	音響機器の扱い・利用(マイク・アンプ・スピーカーの原理と使い方)①				
13	総合演習				
14	総合演習・解説				
15	定期試験・解説				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容: まず「入力テスト」を実施し、学生にローマ字入力とタイピングスキルを自己認識してもらい、授業外での練習を促す。入力テストを複数回行い、練習の成果を実感できる。試験問題はお便り+スライド作成のオリジナル問題を作成し、予習復習の徹底を指導することにより、保育現場で活かせる実践力が自然に身につくよう、事前・事後の学習の習慣化を図る。					
テキスト: 阿部正平・阿部和子・二宮祐子著、2018、『保育者のためのパソコン講座 Windows10/Office2016対応版』萌文書林。					
参考文献: 授業中に適宜資料を配布する。					
学生に対する評価: 定期試験結果:60% 授業への取り組み態度40% で総合的に評価					
実務経験のある教員による授業科目:ー					

開講年次:1年次春		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名		キリスト教概論			
担当教員		貴田 直樹			
授業概要: 聖書を中心に授業をすすめる。また、キリスト教全体についての幅広い内容を網羅するために教科書を使用する。礼拝への出席など積極的な参加を大切にする。					
授業の到達目標: 学校独自の科目として、本校の精神であるキリスト教についての基本的な知識を養う。また、キリスト教についての知識を深める中で、教育基本法第2条に掲げられる目標に対する理解をも深める。すなわち1. 豊かな情操と道徳心、2. 個人の価値の尊重、3. 正義と責任、4. 生命を尊ぶこと、5. 伝統と文化への尊重、などを聖書及びキリスト教思想を通して培う。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	草苑保育専門学校とキリスト教、及び礼拝・祈り・聖書について				
2	旧約聖書①旧約聖書の構成、天地創造の物語				
3	旧約聖書②族長物語				
4	旧約聖書③モーセ物語				
5	旧約聖書④律法・十戒について				
6	旧約聖書⑤王国時代				
7	旧約聖書⑥旧約聖書の歴史、預言者の働き				
8	新約聖書①新約聖書の構成、イエスの誕生				
9	新約聖書②イエスの歩み、たとえ話Ⅰ				
10	新約聖書③イエスの時代の社会状況、たとえ話Ⅱ				
11	新約聖書④たとえ話Ⅲ				
12	新約聖書⑤イエスの教えその他、イエスの死と復活				
13	新約聖書⑥使徒たちの働き、教会の誕生				
14	キリスト教の展開と信仰				
15	聖書における人間観				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容: 事前学習としては、指定した聖書箇所を読んで授業に備えておくこと。 事後学習としては、ノートを確認し、登場人物や出来事などを整理しておくこと。					
テキスト: (1)聖書 (2)キリスト教学校教育同盟編, 2015,『キリスト教入門』創元社。 (3)落合建仁・小室尚子, 2014,『聖書入門』日本キリスト教団出版局。					
参考文献: 特になし。					
学生に対する評価: (1)定期試験:70% (2)課題・演習:10% (3)礼拝・修養会・クリスマス礼拝:20%					
実務経験のある教員による授業科目: キリスト教の牧師として、日々老若男女と接し教えている経験を通して、年齢や人生経験などを考慮しながら教授する。また、冠婚葬祭を執行する中で「人間」について感じたことを生きた経験として紹介し、保育士としての人間理解を深める。					

開講年次：1年次春		必修	単位数：2	時間数：30	授業形態：講義
科目名	保育原理				
担当教員	鯛谷 和代				
授業概要： ・ 保育の理念・概念及び保育・教育制度並びに歴史・思想を理解する ・ 保育・教育を成立させる諸要因とそれら相互の関係を理解する。					
授業の到達目標： ・ 保育・教育の基本的概念や幼児教育の重要性および保育の構成原理、保育実践を理解している。 ・ 保育・教育の歴史及び思想を理解している。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	保育の理念と概念　～なぜ保育という言葉が生まれたのか～				
2	保育対象としての子ども				
3	養護と教育の一体性とは				
4	子どもはどのような場面でどのように育つのか				
5	発達過程に応じた保育　～なぜ子どもの発達理解は大切なのか～				
6	人格を形成するものとは何か				
7	乳幼児期の教育の重要性				
8	就学前教育・保育の基準　～なぜ指針・要領が必要なのか～				
9	育みたい資質・能力及び五領域と育ってほしい姿				
10	保育実践の構成原理　～なぜ保育実践が成り立つのか～				
11	保育のねらいと内容、遊びと環境構成				
12	保育の計画と評価　（１）保育実践のPDCAサイクル （２）保育計画の作成				
13	諸外国の教育の思想と歴史　～なぜフレーベルは幼稚園を作ったのか～				
14	日本の教育の思想と歴史				
15	保育の現状と課題　～なぜ幼児教育の施設に地域の人が来るのか～				
	定期試験期間における試験：　実施する				
事前・事後学習の内容： 事前、事後の「題」について自問自答し、問答歌風にして、考える力に磨きをかけ学びを深めていく。					
テキスト： 池田隆英・石田裕子他編著，2018，『なぜからはじめる「保育原理」〔第2版〕』建帛社。 鯛谷和代編，2023『「保育原理」覚書』草苑保育専門学校総合企画室発行。					
参考文献： 保育六法・最新保育資料集・保育所保育指針解説書・幼稚園教育要領解説・認定こども園教育保育要領解説					
学生に対する評価： 定期試験70％、提出物20％、授業態度10％					
実務経験のある教員による授業科目： 元幼稚園園長、他大学講義・保育課程論・5領域（環境・表現・人間関係）等、現幼稚園教諭新規採用教員研修会講師、保育実践研究協議会指導助言、幼稚園保護者対象講演等、学校法人（2学園）、社会福祉法人（2法人）　評議員・苦情解決 第三者委員					

開講年次:1年次春		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名		教育原理			
担当教員		中村 早苗			
授業概要:					
教育に関する普遍的な理念および思想や歴史に関する基本的事項について理解する。その上で、保育者として教育についての基礎的な学びを深め、さらに、現代の子育てや子どもを取り巻くさまざまな問題に目を向ける。授業で学んだ内容について学習を深め、その理解を確認するために期末試験を行う。					
授業の到達目標:					
教育は人間社会に固有の営みであり、人間が誕生し大人へと成長していく過程において、社会の一員として、自ら思考し判断することのできる人間を形成することである。人間の発達および人格形成において重要な役割を担う保育者となるために、教育の基本的概念を理解し、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、どのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	授業オリエンテーション ★小レポート①「授業アンケート1」 教育とは何か 1. 人間への問いと教育への問い				
2	教育とは何か 2. 学ぶことと教えること				
3	教育とは何か 3. 発達への助成的介入				
4	教育とは何か 4. 教育と教化と形成				
5	学校とは何か(1) 1. 学校の登場(学校や学習に関わる教育の思想)				
6	学校とは何か(1) 2. 近代学校の性格(代表的な教育家の思想)				
7	学校とは何か(2) 1. 近代以前の日本の学校				
8	学校とは何か(2) 2. 日本の「近代化」と学校教育(家庭や子どもに対する教育の思想)				
9	学校とは何か(2) 3. 新たな出発、その後の展開				
10	日本における保育施設の誕生と成立				
11	自校史教育(草苑保育専門学校の歴史) 期末試験の課題について復習する①				
12	家庭の教育力と母性(3歳児神話、母性愛神話について考える) 期末試験の課題について復習する②				
13	授業の可能性・学校の可能性(フィンランドの教育について学ぶ)★小レポート②				
14	教育への権利と「子どもの権利条約」(グループワークの話し合いを通して考える)★小レポート③				
15	よりよい教育を求めて 現代の教育問題について考える(スマートフォンの普及、保護者への対応) ★小レポート④「授業アンケート2」				
	定期試験期間における試験: 実施する				
事前・事後学習の内容:					
(1)授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。授業時、各自プリントに必要事項を記入し、ファイリングすることで各自の授業ノートを作成して復習に役立てる。					
(2)必要に応じて授業内容を補足する参考文献のコピーを配布し、復習に活用する。					
(3)4回の小レポートの記入を通して自分の学びについて振り返る。					
(4)これまでの学びの中から期末試験の課題について復習する。					
テキスト:					
田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二, 2016, 『やさしい教育原理 第3版』有斐閣アルマ。					
参考文献:					
(1)小澤周三編, 2010, 『教育学キーワード 第3版』有斐閣。					
(2)新井郁男・牧昌見編著, 池内耕作・岡崎友典・西村史子, 2011, 『教育学基礎資料 第六版』樹村房。					
学生に対する評価:					
(1)授業時の小レポート:10%					
(2)授業ノートの作成および提出:10%					
(3)期末試験:80%					
実務経験のある教員による授業科目:ー					

開講年次:1年次春		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名		子ども家庭福祉			
担当教員		永井 亮			
授業概要:まず、毎授業で報道機関の特集記事や講師の社会福祉実践などの事例から、現在の人間社会で「児童・家庭」が直面する諸問題、その「非常に厳しい現実」をありのまま受け止めて、同情ではなく「共感的理解」を試みる。次に保育士による福祉の現場での援助に必要な各法律・制度・政策、相談援助体制の専門知識を習得する。その上で保育士として児童・家庭をめぐる諸問題の解決方法を探求する。なお、保育士は児童・家庭分野だけではなく、成人の分野でも活躍しているので、本授業では「女性保護」と「障害者福祉」も扱う。本科目は【課題解決型】の授業である。					
授業の到達目標:					
①児童と家庭をめぐる社会変動を理解できる。 ②「幸せ」を意味する「福祉」の対象者の「こころ」を共感的に理解できる。 ③児童と家庭、女性、障害者の福祉に関する法律・制度・政策・相談援助体制と「児童の権利」について暗記・理解できる。 ④学習内容について「課題解決型」の思考で考察を論述することができる。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	児童の権利を護るための法律 児童の権利に関する条約 / 児童福祉法 / 児童憲章 / 全国保育士会倫理綱領				
2	児童・家庭福祉の実際(1) いじめ / 自殺 / 不登校 / 性被害～児童を性被害から護るための法律(児童買春・児童ポルノ禁止法)				
3	児童・家庭福祉の実際(2) ひとり親家庭 / ヤングケアラー / 子どもの貧困 / 外国籍の子ども / 子どもの貧困対策への法律や地域での援助活動				
4	児童・家庭福祉の実際(3) 児童虐待① 児童を虐待から護るための法律(児童虐待の防止等に関する法律 / 児童福祉法 / 民法)				
5	児童・家庭福祉の実際(4) 児童虐待② 被虐待児の心理と行動特性				
6	児童・家庭福祉の実際(5) 児童虐待③ 虐待の世代間連鎖 / 代理によるミュンヒハウゼン症候群 / 虐待予防のための母子保健(母子保健法)				
7	児童・家庭福祉の実際(6) 児童虐待④ 児童相談所の虐待対応 / 社会福祉施設の被虐待児への援助(児童養護施設・乳児院・児童心理治療施設)				
8	児童・家庭福祉の実際(7) 死別を体験した子どもたち ～グリーフケア、グリーフワーク～				
9	児童・家庭福祉の実際(8) 少年非行① 少年非行に関する法律(少年法・児童福祉法)/ 少年非行の現状と原因 / 少年審判の流れ / 保護処分				
10	児童・家庭福祉の実際(9) 少年非行② 非行少年の心理と行動特性 / 社会福祉施設での援助(児童自立支援施設)/ 少年院での矯正教育				
11	女性福祉 DV(ドメスティックバイオレンス)/ 内密出産 / 行政の相談援助機関(配偶者暴力相談支援センター / 婦人相談所) 社会福祉施設のDV被害者への援助(母子生活支援施設 / 助産施設)				
12	障害福祉(1) 身体障害・知的障害・精神障害・発達障害 / 行政の相談援助機関(精神保健福祉センター / 障害者更生相談所) 社会福祉施設での援助(障害児入所施設 / 児童発達支援センター / 障害者支援施設)				
13	障害福祉(2) 障害児・障害者の権利を護るための法律(障害者基本法 / 障害者権利条約 / 障害者虐待防止法 / 障害者差別解消法)				
14	児童福祉の先駆者たち 聖徳太子 → 石井十次、石井亮一、留岡幸助、野口幽香 → 糸賀一雄				
15	授業内定期試験				
	定期試験期間における試験: 実施しない				
事前・事後学習の内容:					
事前学習:①毎日、新聞、テレビ、ネット、などで「人間社会の諸問題」に関する様々な記事を読み、関心を深めておく。 ②事前に配布する授業資料をもとに、次週授業の予習をしておく。					
事後学習:毎授業の復習をする。 ※授業資料をとじるファイルを用意すること。資料はA3判両面印刷になっている。					
テキスト:					
波田瑛英治・辰巳隆編, 2022,『新版 保育士をめざす人の子ども家庭福祉』株式会社みらい。					
参考文献: 山縣文治, 2021,『保育者のための子ども虐待Q&A-予防のために知っておきたいことー』株式会社みらい。					
学生に対する評価:					
①受講姿勢・リアクションペーパー:30% ②定期試験(第15回目の授業内定期試験):70%					
実務経験のある教員による授業科目					
児童養護施設の児童指導員、精神保健福祉センターの思春期専門ソーシャルワーカーとしての勤務を経て、大学・短期大学で社会福祉士・保育士の養成に携わっている。他に、国際協力活動、子ども食堂も行っている。自ら実践した施設養護や精神保健福祉の相談援助、貧困国の子どもたち、などの事例やエピソードも紹介し、「人間と環境との相互作用」の視点から講義をする。社会福祉士。					

開講年次:1年次春		選択・必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名		子ども家庭福祉			
担当教員		森脇 晋			
授業概要: 近年、子育てをめぐる地域や家庭の状況は変化し、核家族化の進展や地域のつながりの希薄化から、日々の子育てに対する助言、支援や協力を得ることが困難な状況になっており、子育ての負担や不安、孤立感の高まりの中で、児童虐待や子どもの貧困などが大きな社会的問題になっている。そこで、本科目では、「子どもの最善の利益」を守る保育者に必要な、子どもとその家庭の理解、子育て家庭への支援に関する基本的事項を網羅的に学んでもらう。					
授業の到達目標: ① 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 ② 子どもの人権擁護について理解する。 ③ 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 ④ 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 ⑤ 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	・オリエンテーション ・子ども家庭福祉・子どもの人権擁護（教科書P12～34）				
2	・子ども家庭福祉の歴史（教科書P36～60） ・石井十次に関する動画視聴				
3	・子ども家庭福祉の制度と法律（教科書P62～82） ・留岡幸助に関する動画視聴				
4	・子ども家庭福祉を実施する機関と施設（教科書P84～101） ・乳児院に関する動画視聴				
5	・児童福祉施設の現状と専門職（教科書P102～108） ・児童養護施設に関する動画視聴				
6	・児童福祉施設の課題と将来像（第5回講義において事前学習情報の提供あり） ・障害児施設に関する動画視聴				
7	・第1回～6回までの振り返り・補足説明 ・授業内試験(試験範囲:第1回～6回)				
8	・少子化と子育て家庭へのサービス（教科書P110～136） ・子育て支援に関する動画視聴				
9	・地域の子育て支援サービス（教科書P138～147） ・地域子育て支援に関する討議				
10	・児童虐待・DV・社会的養護（教科書P148～153） ・母子生活支援施設に関する動画視聴				
11	・障害児の福祉(教科書P154～163) ・社会的養護施設の運営指針に関して				
12	・子育て支援と子どもに関する諸課題（教科書P164～177） ・子ども食堂・ヤングケアラーに関する討議				
13	・地域における連携・協働とネットワーク（教科書P180～204） ・要保護児童対策地域協議会の事例				
14	・子ども家庭福祉のためのアセスメント（第13回講義において事前学習情報の提供あり） ・子どもを支えるためのストレスマネジメント・アンガーマネジメント				
15	・第8回～14回までの振り返り・補足説明 ・授業内試験(試験範囲:第8回～14回)				
	定期試験期間における試験：実施する				
事前・事後学習の内容: 事前学習:各単元に該当する教科書の章を読んでおくこと。該当する章がない授業コマに関しては、予め指示する資料を読んでおくこと。 事後学習:授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(第2回以降は、授業開始時に前講の振り返りテストを行う。)					
テキスト: 直島正樹・河野清志 編著, 2019,『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』萌文書林。					
参考文献: 垣内国光・岩田美香・板倉香子・新藤こずえ 編, 2020,『子ども家庭福祉-子ども・家族・社会をどうとらえるか』生活書院。 吉田幸恵・山縣文治 編著, 2019,『新版よくわかる子ども家庭福祉』ミネルバ書房。					
学生に対する評価: 定期試験70％、授業内試験15％、提出物15％					
実務経験のある教員による授業科目 児童福祉施設における施設長の経験等を生かして、具体的な事例も織り交ぜたり、動画視聴をしてもらいながら、自ら考える授業を試行する。					

開講年次:1年次春		選択・必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名	社会福祉				
担当教員	堀江 久子				
授業概要:					
社会福祉に興味がもてるように、制度等を分かりやすく解説する。 グループワークやゲストスピーカーの講義を取り入れて、社会福祉の基礎への理解を深める。					
授業の到達目標:					
1 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3 社会福祉における相談援助について理解する。 4 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5 社会福祉の動向と課題について理解する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	ライフコースと社会福祉 自分達の生活と社会福祉がどのようにかかわっているかについて学ぶ。 現代社会の生活問題と社会福祉 拡大する格差、子育て問題等について考える。				
2	社会福祉の歴史的変遷と理念 イギリス、アメリカ、日本の社会福祉の変遷について学ぶ。理念については、事例を交えて説明する。				
3	社会福祉行政と実施体系 行政機関の役割と実施体系、具体的サービスを提供する社会福祉施設について学ぶ。				
4	社会福祉と社会保障の制度 社会福祉の制度や社会保障について学ぶと共に生活保護をめぐる議論について考える。				
5	社会福祉の専門職 社会福祉の専門職及び社会福祉を支える民生委員、里親等についても学ぶ。				
6	社会福祉行政と実施体系・社会保障の制度・社会福祉の専門職 ＊3～5回で学んだ社会福祉制度、実施機関の活用について事例を通じて考える。				
7	共生社会の実現と障害者施策 ゲストスピーカー「障害のある保護者の立場から」授業				
8	共生社会の実現と障害者施策 ゲストスピーカーの発言を振り返りながら、ノーマライゼーション等の理念を考え、国際生活能分類等を学ぶ。				
9	子ども家庭福祉と社会福祉 家庭支援の重要性や児童の権利に関する最近の施策等について学ぶ。				
10	少子高齢社会と子育て支援 少子高齢社会の現状と子育て支援策について学ぶ。グループワークを通じて、新たな子育て支援策について自分達なりに考える。				
11	社会福祉における相談援助 相談援助の理論、方法や技術について学ぶ。				
12	社会福祉における相談援助 11回で学んだ相談援助の方法や技術をロールプレイングで経験して、理解する。				
13	社会福祉における利用者保護にかかわるしくみ 主に保育所等における情報提供、第三者サービス評価、苦情解決のしくみについて学ぶ。				
14	社会福祉の動向と課題 地域福祉の理念である福祉コミュニティについて学び。ゲストスピーカーの「地域での居場所づくり」を聞き、地域福祉について考える。				
15	社会福祉の動向 ポストコロナ後の社会福祉の動向について考える。 まとめ				
定期試験期間における試験: 実施する					
事前・事後学習の内容:					
社会問題や事件について、社会福祉の観点から関心を持ち、考えること。 毎回、資料を配布するのでフォルダーを用意すること。					
テキスト:					
一瀬早百合, 2022, 『社会福祉とわたしたち』萌文書林。					
参考文献:					
随時紹介する。					
学生に対する評価:					
定期試験 80% 受講態度 20%					
実務経験のある教員による授業科目					
医療型障害児入所施設等でのソーシャルワーカー、社会福祉士の経験を活かしての講義					

開講年次:2年次秋		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名		子ども家庭支援論			
担当教員		小玉 絹江			
1.子育て家庭を取り巻く問題を捉え、子ども家庭の意義と必要性を理解する。 2.子ども家庭に対する具体的な支援方法を考え、事例検討やグループワークを通して現場に即した実践力を身につける。 3.ソーシャルワークの視点も含み、子ども家庭支援に関する知識と支援の専門性を学ぶ。					
授業の到達目標: 1.子育てをしている家庭のニーズに応じた多様な支援の意義や保育士等の役割について理解する。 2.ソーシャルワークの視点と子ども家庭支援への援助の基本を学び、保育者としてできる支援・アプローチについて理解する。 3.子育て家庭への支援に関する連携のありようについて事例を基に理解する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	オリエンテーション 子どもの育ちにおける家庭と役割・現代家庭の課題から、子ども家庭支援の意義と必要性について考える。				
2	子ども家庭支援の目的と機能 子ども家庭支援の基礎・現代における家庭の機能や子ども家庭支援における保育者の役割について考える。				
3	保育士による子ども家庭支援の意義と基本 I 保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義について考える。				
4	保育士による子ども家庭支援の意義と基本 II 子どもの育ちの喜びの共有について考える。				
5	保育士による子ども家庭支援の意義と基本 III 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援について考える。				
6	保育士による子ども家庭支援の意義と基本 IV 保育士に求められる基本的態度(受容的関り・自己決定の尊重・秘密保持等)について考える。				
7	保育士による子ども家庭支援の意義と基本 V 家庭の状況に応じた支援を考える。				
8	保育士による子ども家庭支援の意義と基本 VI 地域資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力を考える。				
9	子育て家庭に対する支援の体制 I 子育て家庭の福祉を図るための社会資源について考える。				
10	子育て家庭に対する支援の体制 II 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進について考える。				
11	多様な支援の展開と関係機関との連携 I 子ども家庭支援の内容及対象について考える。				
12	多様な支援の展開と関係機関との連携 II 保育所等を利用する子ども家庭への支援の実際を考える。				
13	多様な支援の展開と関係機関との連携 III 地域の子育て家庭への支援について考える。				
14	多様な支援の展開と関係機関との連携 IV 要保護児童等及びその家庭に対する支援について考える。				
15	まとめ 子ども家庭支援に関する現状と課題を考える。				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容: 子ども家庭支援についての基礎知識や、具体的支援に活用できる内容を把握できているか「把握シート」提出により確認する。 また、次回講義内容について予告した教科書の該当するカ所を一読して授業に臨むこと。 更に、配布したクリアファイルに資料などをファイリングして情報を整理すること。					
テキスト: 守功編著, 2021,『子ども家庭支援論～保育の専門性を子育て家庭の支援に生かす～』萌文書林。 一般社団法人全国保育士養成協議会監修,『ひと目でわかる保育者のための子ども家庭福祉データブック2022』中央法規出版。					
参考文献: 松本園子・永田陽子他著, 2019,『実践子ども家庭支援論』ななみ書房。 その都度資料配付あり					
学生に対する評価: 定期試験:70%、授業姿勢・提出物:30%					
実務経験のある教員による授業科目: 公立中、高校生センター所長・教育委員会特別支援・子ども女性相談ワーカーの経験を活かし実践的講義内容を行っていく。					

開講年次:1年次秋		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名		社会的養護Ⅰ			
担当教員		関 博之			
授業概要:社会的養護の主たる支援者は保育士です。しかし、保育士を目指すみなさんでも社会的養護のことをよく知らない方が多いのではないかと思います。まずは、現在の社会的養護を要する子どもの実情と、その子どもたちにどのような支援が行われ、そこで保育士がどのような役割を担っているのか、概要をつかめるようにします。さらに、支援の裏付けとなっている歴史的背景や、理念、法体系にも触れ、社会的養護に対する理解を深めたいと思います。					
授業は、テキストを中心に展開しますが、随時、時事的トピックスや実践例を織り込み、なるべくみなさんが社会的養護の現場をリアルにイメージできるようにし、社会的養護Ⅱの授業や実習に向けての関心を高めることができるように努めます。					
授業の到達目標:					
・社会的養護を要する子どもの実情を、まずは知る					
・社会的養護の支援機関にどのようなものがあるか、それぞれの特徴を知る					
・こどもの人権と社会的養護の関係性について、学ぶ					
・社会的養護の現場で、保育士として目指すべきことをイメージできるようにする					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	「社会的養護」の基本的理解				
2	こどもを取り巻く現代社会の状況とこどもの権利①				
3	こどもを取り巻く現代社会の状況とこどもの権利②				
4	施設養護と家庭養護				
5	社会的養護にかかわる機関				
6	社会的養護にかかわる法律				
7	措置による施設				
8	利用・契約を基本とする施設				
9	日本および海外の社会的養護の歴史				
10	社会的養護に携わる人々				
11	施設養護の支援内容				
12	ソーシャルワークと家族再統合				
13	里親制度				
14	児童福祉施設の運営管理				
15	社会的養護と地域福祉				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容:					
普段から、社会的養護、こどもの人権に関する情報を得るようにしてください。					
テキスト:					
原田旬哉・杉山宗尚編, 2018, 『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ』萌文書林。					
参考文献:					
適宜お伝えします。					
学生の皆さんから寄せられる時事的トピックスの情報も、積極的に活用させていただきます。					
学生に対する評価:					
定期試験:60点 受講情況:40点					
実務経験のある教員による授業科目:					
社会的養護の現場での勤務経験は長く、そこで得た知見は積極的に伝えていきたいと思っています。しかし、社会的養護に関連する法制度もめまぐるしく変わってきており、その新たな情報については、学生の皆さんと共に敏感にキャッチし、授業で共有し合っていきたいと思っています。					

開講年次:1年次秋		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名		保育者論			
担当教員		鯛谷 和代			
授業概要: ・教職の意義及び教員の役割・職務内容を理解する。 ・幼児教育施設の役割が拡大・多様化する中で専門家等と連携・協働して対応する必要性について理解する。					
授業の到達目標: ・公教育の目的とその担い手である教員の存在意義と職業的特徴を理解している。 ・倫理観と実践知を持ち、一人一人の特性に応じた判断ができる保育者としての資質・能力を身に付ける。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	教職の意義と使命				
2	保育者論概要				
3	保育者の立場				
4	養護と教育の一体的展開				
5	幼稚園教諭の仕事と役割　～幼稚園教諭になるということ～				
6	保育士の仕事と役割　～保育士になるには～				
7	保育士の仕事と役割　～子どもの保育に関する役割～				
8	保育士の仕事と役割　～保護者支援に関する役割～				
9	保育者の連携・協働(チーム運営の対応)				
10	幼稚園・認定こども園・保育所での一日				
11	計画に基づく保育の実践と省察・評価				
12	保育者の専門性　～保育者の倫理観と知識・技術と判断力～				
13	保育者の専門性　～保育の営みの中で必要とされる専門性～				
14	保育者の本質「教育愛」				
15	これからの保育者に求められる多様な役割				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容: 事前・事後の「題」について自問自答し問答歌風にして考える力に磨きをかけ学びを深めていく。					
テキスト: 浅見均・田中正浩, 2019,『改訂版/幼稚園教諭・保育士のための現代保育者論』大学図書出版。 鯛谷和代編, 2023,『「保育者論」覚書』草苑保育専門学校総合企画室。					
参考文献: 保育六法・最新保育資料集・保育所保育指針解説書・幼稚園教育要領解説・認定こども園教育保育要領解説					
学生に対する評価: 定期試験70%、提出物20%、授業態度10%					
実務経験のある教員による授業科目: 元幼稚園園長、他大学講義・保育課程論・5領域(環境・表現・人間関係)等、現幼稚園教諭新規採用教員研修会講師、保育実践研究協議会指導助言、幼稚園保護者対象講演等、学校法人(2学園)、社会福祉法人(2)法人 評議員・苦情解決 第三者委員					

開講年次：2年次秋		必修	単位数：2	時間数：30	授業形態：講義
科目名		地域福祉			
担当教員		影山 幸子			
授業概要： 地域での暮らしを基軸とした地域福祉の意義を理解し、地域福祉に対して見通しを持った学習となるような授業内容とする。授業形態は、講義と演習で、個人ワークやグループワークを取り入れ、学生が主体的で協働的な授業参加が出来る様に工夫をする。また社会福祉協議会（外部講師）の事例報告を通して、地域の課題を身近な問題として捉えることが出来るような授業展開をしたい。					
授業の到達目標： (1) 地域福祉の概要について理解し、地域に興味や関心が持てるようになる。 (2) 地域福祉の問題を自らの問題として捉え、保育士として何ができるのかを考える機会とする。 (3) 地域の社会資源について学び、調査や活用ができるようになる。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	オリエンテーション 地域福祉について概要を捉える。				
2	学生自身の住んでいる地域 自身の住んでいる地域の環境や、人々の暮らし振りについて理解し、興味や関心を持つきっかけとする。				
3	町内会・自治会活動 自身の住んでいる町内会・自治会活動についての調査を通して、その活動や役割を理解する。				
4	地域福祉関連の用語 地域福祉関連の用語について理解し活用できるようになる。				
5	ボランティア活動（地域、国内外） ボランティアについて学び、関心が持てるようになる。				
6	民生委員・児童委員 民生委員・児童委員の活動や役割について学び、保育士の活動と関連付け、何ができるのかを考えてみる。				
7	地域の防災 自身が住んでいる地域の防災活動についての調査を通して、防災意識を高める。				
8	社会福祉協議会 社会福祉協議会の役割や活動について学び、自身の活動に関連づけてみる。				
9	社会福祉協議会（外部講師） コミュニティソーシャルワーカーの活動内容や事例報告を通して、理解を深める。				
10	地域福祉演習 地域活動について事例の演習を通して、地域の身近な問題解決の方法を探る。				
11	地域の社会資源 地域の社会資源について理解し、調査や活用方法について学ぶ。				
12	地域福祉における、保育士の役割 地域福祉における、保育士の役割とは何かを考えてみる。				
13	グループ演習（1） 地域の身近な課題についてとりあげ、その解決策についてグループワークを通して探る。				
14	グループ演習（2） 地域の身近な課題と解決策について、まとめとプレゼンテーション用資料を作成する。				
15	グループ演習（3） 地域の身近な課題と解決策についてまとめを発表する。本講義のまとめ				
	定期試験期間における試験：実施しない				
事前・事後学習の内容： ・学生自身が住んでいる町会・自治会活動や防災活動の調査をして、ワークシートにまとめる。 ・授業終了後は、随時「地域福祉を学ぶノート」（A5判ワークシート）に授業内容を整理・記載し保存する。 ・テキストは用いないが、配布資料やワークシート等を綴ったファイルをテキスト代わりとして、予習・復習に役立てる。					
テキスト： 適宜資料等配布する。					
参考文献： ① 新地域支援構想会議編，2022，『助け合いによる生活支援を広げるために』全国社会福祉協議会， ② 小林保子・駒井美智子・河合高鋭編著，2017，『子どもの育ち合いを支えるインクルーシブ保育』大学図書出版。 ③ 上野谷加代子・松端克文・永田祐編著，2019，『新版 よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房。					
学生に対する評価： (1) 受講姿勢：50％（授業に取り組む姿勢、課題レポート提出状況等） (2) 課題発表：50％（グループワークへの取組状況、討議内容、プレゼンテーション資料内容等）					
実務経験のある教員による授業科目： 地域福祉の要の施設である「区民ひろば」での在職経験がある。業務内容は、世代間交流、子育て支援、高齢者の介護予防健康活動支援事業等の実践である。また、区民との協働の地域イベントや地域課題解決への取組も実践して来た。そこで学んだことを授業の中で活用して、地域課題を身近な問題として捉え解決していくための視点について指導する。					

開講年次:2年次秋		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名	地域福祉				
担当教員	小泉 久子				
授業概要: 地域福祉とは何か、基礎知識についての講義を行うとともに、具体的事例をイメージし、自分で考える力を向上できるように学習を進める。新聞記事などの報道資料、映像や写真を使った具体的事例の紹介、個人ワークやグループワークを取り入れ、学生が主体的で協働的な授業参加が出来る様に工夫をする。地域の問題を身近な問題として捉えることが出来るような授業展開としたい。					
授業の到達目標: (1)地域福祉の概要について理解し、地域に興味や関心が持てるようになる。 (2)地域福祉の問題を自らの問題として捉え、保育士として何が出来るのかを考える機会とする。 (3)地域の社会資源を理解し、調査や活用ができるようになる。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	オリエンテーション・地域福祉について概要を捉える。				
2	学生自身の住んでいる地域の環境や、人々の暮らし振りについて理解し、興味や関心を持つきっかけとする。				
3	自身が住んでいる町会・自治会活動についての調査を通して、その活動や役割を理解する。				
4	地域福祉関連の用語について学ぶ。				
5	地域福祉の発展について学び、関心が持てるようになる。				
6	地域福祉の政策展開について学び、関心が持てるようになる。				
7	自身が住んでいる地域の防災活動についての調査を通して、防災意識を高める。				
8	社会福祉協議会の役割や活動について学ぶ。活動や役割を理解する。				
9	社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカーの活動内容や事例報告を通して、理解を深める。				
10	地域活動について事例の演習を通して、地域の身近な問題解決の方法を考える。				
11	地域の社会資源について学ぶ。				
12	子どもと地域福祉について学ぶ。スクールソーシャルワーカーの活動内容や事例を通して理解を深める。保育士の役割について学ぶ。				
13	地域の身近な課題について抽出し、その解決策についてグループワークを通して探る。				
14	地域の身近な課題と解決策について、まとめとプレゼンテーション用資料を作成する。				
15	・地域の身近な課題と解決策についてのまとめを発表する。 ・本講義のまとめ				
	定期試験期間における試験：実施しない				
事前・事後学習の内容: ・事前学修:シラバスのテーマを事前に学習する。 ・事後学修:配布資料やワークシート等を綴ったファイルを整理・記載し保存する。 ・学生自身が住んでいる町会・自治会活動や防災活動の調査をして、ワークシートにまとめる。					
テキスト:上野谷加代子・松端克文・永田祐編著、2019、『新版 よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房					
参考文献: ①新地域支援構想会議編、2019、『助け合いによる生活支援を広げるために』全国社会福祉協議会。 ②太田俊己、広瀬由紀編著、2020、『気になる子、障がいのある子、すべての子が輝くインクルーシブ保育』学研教育みらい。 ③横山北斗著書、2022、『15歳からの社会保障 人生のピンチに備えて知っておこう!』日本評論社。					
学生に対する評価: (1)受講姿勢:50%(授業に取り組む姿勢、課題レポート提出状況等) (2)課題発表:50%(グループワークへの取組状況、討議内容、プレゼンテーション資料内容等)					
実務経験のある教員による授業科目: 市民協働・男女参画推進課・女性相談室のリーダーとして14年在職中。小学生～高校生までのスクールソーシャルワーカーとして8年の在職経験。DV被害者支援・子育て支援・LGBT相談・不登校・ひきこもり・居場所・生活困窮者支援など、地域課題解決への取組も実践。そこで学んだことを授業の中で活用して、地域課題を身近な問題として捉え、解決していくための視点について指導する。					

開講年次:1年次春		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名		保育の心理学			
担当教員		小沢 恵美子			
授業概要: 保育所にいる乳幼児期を中心とした子どもの発達の様子を学習する。学習によって得た発達に関する心理学の知見に基づき、養護と教育の一体性をふまえた関りや援助について考えていく。また、今までの自分の経験と心理学の内容を関連させて、子どもの行動や人間の発達についての理解を深める。					
授業の到達目標: 子どもの発達に関する心理学の基本的知識を学び、子どもの発達について説明できる。 自分が保育者としてかわかることを考えながら、子どもの発達に関する理解を深める 保育の心理学の知見、理論をふまえ、保育における人との相互的関りや体験、環境について理解する。 授業で学んだ内容と自分自身の経験を結びつけて考え、人間の発達についての理解を深める。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	ガイダンス、子どもの発達と環境				
2	情緒の発達				
3	自我の発達				
4	愛着の形成				
5	愛着行動と愛着の発達				
6	社会的相互作用				
7	認知の発達①				
8	認知の発達②				
9	認知の発達③				
10	コミュニケーションの発達				
11	乳幼児期の学びに関わる理論				
12	動機づけ				
13	発達障がいについて①				
14	発達障がいについて②				
15	児童期以降の発達について				
	定期試験期間における試験：実施する				
事前・事後学習の内容: 事前学習:授業範囲となるテキスト部分を読んでおく。 事後学習:授業時に理解できなかった部分をテキストや配布プリントで確認して、理解を深める。					
テキスト: 井戸ゆかり編著、2019、『保育の心理学 実践につなげる、子どもの発達理解』萌文書林。					
参考文献: 必要に応じて授業内で紹介する。					
学生に対する評価: 授業への取り組みやリアクションペーパー(20%)、レポート(30%)、定期試験(50%)					
実務経験のある教員による授業科目：－					

開講年次:1年次春		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名		子ども家庭支援の心理学			
担当教員		長田 美穂			
授業概要:					
(1) 乳幼児期から高齢期の発達の特徴を捉え、子どもが育つ場としての家庭と保育・教育の場から初期経験の重要性を理解する。					
(2) 家庭の意義と機能を理解し、子育て家庭を取り巻く社会状況を考察する。育児不安の支援をはじめとする多様な子育て家庭への支援及び特別な配慮を必要とする家庭への支援を学ぶ。					
(3) 子どもの心と健康の関連から幼児期・学童期にみられる主な精神保健の課題について理解する。					
授業の到達目標:					
(1) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解し、説明できるようになる。					
(2) 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を習得する。					
(3) 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解し、説明できるようになる。					
(4) 子どもの精神保健とその課題について理解し、説明できるようになる。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	乳児期の発達特徴				
2	幼児期の発達特徴				
3	学童期の発達特徴				
4	思春期から青年期の発達特徴				
5	成人期から高齢期の発達特徴				
6	家族システムと家族発達				
7	親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達				
8	子育て環境の社会的状況の変化				
9	子育て期のワークライフ・バランス				
10	多様な子育て家庭への支援 育児不安サポート				
11	特別な配慮を必要とする家庭への支援				
12	子どもの心と健康				
13	障害のある子どもの理解と対応				
14	災害と子ども				
15	まとめ				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容:					
授業で扱える内容には限りがあるので、各自教科書以外にも参考書などで積極的に学びを深めることや、子どもおよび子育て家庭を取り巻く問題について、新聞等で取り上げられている内容について自分で調べて授業内容と関連づけていくことが望まれる。授業では振り返りを兼ねた、アクティブラーニングを重視したワークを行い、提出する課題は授業内容を振り返りながら、理解の定着を図ることを目的とする。またグループワークについては、総合的に取り組む姿勢を重視する。					
テキスト:					
本郷一夫, 神谷哲司編, 2019,『子ども家庭支援の心理学』建帛社。					
参考文献:					
随時、授業内でプリント配布。					
学生に対する評価:					
(1) 定期試験 60%					
(2) 受講姿勢 40% (授業への取り組み20、提出物20)					
実務経験のある教員による授業科目:					
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを兼務し、幼保小中高の教職員、保護者、生徒、地域への講演・講話・研修を多数行ってきた経験を活かして、対人援助職として相談を進める際に必要な知識と技能をもとにカウンセリング、コンサルテーションに関する演習・グループワークを行う。					

開講年次:1年次春		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名		子ども家庭支援の心理学			
担当教員		前川 洋子			
授業概要:					
(1) 乳幼児期から高齢期の発達の特徴を捉え、子どもが育つ場としての家庭と保育・教育の場から初期経験の重要性を理解する。					
(2) 家庭の意義と機能を理解し、子育て家庭を取り巻く社会状況を考察する。育児不安の支援をはじめとする多様な子育て家庭への支援及び特別な配慮を必要とする家庭への支援を学ぶ。					
(3) 子どもの心と健康の関連から幼児期・学童期にみられる主な精神保健の課題について理解する。					
授業の到達目標:					
(1) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解し、説明できるようになる。					
(2) 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を習得する。					
(3) 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解し、説明できるようになる。					
(4) 子どもの精神保健とその課題について理解し、説明できるようになる。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	乳児期の発達特徴 心理社会的課題と危機 初期経験の重要性				
2	幼児期の発達特徴 心理社会的課題と危機				
3	学童期の発達特徴 心理社会的課題と危機				
4	思春期から青年期の発達特徴 心理社会的課題と危機				
5	成人期から老年期の発達特徴 心理社会的課題と危機				
6	家族システムと家族発達				
7	子育ての場としての家庭と家族				
8	子育て環境の社会的状況の変化				
9	子育て期のワークライフ・バランス				
10	多様な子育て家庭への支援 育児不安サポート				
11	特別な配慮を必要とする家庭への支援				
12	子どもを取り巻く生活環境 安全・事故防止と災害対応				
13	子どもの心と健康				
14	発達障害のある子どもの理解と対応				
15	総まとめ 心理相談に関わる事例検討				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容:					
回目の講義内容を示し、予習を促す。授業外の課題やワークの準備については事前指導を行い、効果的なアクティブラーニングを図る。提出した課題はフィードバックし理解の定着を図り、グループワークは準備から発表まで事前・事後学習において総合的に取り組む姿勢を重視する。					
テキスト:					
松本園子,堀口美智子他,2019,『子ども家庭支援の心理学』ななみ書房。					
参考文献:					
松本園子,永田陽子他,2019,『子ども家庭支援論』ななみ書房。					
学生に対する評価:					
(1) 定期試験 70%					
(2) 受講姿勢 30% (授業への取り組み20、提出物10)					
実務経験のある教員による授業科目:保育所における子育て相談員及び社会福祉法人の第三者委員会委員として保育現場に携わり、また実証的研究として保育研究をする者が、その経験を活かして今日的課題の対応を含めた授業を展開する。また、教育カウンセラーとして学会等の委員を務め、相談を進める際に必要なカウンセリングに関する知識と技能をもつ教員が、心理学の知見を活かして心理検査やカウンセリングに関する演習を行う。					

開講年次:1年次秋		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		子どもの理解と援助			
担当教員		松田 知佳子			
授業概要: 子どものあらゆる側面を理解することは、保育を行う上で必要不可欠である。子どもを取り巻く環境や心身の発達過程を理解し、ロールプレイングなどを取り入れながら、子どもの心を見る目を養い、保育者としてどう援助していくかを考える。					
授業の到達目標: 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	保育における「子ども理解」とは				
2	子どもを取り巻く環境の理解				
3	子ども理解における発達の観点①				
4	子ども理解における発達の観点②				
5	子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド①				
6	子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド②				
7	保育における観察と記録の実践①				
8	保育における観察と記録の実践②				
9	記録にもとづく保育カンファレンス				
10	保育における個と集団の関係の理解と援助				
11	一人ひとりの子どもの特別なニーズの理解と援助①				
12	一人ひとりの子どもの特別なニーズの理解と援助②				
13	保護者理解と援助の基本				
14	「子ども理解」を深めるための保育共同体				
15	学修のまとめ				
	定期試験期間における試験：実施する				
事前・事後学習の内容: 随時「提出票」の記入を求める。返却された提出票の内容を振り返り、学んだことを復習しておく。					
テキスト: 高嶋景子・砂上史子編著, 2019,『新しい保育講座③ 子ども理解と援助』ミネルヴァ書房。 資料プリントを適宜配付					
参考文献: 文部科学省, 2018,『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。 厚生労働省, 2018,『保育所保育指針解説』フレーベル館。 内閣府, 2018,『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館，					
学生に対する評価: 定期試験 60％ 受講姿勢(提出票評価含む)40％					
実務経験のある教員による授業科目: 放課後等デイサービス事業所、保育所、児童相談所一時保護所での勤務経験を活かし、発達障害や虐待・非行など複雑な背景を抱える子どもを含めた子ども理解について指導する。					

開講年次:1年次春		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名		子どもの保健			
担当教員		梅崎 あき			
授業概要:					
この授業の目的は、保育者として子どもの健康を守り、子どもと保護者を支援するための基本的部分を学ぶことを目的としています。各種ガイドラインや最新の科学的な根拠を踏まえ、健康増進に必要な諸概念や指標、発育と発達、疾病の概要や対応方法等、保育所における保健活動に必要な知識や方法を学んでいきます。授業内容に応じて、具体的な事例の紹介や映像等を取り入れ、学びを拡げていきます。また、適宜確認テストを行い知識の定着を目指していきます。					
授業の到達目標:					
(1)子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、保育者として保健活動を行うための基礎知識を獲得できる。 (2)子どもの生理機能や身体的な発育・発達、子どもの疾病を理解し、心身の健康状態を把握し、支援の方法を考えることができるようになる。 (3)子どもの保健活動を取り巻く他職種間の役割を理解し、連携・協働の下での適切な対応が取れるようになる。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	子どもの健康と保健の意義を理解しよう				
2	子どもの発育を理解しよう				
3	子どもの体を理解しよう1				
4	子どもの体を理解しよう2				
5	子どもの発達を理解しよう1				
6	子どもの発達を理解しよう2				
7	子どもの健康状態を知ろう1				
8	子どもの健康状態を知ろう2				
9	子どもの病気とその対処法について理解しよう1				
10	子どもの病気とその対処法について理解しよう2				
11	子どもの病気とその対処法について理解しよう3				
12	子どもの病気とその対処法について理解しよう4				
13	子どもの病気の予防について理解しよう				
14	地域の保健活動と子どもの虐待防止について理解しよう				
15	子どもの健康と保育の環境について理解しよう				
	定期試験期間における試験：実施する				
事前・事後学習の内容:					
・予習:授業内で示された次回テーマについて、該当範囲のテキストに目を通し、基礎的な用語等を調べること。 ・復習:テキストや配布されたプリント等を見直し、紹介された文献等で発展的な学びへ繋げる。また、小テストや課題なども適宜実施する。					
テキスト:					
松本峰雄, 2020,『よくわかる！保育士エクササイズ7 子どもの保健と安全 演習ブック』ミネルヴァ書房。 その他、適宜授業内で資料配布					
参考文献:					
「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成 23 年 3 月、厚生労働省)、「2018 年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成 30 年 3 月、厚生労働省)等					
学生に対する評価:					
(1)授業への取り組み姿勢(授業態度、意欲、課題の実施状況):20% (2)筆記試験:80%					
実務経験のある教員による授業科目:					
産科救急,小児科病棟,小児科クリニック,小児在宅医療の看護師、保育所,子育て支援施設,保健センターの保健師の実務経験あり。現在も区の子育て支援事業で保健師として健診や相談に携わっている。					

開講年次:2年次春		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		子どもの食と栄養Ⅰ			
担当教員		島野 僚子			
授業概要: 小児期の食生活は、生涯にわたり心身の健康に大きく影響する。授業を通して、食に興味をもち、保育士、幼稚園教諭等を目指す学生に必要な食生活全般の基礎的知識、子どもの発育・発達と食生活の関連、食育の基礎的知識等を広く学ぶ。さらに、各回の演習や調理実習等の学生参加型授業を通して、より理解を深め、保育現場で活用できる実践即戦力を身につける。					
授業の到達目標: 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	ガイダンス 子どもの健康と食生活の意義				
2	生涯発達の変化と成人期の栄養①				
3	生涯発達の変化と成人期の栄養②				
4	栄養に関する基礎知識①				
5	栄養に関する基礎知識②				
6	日本人の食事摂取基準、推定エネルギー必要量				
7	献立作成と調理の基本 【演習】栄養バランスのとれた献立を考える				
8	妊娠のしくみと妊娠期の栄養				
9	妊娠期の食問題と授乳期の栄養				
10	乳児期の発達と食生活				
11	母乳栄養と人工栄養、食品衛生と食品表示				
12	【実習】粉ミルクの調乳と試飲、液体ミルク体験				
13	離乳の意義と進め方				
14	【実習】離乳食の固さの確認、ベビーフード試食				
15	春期まとめ 確認テスト				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容 【事前】予定単元について、テキストに目を通しておく 【事後】毎回、授業に沿ったプリント、補足資料等を配布する 授業内で必要事項を記入、授業ノートとしてファイリングし、事後学習に活用する					
テキスト: 太田百合子・堤ちはる編著、2020、『子どもの食と栄養 第2版 保育現場で活かせる食の基本』羊土社。					
参考文献:必要な資料は随時配布 東京都幼児向け食事バランスガイド指導マニュアル、授乳離乳の支援ガイド(2019年改訂) 保育におけるアレルギー対応ガイドライン2019					
学生に対する評価:定期試験(70%)、授業内に実施する確認小テストおよび課題(30%)					
実務経験のある教員による授業科目 管理栄養士(医療・福祉施設:15年)としての臨床現場実務経験、栄養士養成校での教育指導経験(8年)、地域での多数の食育活動実績を活かし、現場での実際、実態を具体例として多く挙げ、『子どもの食と栄養』の基礎的知識、技術をより分かりやすく楽しく体得できる工夫を凝らし、保育現場での実践即戦力を身につけられる内容を展開する。					

開講年次:2年次春		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		子どもの食と栄養Ⅰ			
担当教員		宮木 弘子			
授業概要: 食と栄養の基本的知識を解説し、実際に子どもの発育・発達、環境など現状に合わせた対応方法について一緒に考えていきます。さまざまな事例や実物を用いて授業を展開することで理解を深め、保育者として実践する力を養います。					
授業の到達目標: 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について理解する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	食べるとはということか				
2	子どもの健康と食生活の意義				
3	子どもの発育・発達と栄養 ①発育・発達の基本的知識				
4	子どもの発育・発達と栄養 ②子どもの消化器官・排泄機能の発達の基本的知識				
5	子どもの発育・発達と栄養 ③食べる機能の発達に関する基礎知識				
6	栄養に関する基礎知識 ①栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能				
7	栄養に関する基礎知識 ②日本人の食事摂取基準の意義とその活用				
8	栄養に関する基礎知識 ③食事構成・献立作成・調理の基本				
9	栄養に関する基礎知識 栄養媒体の作成				
10	栄養に関する基礎知識 栄養媒体の発表				
11	乳児期の栄養と食生活 ①乳汁栄養				
12	乳児期の栄養と食生活 ②離乳食				
13	乳児期の栄養と食生活 ③実習				
14	幼児期の栄養と食生活				
15	試験				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容: 授業でプリントを配布するので、パンチレスファイルA4を持参すること。 子どもの食と栄養に関する情報収集					
テキスト: 株式会社三恭保育園事業部給食課編著, 2018,『選ばれる園になるための給食マネジメント』株式会社チャイルド社。					
参考文献: 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年、厚生労働省)「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)「楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～」(平成16年、厚生労働省)「授乳・離乳の支援ガイド」(2019年改訂、厚生労働省)					
学生に対する評価: 授業課題(50%)、定期試験(50%)を基準に点数を加算して総合的に評価する					
実務経験のある教員による授業科目:－					

開講年次:2年次秋		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		子どもの食と栄養Ⅱ			
担当教員		島野 僚子			
授業概要: 小児期の食生活は、生涯にわたり心身の健康に大きく影響する。授業を通して、食に興味をもち、保育士、幼稚園教諭等を目指す学生に必須な食生活全般の基礎的知識、子どもの発育・発達と食生活の関連、食育の基礎的知識等を広く学ぶ。さらに、各回の演習や調理実習等の学生参加型授業を通して、より理解を深め、保育現場で活用できる実践即戦力を身につける。					
授業の到達目標: 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	幼児期の心身の発達と食生活				
2	幼児期の栄養の問題 【演習】「食」に課題がある園児への対応について事例から考える				
3	食育の基本				
4	食育のための環境づくり 【演習】楽しく食べるための環境作りについて考える				
5	家庭や児童福祉施設における食事と栄養				
6	アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養① 食物アレルギーの基礎知識と実態				
7	アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養② 保育所での食物アレルギー対応の実際、緊急時の対応				
8	特別な配慮を要する子どもの食と栄養① 体調不良、疾病の子どもへの対応				
9	特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 障害のある子どもへの対応				
10	子どもと楽しむ行事と食事 【演習】食を通した保護者への支援				
11	【演習】学んだ知識を生かした食育の媒体をつくる①				
12	【演習】学んだ知識を生かした食育の媒体をつくる②				
13	【調理実習】災害時の調理法を取り入れたバランス弁当作り				
14	【特別講義】現役保育所栄養士が語る『保育所での食育の実際と多職種連携の重要性』				
15	『子どもの食と栄養』 総まとめ				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容: 【事前】予定単位について、テキストに目を通しておく 【事後】毎回、授業に沿ったプリント、補足資料等を配布する 授業内で必要事項を記入、授業ノートとしてファイリングし、事後学習に活用する					
テキスト: 太田百合子・堤ちはる編著、2020、『子どもの食と栄養 第2版 保育現場で活かせる食の基本』羊土社。					
参考文献:必要な資料は随時配布 東京都幼児向け食事バランスガイド指導マニュアル、授乳離乳の支援ガイド(2019年改訂) 保育におけるアレルギー対応ガイドライン2019					
学生に対する評価:定期試験(70%)、授業内に実施する確認小テストおよび課題(30%)					
実務経験のある教員による授業科目 管理栄養士(医療・福祉施設:15年)としての臨床現場実務経験、栄養士養成校での教育指導経験(8年)、地域での多数の食育活動実績を活かし、現場での実際、実態を具体例として多く挙げ、『子どもの食と栄養』の基礎的知識、技術をより分かりやすく楽しく体得できる工夫を凝らし、保育現場での実践即戦力を身につけられる内容を展開する。					

開講年次:2年次秋		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		子どもの食と栄養Ⅱ			
担当教員		宮木 弘子			
授業概要: 食と栄養の基本的知識を解説し、実際に子どもの発育・発達、環境など現状に合わせた対応方法について一緒に考えていきます。さまざまな実例や実物を用いて授業を展開することで理解を深め、保育者として実践する力を養います。					
授業の到達目標: 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について理解する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	幼児期の栄養と食生活				
2	幼児期の栄養と食生活 実習				
3	保育における食育の意義・目的と基本的考え方 食育における養護と教育の一体性				
4	保育における食育の意義・目的と基本的考え方 食育の内容と計画および評価				
5	保育における食育の意義・目的と基本的考え方 食育活動の計画及び評価				
6	保育における食育の意義・目的と基本的考え方 実習				
7	保育における食育の意義・目的と基本的考え方 まとめ				
8	家庭や児童福祉施設における食事と栄養				
9	生涯発達と食生活				
10	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギー				
11	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギーに関するヒヤリハット事例				
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 疾病及び体調不良・障害・宗教・災害時				
13	食事に関するヒヤリハット事例				
14	年間の総括				
15	試験				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容: 授業でプリントを配布するので、パンチレスファイルA4を持参すること。 子どもの食と栄養に関する情報収集					
テキスト: 株式会社三恭保育園事業部給食課編著, 2018,『選ばれる園になるための給食マネジメント』株式会社チャイルド社					
参考文献: 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年、厚生労働省)「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)「楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～」(平成16年、厚生労働省)「授乳・離乳の支援ガイド」(2019年改訂、厚生労働省)					
学生に対する評価: 授業課題(50%)、定期試験(50%)を基準に点数を加算して総合的に評価する					
実務経験のある教員による授業科目:－					

開講年次:1年次秋		選択	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名		児童館の機能と運営			
担当教員		小玉 絹江			
授業概要:					
1. 児童館ガイドライン・放課後児童クラブ運営指針に示されているねらいおよび内容について、基本的な考え方を学習する。 2. 活動・支援の内容から子どもの発達と、保育者・地域との関係性を学び、ソーシャルワークの視点から理解を深める。 3. グループワークを通して、児童館・放課後児童クラブ現場の実践を具体的に考察し、今後に活かせるようにする。					
授業の到達目標:					
1. 児童館の基本理念である「健全育成」の位置づけを理解するとともに、現代の子どもの健全育成上の課題を理解する。 2. 子どもの「遊び」と「生活」・保護者や子育てを育成・支援する上で必要なソーシャルワークの具体的援助方法を学習し、児童館・放課後児童クラブの機能と運営を理解する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	児童福祉法の理念と健全育成・児童館ガイドライン・児童館の施設特性について				
2	児童館の機能Ⅰ：児童館・放課後児童クラブの法的根拠の変遷と、児童福祉の理念				
3	児童館の機能Ⅱ：子ども権利条約と児童館の機能と健全育成上の意義				
4	児童館の機能Ⅲ：遊び及び生活を通した子どもの発達の増進(乳幼児期・児童期・思春期(青年期前)別)				
5	児童館の機能Ⅳ：居場所機能を児童館が担うとは…乳幼児期・学童期・思春期別				
6	児童館の機能Ⅴ：子どもと家庭が抱える問題の発生予防・早期発見と対応(子育て支援の実施や地域の環境づくり)				
7	放課後児童クラブの機能Ⅰ：放課後児童クラブの運営指針と育成支援の内容				
8	放課後児童クラブの機能Ⅱ：事例を通して実践記録とPDCAサイクル				
9	放課後児童クラブの機能Ⅲ：課題を持つ子の受け入れのために…事例を通して考える				
10	子ども支援者と倫理Ⅰ：事例を通して児童厚生員の職務、児童館長の職務、児童館の職場倫理				
11	子ども支援者と倫理Ⅱ：事例を通して放課後児童クラブ職員の職務や倫理				
12	児童館とボランティア：外部団体の適切な受け入れや利用者のボランティア活動				
13	児童館・放課後児童クラブの運営Ⅰ：ケガや事故の防止のための、安全対策や緊急時対応				
14	児童館・放課後児童クラブの運営Ⅱ：児童館や放課後児童クラブに対する要望や苦情への対応				
15	まとめ《小論文》：あなたが目指す理想の児童館や放課後児童クラブにするには何が必要か？				
事前・事後学習の内容:					
児童館ガイドライン・放課後児童クラブ運営指針の該当箇所について十分に予習をする。 配布した事例・資料をよく読み返し、課題に対する理解を深め要点を整理する。					
テキスト:					
児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ②「児童館論」平成31年 4月(財)児童健全育成推進財団 発行 児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ④「ソーシャルワーク」 2019年10月(財)児童健全育成推進財団 発行 放課後児童支援員都道府県認定資格研修教材「認定資格研修のポイントと講義概要」中央法規					
参考文献:					
児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ①「健全育成論」(財)児童健全育成推進財団 児童館・放課後児童クラブのための「安全対策ハンドブック」(財)児童健全育成推進財団 中山芳一 2018「学童保育実践入門～かかわりと振り返りを深める～」かもがわ出版					
学生に対する評価:					
課題提出:30%、授業態度(グループワーク・発表含む):40% 小論文:30%					
実務経験のある教員による授業科目:					
中、高校生センター・教育委員会特別支援・子ども女性相談ワーカーの経験を活かし実践的講義内容を行っていく。					

開講年次:2年次春		選択	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名		児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ			
担当教員		小玉 絹江			
授業概要:					
1.児童館・放課後児童クラブの活動内容について具体的に理解する。 2.日常活動や日常支援から子ども一人ひとりの理解と援助と、保育者対応・地域との連携を具体的に理解する。 3.ソーシャルワークの援助方法から理解を深め、児童厚生員・児童支援員とし実践を具体的に考察し、今後の実践に活かせるようにする。					
授業の到達目標:					
1.子どもの「遊び」と「生活」を日常活動から理解する。 2.ソーシャルワークの具体的援助方の視点で、子育て支援・保護者対応・地域や関係機関との連携を学習する。 3.プログラムの企画や運営の実際と子どもの権利条約の位置づけなど、児童館・放課後児童クラブの業務の実際を把握する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	これまでの児童館・放課後児童クラブ実習後の成果と課題				
2	児童館・放課後児童クラブにおける、子どもたちの日常活動と児童厚生員・支援員の役割				
3	児童館・放課後児童クラブにおける、年間計画の目的・ねらいと児童厚生員・支援員の役割				
4	子どもの権利条約と児童館・放課後児童クラブの機能とのかかわり				
5	遊びを通した異年齢の活動(低学年):子ども会議・実行委員会など・・・				
6	遊びや活動を通した居場所機能(高学年):運営委員会活動など・・・				
7	乳幼児対応の実際と子育て支援活動の実際				
8	児童館・放課後児童クラブの生活支援と学習支援:				
9	児童館・放課後児童クラブの保護者支援:事例検討(保護者対応のヒントしゅうより)				
10	課題のある家庭や子どもの援助:事例検討				
11	ボランティアの育成と活動の実際:地域に広がる活動の実際と連携協力など・・・				
12	地域・学校・子ども家庭支援センターなど関係機関との連携				
13	児童館・放課後児童クラブ職員のチームアップ :より良い児童館・放課後児童クラブ活動を可能にするより良い職員関係づくり				
14	演習:子どものニーズに基づいたプログラムの企画・活動				
15	まとめ《小論文》 あなたが考える「児童館や放課後児童クラブの活動と事業計画」について、その理由と具体的意見を述べよ				
事前・事後学習の内容:					
児童館ガイドライン・放課後児童クラブ運営指針の該当箇所について十分に予習をする。 配布した事例・資料をよく読み返し、課題に対する理解を深め要点を整理する。					
テキスト:					
児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ②「児童館論」平成31年 4月(財)児童健全育成推進財団 発行 児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ④「ソーシャルワーク」2019年10月(財)児童健全育成推進財団 発行 放課後児童支援員都道府県認定資格研修教材「認定資格研修のポイントと講義概要」中央法規					
参考文献:					
児童館「チームアップに役立つ20のヒント」(財)児童健全育成推進財団 児童館テキストシリーズ②「子ども支援者と倫理～事例で学ぶ児童館のコンプライアンス～」(財)児童健全育成推進財団 中山芳一著 2018「新しい時代の学童保育実践」かもがわ出版					
学生に対する評価:					
課題提出:30%、授業姿勢(グループワーク・発表含む):40% 小論文:30%					
実務経験のある教員による授業科目:					
中、高校生センター所長・教育委員会特別支援・子ども女性相談ワーカーの経験を活かし実践的講義内容を行っていく。					

開講年次:2年次春		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名	保育・教育課程の意義と編成				
担当教員	松本 佳代子				
授業概要:					
・教育課程・保育課程・指導計画の基本について理解する。 ・幼児教育・保育におけるカリキュラムの構造と編成について学ぶ。 ・乳幼児期の生活が充実し、子ども一人ひとりの発達が保障される教育課程・保育課程、およびそれに基づく指導計画のあるべき姿について考える。					
授業の到達目標:					
・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された教育課程、保育課程、指導計画の基本と特徴について理解し、指導計画を立案、評価できる知識を修得する。 ・PDCAサイクルについて、指導計画案作成および実践を通して理解をする。 ・PDCAサイクルと小学校との連携について理解を深める。 ・保育における目標を設定し、計画を立案・実行する力を修得する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	授業ガイダンス 教育課程とは				
2	さまざまな教育課程を理解する 幼稚園教育課程・保育所保育課程とその歴史について学ぶ				
3	幼稚園の教育課程と保育所の全体的な計画について理解する				
4	幼稚園・保育所の生活と乳幼児の理解する 環境を通しての教育について学ぶ				
5	教育課程・保育課程、指導計画を考える上で共通に必要なことについて学ぶ① 幼稚園教育要領における5領域について理解する				
6	教育課程・保育課程、指導計画を考える上で共通に必要なことについて学ぶ② 子ども理解、子どもの発達を理解する				
7	長期指導計画／短期指導計画について理解する。 長期指導計画と短期指導計画の内容について学ぶ。				
8	短期指導計画の作成、立案する① 月の指導計画を作成する。〔各項目の理解〕				
9	短期指導計画の作成、立案する② 日案、指導案を作成する。〔立案の手順〕				
10	短期指導計画の作成、立案する② 日案、指導案を作成する。〔主活動〕				
11	短期指導計画の作成、立案する③ 日案、指導案を作成する。〔主活動〕				
12	短期指導計画の作成、立案する④ 日案、指導案を作成する。〔実践〕				
13	短期指導計画の実践・評価、省察する① 指導計画案に基づきPDCAサイクル(保育実践、自己省察、評価)を理解する。				
14	短期指導計画の実践・評価、省察する② 指導計画案に基づきPDCAサイクル(保育実践、自己省察、評価)を理解する。				
15	PDCAサイクルと小学校との接続、地域と子育て支援について学ぶ				
	定期試験期間における試験：実施しない				
事前・事後学習の内容:					
指示した箇所を次回授業までに目を通して授業に臨むこと。また授業内容に関連した参考図書などに目を通し、専門用語などは理解しておくこと。					
テキスト:					
松村和子・近藤幹生・梶島香代、『就学前教育の計画を学ぶ』ななみ書房。					
参考文献:					
・『幼稚園教育要領』フレーベル館、文部科学省、2018 ・『保育所保育指針』フレーベル館、厚生労働省、2018					
学生に対する評価:					
定期試験30%、課題、発表40%、平常態度30%					
実務経験のある教員による授業科目：－					

開講年次:1年次秋		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名	保育内容総論				
担当教員	松本 佳代子				
授業概要: 幼稚園教育要領・保育所保育指針及び幼保連携認定こども園教育・保育要領に示されている5領域のねらいおよび内容について、基本的な考え方を学習する。保育内容から子どもの発達と保育の視点を子どもの生活と子どもの保育者の関係性や援助方法から理解を深め保育者としての在り方を考える。またグループワークやディスカッションを通して幼稚園および保育所における保育内容の計画および実践を考察し今後の学習課題等を明確化する。					
授業の到達目標: 保育内容5領域を通して保育の全体像を総合的に理解する。 保育実践を展開する上で必要な記録方法や省察の方法を学習し乳幼児一人ひとりを理解するため保育者の援助方法を習得する。 事例分析の観点を身につけ、遊び、生活、環境を通して今後の学習課題等の明確化することを目指す。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	乳幼児期の保育内容(1) 保育の基本的な考え方を捉える				
2	保育所・幼稚園の一日を理解する。 事例検討:子どもの気持ちと保育者の援助について考える。				
3	乳幼児期の保育内容(2) 事例検討:遊びや生活を通した学びについて考える。				
4	乳幼児期の保育内容(3) 保育所保育指針と幼稚園教育要領における保育内容の捉え方について理解する。				
5	乳幼児期の保育内容(4) 小学校への接続を踏まえた保育を考える。				
6	乳幼児期の保育内容(5) 事例検討:子育て支援から保育内容を考える。				
7	乳幼児期の保育内容(6) 事例検討:子育て支援から保育内容を考える。				
8	保育者の保育観について 保育活動を通して幼児教育における見方・考え方について考える。				
9	保育内容を深める遊びと保育教材について(1) 絵本・紙芝居について理解を深める。				
10	保育内容を深める遊びと保育教材について(2) 伝承遊び・運動遊び・造形遊びについて理解を深める。				
11	保育内容を深める遊びと保育教材について(3) パネルシアターについて理解を深める。				
12	保育内容を深める遊びと保育教材について(4) パネルシアターを作成する。				
13	保育内容を深める遊びと保育教材について(5) パネルシアターを作成する。				
14	保育内容を深める遊びと保育教材について(6) パネルシアターを実践する。				
15	保育内容の課題 様々な保育の課題について考える。				
	定期試験期間における試験:実施しない。				
事前・事後学習の内容: 幼稚園教育要領、保育所保育指針等の該当箇所について充分に予習をする。また事前に配布する事例・ワークシートをよく読み課題に対する理解を高めておく。さらに授業後に配布する資料について復習し要点を整理する。					
テキスト: 渡邊英則・大豆生田啓友編著、『新しい保育講座4 保育内容総論』ミネルヴァ書房。					
参考文献: 保育所保育指針解説書 厚生労働省著 フレーベル館 幼稚園教育要領解説書 文部科学省著 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書 内閣府 文部科学省 厚生労働省著 フレーベル館					
学生に対する評価: 授業態度を含む平常点30％・保育実践、発表30％・提出物:40％					
実務経験のある教員による授業科目:－					

開講年次:1年次春（2組1年次秋）		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		保育内容指導法 健康			
担当教員		阿江 美知代			
授業概要:					
1. 領域「健康」のねらいと内容について理解する。 2. 子どもの身体機能や遊びの重要性、園生活における安全への配慮について保育者としての役割を学ぶ。 3. 保育者自身の心身の健康について知る。					
授業の到達目標:					
1. 保育内容「健康」のねらい及び内容について理解し、現代的課題を知るとともに保育の実践にいかすことができる。 2. 領域「健康」の乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 3. 保育における安全管理について知る。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	オリエンテーション 保育内容「健康」で学ぶこと				
2	人権としての子どもの健康 健康において育むもの				
3	健康にかかわる子どもの生活実態				
4	子どもの心身の健康				
5	身心の発達と園生活				
6	遊びと健康① 模擬保育計画立案				
7	遊びと健康② 健康にかかわる遊びと保育者の援助 模擬保育計画立案				
8	模擬保育 学生同士①				
9	模擬保育 学生同士②				
10	基本的生活習慣の指導・援助				
11	安全管理と指導・援助①				
12	安全管理と指導・援助② DVD視聴				
13	園外保育実踏				
14	災害に対する安全指導				
15	子どもとメディア				
	定期試験期間における試験：実施する				
事前・事後学習の内容:					
『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『認定こども園保育・教育要領解説』フレーベル館					
テキスト:					
榎沢良彦・入江礼子編著, 2018, 『シードブック 保育内容 健康 第3版』建帛社.					
参考文献:					
『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『認定こども園保育・教育要領解説』フレーベル館					
学生に対する評価:					
授業姿勢(授業態度・取り組み・グループワーク参加・提出物・提出期限含む)40％ 定期試験60％					
実務経験のある教員による授業科目:					
幼稚園勤務18年(内主任4年) 子ども達が心身ともに健康で過ごすために必要な保育内容・保護者対応等、実践に活かせるものを重視した授業内容・実践演習を展開する。					

開講年次:1年次春		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名	保育内容指導法 人間関係				
担当教員	氏家 博子				
授業概要: 現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。領域「人間関係」の基礎理論として乳幼児期の人間関係の育ちの全体像を捉え、学生のアクティブ・ラーニングにより、他者や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する集団生活を進める力等を育む保育について、事例の考察・指導計画と実践を通して学ぶ。					
授業の到達目 当科目では、領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想し実践。する方法を身につける。幼児の発達の特性を踏まえた教材や環境構成の重要性を理解し、指導案を作成し、模擬保育やその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	領域「人間関係」を理解する 幼児教育に求められる「人間関係」多様な人間関係を理解する。幼稚園教育要領や保育所保育指針の「人間関係」のねらいと内容を理解する。				
2	子どもの人間関係をめぐる現代的課題 少子高齢社会における子どもの姿を学ぶ。				
3	子どもの人間関係をめぐる現代的課題 多様化する家族形態が抱える諸問題				
4	子どもの人間関係の発達課題 愛着と信頼関係の形成 自我の発達 乳幼児の領域{人間関係}理解を深める。				
5	他者への意識と協同での生活や活動について学ぶ。 自己コントロールができるよう、子どもの発達に応じた保育者として援助について考える。				
6	いざこざやトラブルから培われる人間関係。(事例解決にICTを利用して保育場面の問題解決に活用する。)				
7	道徳性と規範意識の芽生えとモラル意識 事例を参考に話し合いパワーポイントを作成して発表する。				
8	保育者と人間関係の留意点について 子どもとの距離感、援助				
9	保育者に求められる援助の視点、指導案を作成 (遊びを楽しむ)				
10	人間関係を結ぶ保育の在り方 遊びでつなぐ友達関係 (指導案の参考に情報機器を活用して遊びの活動内容学ぶ。)模擬保育(おにごっこ遊び)				
11	協同する経験 集団生活での道徳性・規範意識の芽生え 事例を基に話し合う				
12	気になる子どもについて 子どもの困り具合を子どもの立場から理解する (情報機器を使い保育カンファレンスをする。)				
13	協同的体験と小学校への接続				
14	気になる保護者への対応 保護者とのコミュニケーションと信頼関係 保護者対応の事例を保育カンファレンスをして発表する。				
15	保育内容指導法「人間関係」のまとめ				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容: 幼稚園教育要領、保育所保育指針を読み理解する。実習までに子どもの葛藤、トラブルについて学ぶ。子ども、保護者、同僚との人間関係について事例、対応を調べる。子どもの人間関係に影響を及ぼす家庭環境や子育ての課題について学びを深める。					
テキスト: 濱名浩編, 2018,『保育内容 人間関係[第2版] (新時代の保育双書)』みらい。					
参考文献: 幼稚園教育要領、保育所保育指針					
学生に対する評価: 定期試験60% 授業姿勢(20%) 提出物20%					
実務経験のある教員による授業科目: 効率幼稚園勤務時には、統合保育や子どもの言葉かけについて、児童館では、中高校生の居場所作りに努めた。					

開講年次:1年次春		選択・必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		保育内容指導法 環境			
担当教員		岩田 大			
授業概要:					
幼稚園教育要領・保育所保育指針等を確認し、実際の保育現場で大切な「環境」についての理論と実践を結び付けて理解を深めていく。領域「環境」に記載されていたものについても、具体的な実践事例や参考文献等を見ながら、保育現場をイメージして実践(実習や現場実践)に結び付け学びとなるようにしていく。最終的に「環境」という大枠だけでなく、人・物・自然・事象・空間等の環境について学び、環境構成と保育者の関わり等の援助方法についても学んでいくこととする。					
授業の到達目標:					
1. 内容における「環境」という視点を通して、子どもと環境とのかかわりやその育ちを具体的に理解する					
2. 生活や遊びを通して体験することの重要性を理解し、保育者の環境構成と援助についての理解を深める					
3.子どもの実態や発達に即した具体的な保育場面を想定し、保育計画・保育準備・展開から保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する					
4.子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解して、保育の構想に活用することができる					
5.指導案を含む保育計画の構成を理解し、具体的な保育を想定した保育案の作成(立案)の基本を理解したうえで作成する力を身につける					
6.領域「環境」の特性に応じた保育実践の動向や現代的課題を知り、今求められる保育の在り方の理解を深める					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	イントロダクションー 保育内容指導法「環境」				
2	領域「環境」とは 子どもの心が動く環境とは 心情・意欲・態度から考える				
3	子どもの育ちと領域「環境」～子どもを取り巻く環境～ 3歳未満児・3歳以上児				
4	環境を考える視点 ヒト環境(人的環境)				
5	環境を考える視点 物的環境～子どもの力を引き出す環境構成～ 3歳未満児				
6	環境を考える視点 物的環境～子どもの力を引き出す環境構成【アフォーダンスから考える】～ 3歳以上児				
7	環境を考える視点 自然環境～感性の育ちを考える～【センス・オブ・ワンダーとは?を考える】				
8	環境を考える視点 社会的環境～乳幼児期の体験～				
9	子どもの生きる力を育む環境 3歳未満児-3歳以上児				
10	共に環境を創造する対話的保育 ～子どもの姿から展開する保育実践～				
11	領域「環境」と共生社会 ～インクルーシブな保育・外交にルーツを持つ子ども～				
12	子どもを守り育てる環境 ～ありのままの姿と教育の在り方～				
13	領域「環境」と小学校教育のつながり ～幼児期の終わりまでの育ってほしい10の姿と社会情動的スキルから考える～				
14	環境における現代的課題と保育 ～望ましい未来とは～				
15	まとめ レポート試験				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容:					
『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育保育要領解説』をよく読んでおくこと					
テキスト:					
久保健太・高嶋景子・宮里暁美 編著 『保育内容「環境」』ミネルヴァ書房					
参考文献:					
文部科学省, 2018,『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。厚生労働省, 2018,『保育所保育指針解説』フレーベル館。 内閣府, 2018,『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館。 適宜PPTを使用して実施(東京都保育士等キャリアアップ研修にて実施している内容に基づいた内容:講師本人作成資料)					
学生に対する評価:					
レポート試験 60% 受講姿勢(発表・提出物評価含む) 40%					
実務経験のある教員による授業科目:○					

開講年次:1年次春		必修	単位数: 1	時間数: 30	授業形態: 演習
科目名	保育内容指導法 環境				
担当教員	岸 久美子				
授業概要:					
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の環境領域について理解をする。また、保育現場及び教育現場における活動や環境構成について学ぶ。					
幼児教育の現場を想定したグループディスカッションや発表を通して、保育内容「環境」のねらい及び内容を理解する。					
保育内容「環境」を通した小学校への接続について学ぶ。					
授業の到達目標:					
子どもの発達状況に合わせた環境構成の作成、遊具や玩具の活用方法について理解する。					
保育内容「環境」を基にした幼児教育の活動を使って、指導案の作成ができるようにする。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	ガイダンス 乳幼児教育における環境とは。				
2	5領域、育みたい資質・能力、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」における「環境」				
3	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「環境」の位置づけ				
4	子どもを主体とする環境				
5	小テスト 春&夏の折り紙				
6	ねらい及び内容における「環境」				
7	子どもの発達と環境				
8	0歳児の発達と「環境」				
9	1歳～3歳未満児の発達と「環境」				
10	小テスト 日本の伝統遊び				
11	3歳以上児の発達と「環境」				
12	5歳児後半の環境と小学校との接続				
13	園内環境				
14	園外環境				
15	まとめ				
	定期試験期間における試験：実施する				
事前・事後学習の内容:					
授業で行うところのテキストのページをしっかりと読み込んでおいてください。					
テキスト:					
駒井美智子・横山文樹 編著(2021)保育内容「環境」 中央法規					
参考文献					
厚生労働省(2018)保育所保育指針解説 フレーベル館、文部科学省(2018)幼稚園教育要領解説 フレーベル館、内閣府(2018)幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館					
適宜、プリントを配布する。					
学生に対する評価:					
筆記試験 60%					
小テスト、提出物、受講態度(出欠席含む) 40%					
実務経験のある教員による授業科目：－					

開講年次:1年次秋		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		保育内容指導法 言葉			
担当教員		氏家 博子			
授業概要: 経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うことを目指す。幼稚園教育・保育所保育指針において育みたい資質能力について理解し、示された領域「言葉」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえる。さらに具体的な指導場面での保育を構想した上で指導案を作成し、模擬保育を通して実践する。模擬保育の振り返りにより、保育を改善する視点を身に付ける。					
授業の到達目標: 乳幼児は、周囲の人との関わりの中で言葉を習得していく、言語発達過程乳幼児との関わりを学ぶと共に、言葉の発達の遅れた子どもの関わりや保護者対応を学ぶ。乳幼児のことばを育む保育教材のあり方について考え、それらを活用する技術を身につける。演習の中でICTの利活用を積極的に試み、指導案作成や模擬保育を通して「構想力」「実践力」を高める。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	ことばの機能、課題を学ぶ 幼稚園教育要領や保育所保育指針の「言葉」のねらいや内容について学ぶ。				
2	領域「言葉」のねらい、他領域との関係 事例をあげグループワークで協議し発表する。				
3	ことばの発達 0歳 1歳児のことば発達過程				
4	ことばの発達 2歳児 3歳児 4歳児のことば発達過程				
5	ことばの発達 5～6歳児のことば発達過程 言葉の発達のDVDを参考に保育者の関わりについて学ぶ。				
6	ことばの遅れ、つまずき 特別な配慮が必要な子どもとの関わり” ことばの発達について、パワーポイントにまとめ発表する。				
7	子どものことばと保育者 の言葉かけについてどう捉え、どう関わるか学ぶ。 ICTを活用し保育場面での問題解決に活用する。				
8	歌や触れ合いを楽しむ遊び わらわうたや遊び方 指導案を基に模擬保育をする。				
9	児童文化と内容 :絵本の選び方と実演 アクティブラーニングで調べた事をプレゼンテーションから学びあう。				
10	手作り絵本を作る 事前学習として、話の内容を作っておく。				
11	手作り絵本を作る 早くできた人は読み聞かせをする。				
12	手作り絵本読み聞かせをする				
13	ごっこ遊びの指導案をたてる。 模擬保育をする。				
14	言葉と小学校への連携 情報機器を使い保育カンファレンスをする。				
15	授業の振り返り				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容: 保育所保育指針、幼稚園教育要領を事前学習として読み理解する。保育所実習前に、言葉の発達について学習をする。 日常の学習課題について家庭でしらす必ず提出をする(指導案、絵本、パワーポイント等々)「ブックスタート」「あかちゃん絵本」について調べる。絵本の読み聞かせの練習をして、疑問や課題を整理する。手作り絵本の内容を検討しつくる。授業まえに指導案を作成して準備する。					
テキスト: 駒井美智子, 2018,『保育者をめざす人の保育内容「言葉」[第2版]』みらい。					
参考文献: 保育所保育指針、幼稚園教育要領					
学生に対する評価: 定期試験60% 授業姿勢(授業への取り組み、意欲、取り組み等)20% 提出物20%					
実務経験のある教員による授業科目: 効率幼稚園勤務時には、統合保育や子どもの言葉かけについて、児童館では、中高校生の居場所作りに努めた。					

開講年次:1年次春		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		保育内容指導法 表現			
担当教員		森脇 環帆			
授業概要: 本授業では、領域「表現」のねらいと内容について理解した上で、講義と演習を通して「表現」の自由さや楽しさを実践的に習得する。また、子どもの安全を保障しながら表現活動を援助する方法、保育者として自身の感性を磨く方法、グループで協働する方法を学ぶ。					
授業の到達目標: ・領域「表現」のねらいと内容について理解する ・子どもの安全を保障しながら表現活動を援助する方法を知る ・保育者として自身の感性を磨く方法を知る ・グループで協働する方法を知る					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	ガイダンス 幼児教育の基本				
2	自然やものの美しさに触れる-感性を身につける-I フィールドワーク				
3	自然やものの美しさに触れる-感性を身につける-II 合意形成の基礎				
4	自然やものの美しさに触れる-感性を身につける-III お散歩マップの作成				
5	保育者が支える表現 I 教材の活用法研究				
6	保育者が支える表現 II 教材の活用法研究				
7	子どもの豊かな感性と造形表現				
8	領域「表現」の現代的課題と新たな試み				
9	生活の中にあるものをあじわい感性を養う I 音楽表現				
10	生活の中にあるものをあじわい感性を養う II 身体表現				
11	生活の中にあるものをあじわい感性を養う III 造形表現				
12	指導計画作成と模擬保育 I ハサミの指導法				
13	指導計画作成と模擬保育 II				
14	芸術鑑賞 ICTの活用とドキュメンテーション				
15	ふりかえり				
定期試験期間における試験:実施しない					
事前・事後学習の内容: 事前学習は、指定された教科書の範囲に目を通すことと、指示された準備物を用意すること。 事後学習は、授業で取り組んだ内容をスケッチブックにまとめること。					
テキスト: 浜口順子,2018,『新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉表現』萌文書林。					
参考文献: (1)厚生労働省,2018,『保育所保育指針』フレーベル館。 (2)文部科学省,2018,『幼稚園教育要領』フレーベル館。 (3)内閣府,2018,『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館。 (4)逃げ地図づくりプロジェクトチーム,2019,『災害から命を守る「逃げ地図」づくり』,ぎょうせい。					
学生に対する評価: 課題、レポート(80%)受講姿勢(20%)					
実務経験のある教員による授業科目:－					

開講年次:1年次秋		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		子どもの音楽表現			
担当教員		神崎 由布子			
授業概要					
①保育現場における音楽表現の中から「リズム遊び」「子どもの歌」「合奏」「ダンス」を中心に基本的な考え方と表現力を磨く。					
②幼児期に豊かな感性や表現力、想像力、創造力を養うために、保育における音楽表現の必要性を考え、発達段階に応じた指導方法を修得する。					
③保育現場で行われる音楽関連行事(音楽会やお遊戯会等)においての音楽活用法を学ぶ。					
授業の到達目標:					
①様々な表現を、感じる、みる、聴く、楽しむことを通してイメージを豊かにする事ができる。					
②表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。					
③協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。					
④様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	オリエンテーション 「音楽表現」と「授業の進め方」「楽典」				
2	リズムで遊ぶ (ボディーパーカッション・ステップなど)				
3	リズムで遊ぶ / 発表 (ボディーパーカッション・ステップなど)				
4	カラダで歌う (音を体現する)				
5	カラダで歌う / 発表 (音を体現する)				
6	子どもの音楽表現、これまでの授業の応用 ～ICTを活用して表現方法や表現活動の具体例を示したり、学生自身が体験したりできる機会を設ける～				
7	楽器を楽しむ (合奏)				
8	楽器を楽しむ (合奏)				
9	楽器を楽しむ / 発表 (合奏)				
10	創作『保育者が子ども達に贈る小さな学芸会』	概要・作品決定			
11	創作『保育者が子ども達に贈る小さな学芸会』	創作・練習			
12	創作『保育者が子ども達に贈る小さな学芸会』	創作・練習			
13	創作『保育者が子ども達に贈る小さな学芸会』	リハーサル			
14	創作『保育者が子ども達に贈る小さな学芸会』	発表			
15	授業の振り返り・まとめ				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容:					
楽典の基本を理解する					
※運動できる靴や服装で授業に臨む					
テキスト:					
(1)『子どものための音楽表現技術』萌文書林					
参考文献:					
学生に対する評価:					
(1)発表内容・提出物50%					
(2)受講姿勢50%					

開講年次:1年次秋		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		子どもの造形表現			
担当教員		森脇 環帆			
授業概要: 本授業では、子どもの造形表現教育のねらいを理解し表現活動に関する基礎知識の習得を目的とする。具体的な造形材料・技法の活用法と留意点、また、子どもの表現活動を援助する方法、保育者として自身の感性を磨く方法、グループで協働する方法を学ぶ。					
授業の到達目標: ・子どもの造形表現教育のねらいを理解する ・子どもの表現活動を援助する方法を知る ・保育者として自身の感性を磨く方法を知る ・グループで協働する方法を知る					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	ガイダンス 子どもの造形表現教育のねらい				
2	材料の基礎理Ⅰ 紙、和紙				
3	平面技法の基本Ⅰ				
4	平面技法の基本Ⅱ				
5	平面技法の基本Ⅲ				
6	平面技法の応用Ⅰ コラージュ				
7	平面技法の応用Ⅱ コラージュ、のりの指導法				
8	材料の基礎理解Ⅱ ビニール、プラスチック				
9	子どもの発達と造形表現 観察画				
10	指導計画作成と模擬保育Ⅰ 構図法、壁面装飾				
11	指導計画作成と模擬保育Ⅱ 構図法、壁面装飾				
12	指導計画作成と模擬保育Ⅲ 実技体験				
13	色彩学の基本				
14	材料の基礎理解Ⅲ 描画材研究				
15	材料の基礎理解Ⅳ 描画材研究				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容: 事前学習は、指定された教科書の範囲に目を通すことと、指示された準備物を用意すること。 事後学習は、授業で取り組んだ内容をスケッチブックにまとめること。					
テキスト: 樋口一成, 2018, 『幼児造形の基礎』萌文書林。					
参考文献: (1)厚生労働省, 2018, 『保育所保育指針』フレーベル館 (2)文部科学省, 2018, 『幼稚園教育要領』フレーベル館 (3)内閣府, 2018, 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館					
学生に対する評価: 課題、レポート(80%)受講姿勢(20%)					
実務経験のある教員による授業科目:－					

開講年次:2年次春		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		子どもの身体表現			
担当教員		田中 麻夜			
授業概要: 子どもたちはからだをつかってあそぶこと・表現することが大好きです。 保育の中で子どもたちの身体表現を引き出し、受け止めていくために必要な知識と技術を15回の授業の中で楽しく学び体得していきましょう。					
授業の到達目標: 乳幼児の特性を理解し、表現することの楽しさを実感・体得する。 子どもたちへの指導上の配慮点を理解する。 乳幼児のあそびを身体表現の視点からひろげ、深めていく。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	理論編 子どもと表現(1) 実践編 体験・生活から身体表現へ 4月の身体表現あそび				
2	理論編 子どもと表現(2) 実践編 体験・生活から身体表現へ 5月の身体表現あそび				
3	理論編 子どもの身体表現に寄り添う(1)乳児編 実践編 体験・生活から身体表現へ 6月の身体表現あそび				
4	理論編 子どもの身体表現に寄り添う(2)幼児編 実践編 体験・生活から身体表現へ 7月の身体表現あそび				
5	理論編 身体表現の指導の内容と段階 実践編 体験・生活から身体表現へ 8月の身体表現あそび				
6	理論編 身体表現の指導上の配慮 実践編 体験・生活から身体表現へ 9月の身体表現あそび				
7	実践編 ごっこあそびと身体表現 ①新聞紙を用いて 体験・生活から身体表現へ 10月の身体表現あそび				
8	実践編 ごっこあそびと身体表現 ②なわを用いて 体験・生活から身体表現へ 11月の身体表現あそび				
9	実践編 ごっこあそびと身体表現 ③お手玉を用いて 体験・生活から身体表現へ 12月の身体表現あそび				
10	実践編 ごっこあそびと身体表現 ④ごむひもを用いて 体験・生活から身体表現へ 1月の身体表現あそび				
11	実践編 ごっこあそびと身体表現 ⑤フラフープを用いて 体験・生活から身体表現へ 2月の身体表現あそび				
12	実践編 ごっこあそびと身体表現 ⑥てあわせあそびを用いて 体験・生活から身体表現へ 3月の身体表現あそび				
13	実践編 ごっこあそびと身体表現 ⑦にんぎょう・ぬいぐるみを用いて 身体表現の指導のポイント				
14	実践編 ごっこあそびと身体表現 ⑧絵本を用いて 身体表現あそびと保育者の役割				
15	『子どもと身体表現』学習の振り返りと総まとめ(実技試験)				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容: 授業に沿った資料プリントのまとめや振り返りをして授業理解の一助としてください 講義に関心を持った分野の書物などを参考にして、自分なりの理解を深めましょう					
テキスト: なし(うごきやすい服装・靴で参加してください) 授業中に資料プリントを適宜配布いたします					
参考文献: (1) 古市久子編著, 2013,『保育表現技術 ー豊かに育つ・育てる身体表現』ミネルヴァ書房。 (2) 高野牧子編著, 2015,『うきうきわくわく身体表現あそび ー豊かに広げよう! 子どもの表現世界』同文書院。					
学生に対する評価: 毎回提出のコメントペーパー(30 %)および実技試験(55%) 授業への出席・参加態度および受講姿勢・意欲(15%) などにより総合的に評価する					
実務経験のある教員による授業科目:ー					

開講年次:1年次春		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		保育方法・技術演習Ⅰ			
担当教員		浅井 忍			
授業概要: 保育者が備えるべき専門的力量的の中核となる「教育の方法・技術」について、講義で明らかにするとともにディスカッション、グループ学習、プレゼンテーション等アクティブ・ラーニングにより、授業を協働で創りあげていく。					
授業の到達目標: これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	オリエンテーション (教育方法の基礎的理論と実践を学ぶ意義、授業の進め方、評価方法、さまざまな保育教材の紹介)				
2	子どもの行動観察を通し、保育者に求められる能力についての考察(主体的・対話的で深い学びの必要性)				
3	子どもを取り巻く状況を知り、幼稚園・保育所の担う役割と求められる機能についての考察 自由保育時間に適した保育・教育環境の設定方法についての議論と演習				
4	絵本を用いた導入と、遊びや発表会への保育展開についての考察				
5	集団遊びの時間に適した保育環境の設定方法についての議論と演習				
6	保育実践における子どもとの対話を考察した教材研究				
7	リトミックの基礎技術① リズムを通しての教育方法				
8	リトミックの基礎技術② 音楽を通しての教育方法				
9	リズム体操や集団ゲームを通した小規模集団への指導技術				
10	保育教材開発と教育方法①(学級・児童及び生徒・教員・教室・教材などの基礎的要件)				
11	保育教材開発と教育方法② 身近な材料を利用した教材制作				
12	開発した教材および教育法の発表(幼児理解に基づく)。				
13	指導案作成① 乳児を想定した指導案作成の演習				
14	指導案作成② 幼児を想定した指導案作成の演習				
15	学習の振り返りとまとめ(定期試験)				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容: 次回の事業内容を念頭におき、子どもに出会う場面において積極的な観察を行い、子どものイメージを持って授業に望むよう努める。また、授業内で使用したワークシートの読み返しを徹底することで事後学習の習慣化を図る。					
テキスト: 特になし。					
参考文献: 村上康成ほか, 2001,『ピーマン村体操CDブック』童心社、中川ひろたか, 1995『さつまのおいも』童心社。 浅井忍・フェケテ晴子, 2018,「養成校におけるリトミックの具体的活動内容の検討」『草苑保育専門学校研究紀要』3号21頁～25頁。 浅井忍, 2018,「保育者養成校における「保育技術指導」の表現活動に関する考察」『草苑保育専門学校研究紀要』3号17頁～20頁。 厚生労働省, 2017,『保育所保育指針』フレーベル館。 文部科学省, 2017,『幼稚園教育要領』フレーベル館。					
学生に対する評価: 受講姿勢・提出物・発表:50%、・授業内試験:50%					
実務経験のある教員による授業科目:保育の現状を捉え、現在にかかえる教育・保育現場での課題点(子どもへの発達と発育環境の差・保護者対応・保育現場の人間関係・地域のコミュニティ低下)から解決策する手段と方法の指導を行う。					

開講年次:1年次秋		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名	保育方法・技術演習Ⅱ				
担当教員	浅井 忍				
授業概要: 保育者が備えるべき専門的力量の中核となる「教育の方法・技術」について、講義で明らかにするとともにディスカッション、グループ学習、プレゼンテーション等アクティブ・ラーニングにより、授業を協働で創りあげていく。					
授業の到達目標: これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	感覚遊びから、保育への実践活用を学ぶ① 絵本の紹介				
2	感覚遊びから、保育への実践活用を学ぶ② DVDの紹介				
3	保育に活用する名札製作を通して、実践での子どもを知る①				
4	保育に活用する名札製作を通して、実践での子どもを知る②				
5	保育に活用する名札製作を通して、実践での子どもを知る③				
6	保育教材開発と教育方法① 特殊な材料を利用した教材企画				
7	保育教材開発と教育方法② 特殊な材料を利用した教材作成				
8	保育教材開発と教育方法③ 特殊な材料を利用した教材作成				
9	保育教材開発と教育方法④ 特殊な材料を利用した教材作成				
10	開発した教材および教育法の発表(幼児理解に基づく)				
11	保育設定と展開① 保育場面を想定した、ICTを利用した保育展開方法の作成				
12	保育設定と展開② 保育場面を想定した、実現するための方法や技術の検討				
13	保育設定と展開③ 保育場面を想定した、作成方法の具体化				
14	保育設定と展開④ 保育場面を想定した、模擬保育演習				
15	学習の振り返りとまとめ(定期試験)				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容: 次回の事業内容を念頭におき、子どもに出会う場面において積極的な観察を行い、子どものイメージを持って授業に望むよう努める。 また、授業内で使用したワークシートのフィードバックをこつて事後学習の習慣化を図る。					
テキスト: なし					
参考文献: エリック・カール, 1997『できるかな? あたまからつまさきまで』偕成社。 かこさとし, 2016『未来のだるまちゃんへ』文藝春秋。 帯木蓬生, 2017『ネガティブ・ケイパビリティ』朝日新聞出版。 レッジョ・チルドレン, 2012『子どもたちの100の言葉』日東書院本社。 厚生労働省, 2017『保育所保育指針』フレーベル館。 文部科学省, 2017『幼稚園教育要領』フレーベル館。					
学生に対する評価: 受講姿勢・提出物・発表:50%、授業内試験:50%					
実務経験のある教員による授業科目:保育の現状を捉え、現在にかかえる教育・保育現場での課題点(子どもへの発達と発育環境の差・保護者対応・保育現場の人間関係・地域のコミュニティ低下)から解決策する手段と方法の指導を行う。－					

開講年次:1年次秋		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名	乳児保育Ⅰ				
担当教員	横山正美				
授業概要: ・主に教科書に沿って授業を進めるが、必要に応じてグループワーク・ワークシートの活用・事例を交えて学びを広げる。 ・演習では、保育現場を想定し、人形等を使いながら実際の手順を学んでいく。					
授業の到達目標: (1)保育士を目指すものとして、命についての洞察を深め責任を自覚する。 (2)3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解し展開できるようになる。 (3)養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について学び、実践できるようになる。 (4)乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解し保育現場で展開できるようになる。 (5)上記(1)～(3)を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解し作成できるようになる。 (6)養育の引き出し(洞察力・想像力・創造力・対応力等)を増やしていくこと目指し、学び続ける態度を養う。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	オリエンテーション～乳児保育を学ぶにあたって				
2	乳児保育の目的と役割				
3	乳児保育の基本				
4	0、1、2歳児の発達				
5	乳児(0歳児)の保育内容				
6	1歳以上3歳未満児の保育内容				
7	乳児の遊びと生活の基本事項				
8	乳児の生活の基本				
9	乳児の遊び				
10	乳児保育の環境構成				
11	乳児保育における全体的な計画				
12	乳児保育における子育て支援				
13	乳児保育における連携				
14	一人一人を健やかに育てていくために				
15	学期のまとめと振り返り				
	定期試験期間における試験：実施する				
事前・事後学習の内容: 次回の授業内容を事前に伝え、意欲を持って学べるよう準備を促すと共に、授業内容の予習や振り返り用のワークシートでの復習を活用し、事前・事後の学習の習慣化を図ると共に、確実な知識と技術の習得に勤めていく。					
テキスト: 小山朝子、2020、『講義で学ぶ 乳児保育』、わかば社					
参考文献: ①『保育所保育指針解説』フレーベル館。 ②石丸るみ・本吉圓子、2006、『先生ママみたい』萌文書林。 ③阿部和子、2019、『改訂 乳児保育の基本』萌文書林。 ④茶々保育園グループ社会福祉法人あすみ福祉会編、2019、『見る.考える.創りだす 乳児保育Ⅰ.Ⅱ』萌文書林。 ⑤須永進、2019、『乳児保育の理解と展開』同文書院。					
学生に対する評価：定期試験60％、提出物等20％、受講姿勢20％					
実務経験のある教員による授業科目					
保育士経験を通し、乳児から幼児への発達の流れを経験しており、特に産休明け乳児保育の立ち上げの環境整備と保育士の関わりの実践を経験した事や、2児の母になり利用者側の目線で乳児保育を考える機会を得た事、わらべ歌ベビーマッサージに携わる中、母親の抱える問題や不安の相談を受ける経験ができた事等を、現場で実践に生かせる知識として授業の中で伝えていきます。					

開講年次:2年次春		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		乳児保育Ⅱ			
担当教員		横山正美			
授業概要:					
・ 主に教科書に沿って授業を進めるが、必要に応じてグループワーク・ワークシートの活用・事例を交えて学びを広げる。					
・ 演習では、保育現場を想定し、人形等を使いながら実際の手順を学んでいく					
授業の到達目標:					
(1)保育士を目指すものとして、命についての洞察を深め責任を自覚する。					
(2)3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解し展開できるようになる。					
(3)養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について学び、実践できるようになる。					
(4)乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解し保育現場で展開できるようになる。					
(5)上記(1)～(3)を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解し作成できるようになる。					
(6)養育の引き出し(洞察力・想像力・創造力・対応力等)を増やしていくこと目指し、学び続ける態度を養う。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画			演習計画 使用できる教室により変更の可能性あり	
1	乳児保育の意義			抱っこ 沐浴	
2	0～3歳までの発育・発達			おむつ交換	
3	食事の援助と環境			おんぶ 着替え	
4	排泄の援助と環境			授乳の仕方 排気の仕方	
5	睡眠・休息の援助と環境			離乳食の食べさせ方	
6	着脱に関する援助と環境			連絡帳①	
7	清潔に関する援助と環境			連絡帳②	
8	乳児保育における健康と安全			連絡帳③	
9	乳児(0歳児)の保育内容と遊び			連絡帳④	
10	1歳以上3歳未満児の保育内容				
11	1歳以上3歳未満児の遊び			グループワーク(年齢別の発達と保育内容について)	
12	乳児保育における計画と評価			グループワーク(年齢別の発達と保育内容について)	
13	乳児保育を支える連携			グループワーク(年齢別の発達と保育内容について)発表	
14	授業内演習試験				
15	授業内演習試験解説				
	定期試験期間における試験：実施しない				
事前・事後学習の内容:					
次回の授業内容を事前に伝え、意欲を持って学べるよう準備を促すと共に、授業内容の予習や振り返り用のワークシートを活用し、事前・事後の学習の習慣化を図ると共に、確実な知識と技術の習得に努めていく。					
テキスト:					
小山朝子、2020、『演習で学ぶ 乳児保育』、わかば社					
参考文献:					
①『保育所保育指針解説』 フレーベル館。					
②石丸るみ・本吉圓子、2006、『先生ママみたい』萌文書林。					
③阿部和子、2019、『改訂 乳児保育の基本』萌文書林。					
④茶々保育園グループ社会福祉法人あすみ福祉会編、2019、『見る.考える.創りだす 乳児保育Ⅰ.Ⅱ』萌文書林。					
⑤須永進、2019、『乳児保育の理解と展開』同文書院。					
学生に対する評価: 演習試験60%、 グループワーク発表20%、 受講姿勢20%					
実務経験のある教員による授業科目					
保育士経験を通し、乳児から幼児への発達の流れを経験しており、特に産休明け乳児保育の立ち上げの環境整備と保育士の関わりの実践を経験した事や、2児の母になり利用者側の目線で乳児保育を考える機会を得た事、わらべ歌ベビーマッサージに携わる中、母親の抱える問題や不安の相談を受ける経験ができた事等を、現場で実践に生かせる知識として授業の中で伝えていきます。					

開講年次:2年次秋		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名	子どもの健康と安全				
担当教員	梅崎 あき				
授業概要:					
テキストとデモンストレーションで基本的な理論と技術を学んだ後、実際の場面を想定し人形や物品を用いて練習する。子どもが健康・安全に行動できるように保育者は具体的にどのように支援すべきかをグループで考え、まとめ、発表する。					
授業の到達目標:					
(1)保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 (2)関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 (3)子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 (4)関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 (5)子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	子どもの事故について理解しよう				
2	災害への備えについて理解しよう				
3	子どもの体調不良への対応について理解しよう				
4	子どもの応急処置・救急処置について理解しよう				
5	子どもの感染症とその予防について理解しよう1				
6	子どもの感染症とその予防について理解しよう2				
7	子どもの保健的対応について理解しよう1				
8	子どもの保健的対応について理解しよう2				
9	子どもの保健的対応について理解しよう3				
10	子どもの保健的対応について理解しよう4				
11	慢性疾患のある子どもへの対応を理解しよう				
12	障害のある子どもへの対応を理解しよう				
13	アレルギーのある子どもへの対応を理解しよう				
14	地域保健活動と保育との関係を理解しよう				
15	保健活動の計画と評価について理解しよう				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容:					
予習:授業内で示された次回テーマについて、該当範囲のテキストに目を通し、基礎的な用語等を調べること。 復習:テキストや配布されたプリント等を見直し、紹介された文献等で発展的な学びへ繋げること。また、小テストや課題なども適宜実施する。 技術は適宜動画等で振り返る。					
テキスト:					
松本峰雄, 2020, よくわかる! 保育士エクササイズ7『子どもの保健と安全 演習ブック』ミネルヴァ書房。 その他、適宜授業内で資料配布					
参考文献:					
「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成 23 年 3 月、厚生労働省)、「2018 年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成 30 年 3 月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成 28 年 3 月、内閣府・文部科学省・厚生 労働省)等					
学生に対する評価:					
(1)授業への取り組み姿勢(出席回数、授業態度、意欲など):10% (2)課題・実技評価:40% (3)筆記試験:50%					
実務経験のある教員による授業科目:					
産科救急,小児科病棟,小児科クリニック,小児在宅医療の看護師、保育所,子育て支援施設,保健センターの保健師の実務経験あり 現在も区の子育て支援事業で保健師として健診や相談に携わっている。					

開講年次:2 年次春		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名	特別支援保育Ⅰ				
担当教員	藤原 彩子／橋場 隆				
授業概要: 現場で必要とされる障害知識ならびに保育・指導技術を中心に、授業の到達目標に照合しながら、実際の事例などを取り入れながらすすめていく。					
授業の到達目標: 近年、支援学校、支援学級はもとより通常の学級においても発達障害や軽度知的障害のある子どもが増えている。さらに難病や身体的疾患をはじめとする様々な状況を抱える子ども、あるいは外国籍、帰国児童及び生徒が学習活動に参加している。個々に実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難(貧困、虐待、要養育支援、言語問題、その他)を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の職員や関係機関と連携し、教育・保育的支援者として組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	障害の概念と統合保育の成り立ちⅠ				
2	障害の概念と統合保育の成り立ちⅡ(インクルーシブ教育の理念と制度、今後に向けて)				
3	子どもの心身発達と障害Ⅰ(精神機能を中心に)				
4	子どもの心身発達と障害Ⅱ(身体機能を中心に)				
5	運動障害(肢体不自由)の理解と援助				
6	視覚・聴覚障害の理解と援助				
7	知的発達障害の理解と援助				
8	発達障害概念				
9	①知的障害Ⅰ				
10	②知的障害Ⅱ				
11	③自閉症スペクトラム障害Ⅰ				
12	④自閉症スペクトラム障害Ⅱ				
13	⑤注意欠如・多動性障害(ADHD)				
14	⑥注意欠如・多動性障害(ADHD)				
15	⑦学習障害(LD)				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容: 障がいのある症状や周辺状況、それらに必要な特別支援の実践に関して調べてプレゼンテーションを行う。					
テキスト: 橋場隆, 2014,『発達障害の幼児へのかかわりー概要・取り組み・77のQ&A』小学館。 橋場隆, 2019,『保育者のための発達障がい相談室』小学館。					
参考文献: 適宜、資料などを作成・提供する。					
学生に対する評価: 定期試験結果(50%) 授業参加態度(50%)					
実務経験のある教員による授業科目: 保育所、幼稚園等で相談・指導業務を担っている実務経験者の講師が、保育現場の実情に即した実践的な技術について講義・指導を行う。					

開講年次:2 年次秋	必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名	特別支援保育Ⅱ			
担当教員	藤原 彩子／橋場 隆			
授業概要: 現場で必要とされる障害知識ならびに保育・指導技術を中心に、授業の到達目標に照合しながら、実際の事例などを取り入れながらすすめていく。				
授業の到達目標: 近年、支援学校、支援学級はもとより通常の学級においても発達障害や軽度知的障害のある子どもが増えている。さらに難病や身体的疾患をはじめとする様々な状況を抱える子ども、あるいは外国籍、帰国児童及び生徒が学習活動に参加している。個々に実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難(貧困、虐待、要養育支援、言語問題、その他)を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の職員や関係機関と連携し、教育・保育的支援者として組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。				
授業計画				
授業回数	授業内容及び計画			
1	発達支援保育の基本			
2	実践例報告Ⅰ(発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法等)			
3	実践例報告Ⅱ			
4	職員間の協働			
5	保護者理解と支援Ⅰ			
6	保護者理解と支援Ⅱ(特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭との連携)			
7	専門機関と療育			
8	就学問題と教育機関の現状Ⅰ(通級による指導、自立活動の教育課程上の位置づけ)			
9	就学問題と教育機関の現状Ⅱ(特別支援教育の実践と課題、個別の指導計画及び教育支援計画作成の意義と方法)			
10	統合保育の課題Ⅰ			
11	統合保育の課題Ⅱ(ソーシャルインクルージョンを目指して)			
12	発達支援保育の実践Ⅰ			
13	発達支援保育の実践Ⅱ(「母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的対応」)			
14	障害児・者支援の課題Ⅰ(幼児期～学童期)			
15	障害児・者支援の課題Ⅱ(青年期～成人期)			
	定期試験期間における試験:実施する			
事前・事後学習の内容: 障がい の症状や周辺状況、それらに必要な特別支援の実践に関して調べてプレゼンテーションを行う。				
テキスト: 橋場隆, 2014,『発達障がい の幼児へのかかわりー概要・取り組み・77 の Q&A』小学館。 橋場隆, 2019,『保育者のための発達障がい 相談室』小学館。				
参考文献: 適宜、資料などを作成・提供する。				
学生に対する評価: 定期試験結果(50%) 授業参加態度(50%)				
実務経験のある教員による授業科目: 保育所、幼稚園等で相談・指導業務を担っている実務経験者の講師が、保育現場の実情に即した実地的な技術について講義・指導を行う。				

開講年次:2年次春		選択・必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		社会的養護Ⅱ			
担当教員		関 博之			
授業概要:					
社会的養護Ⅰで得た基礎知識を基に、実際の社会的養護の支援場面における保育士としての支援手法について学びます。授業では、大きく講義と演習に分け、演習では、具体的な支援場面について提起された課題について、グループで話し合いをし、結果を全体で共有する形をとります。グループで話し合うことは、事象に対する多角的な見方を養うことに加え、社会福祉の現場での仕事は、ディスカッションの連続とも言えることから、グループセッション自体が極めて実践的な演習になると考えています。 テキストを中心に講義、演習共に行っていきますが、他の文献からも演習課題は抽出するようにします。					
授業の到達目標:					
・社会的養護を行うそれぞれの機関の支援内容を知る ・一人の架空の人物を介して、それぞれの成長過程における社会的養護の支援内容を、時系列的に知る ・社会的養護の支援場面における保育士の支援の在り方について、体験的に学ぶ ・以上を介して、実習先や就職先を選択する際の一助となる程度の、具体的な現場イメージをつかめるようにする					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	「社会的養護の理解を深める①」 社会的養護の現状と課題				
2	「社会的養護の理解を深める②」 〔演習〕ある医療機関における社会的養護の在り方(こうのとりのゆりかご)について考える				
3	「アドミッションケア①」 施設入所・里親委託に伴う支援について考える				
4	「アドミッションケア②」 〔演習〕施設入所する児童への説明について考える				
5	「インケア①」 日常生活支援				
6	「インケア②」 治療的支援				
7	「インケア③」 〔演習〕児童心理治療施設・児童自立支援施設における支援について考える				
8	「インケア④」 〔演習〕養護施設・乳児院における支援について考える				
9	「リーピング支援①」 自立支援				
10	「リーピング支援②」 〔演習〕進学支援について考える				
11	「アフターケア①」 家庭復帰・社会に出たこどもへの支援				
12	「アフターケア②」 〔演習〕家庭復帰後の支援について考える				
13	「ソーシャルワーク①」 社会的養護におけるソーシャルワーク／〔演習〕母子生活支援施設退所時のソーシャルワークについて考える				
14	「ソーシャルワーク②」 里親支援／〔演習〕里親養育における試し行動について考える				
15	「記録と評価」 記録・ケアプラン・評価／〔演習〕ジェノグラムの作成				
	定期試験期間における試験：実施する				
事前・事後学習の内容:					
普段から、社会的養護、こどもの人権に関する情報を得るようにしてください。					
テキスト:					
杉山宗尚・原田旬哉編(2021)「図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ」(株)萌文書林 2,000円(税別)					
参考文献:					
適宜お伝えします。 学生の皆さんから寄せられる時事的トピックスの情報も、積極的に活用させていただきます。					
学生に対する評価:					
定期試験:60点 受講情況:40点					
実務経験のある教員による授業科目:					
社会的養護の現場での勤務経験は長く、そこで得た知見は積極的に伝えていきたいと思います。しかし、社会的養護に関連する法制度もめまぐるしく変わってきており、その新たな情報については、学生の皆さんと共に敏感にキャッチし、授業で共有し合っていきたいと思います。					

開講年次:2年次秋		選択・必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名	子育て支援				
担当教員	東 敦子				
授業概要:					
様々な家庭の状況に応じて、保護者や地域の関係者と連携をして、子どもの育ちを見守り支えていくことができるように、具体的な事例を通して、自分の考えをまとめたり、意見を交換したりしながら、子育て支援に関わる知識や技術を学ぶ。授業では各トピックスに関する講義とともに、保育士が実際の支援場面をイメージしながら、具体的な技術を身に付けられるようにロールプレイなどのワーク等をおこなう。					
授業の到達目標:					
(1)現代の社会における子育ての課題をふまえ、子育て支援の実際について、事例を通して理解する。 (2)様々なニーズのある家族に対する具体的な支援の内容や方法について理解し、自分なりの考えを表現できる。 (3)具体的な相談場面を想定して、助言や情報提供、行動見本の提示の仕方など、保育者として必要な技術を習得する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	オリエンテーション 保育所等における子育て支援 子育て支援における保育士の役割を理解する				
2	子育て支援の意義と保育者の基本的態度 児童の権利に関する条約の理解と家庭や就学前施設の役割について理解する				
3	子育て支援の基本 保育士の倫理綱領を理解し、エンパワメントの考え方について説明できる				
4	子育て支援における保護者理解と支援技術 保護者との信頼関係を気づくためのバ이스ティックの7原則を理解できる。				
5	保育士による子育て支援の実際 保育現場における子育て支援の実際について理解する。				
6	園内での職員間の連携と協働 チームで子育て支援に取り組むポイントを理解する				
7	支援における子ども・保護者の理解 子どもの育ちを共有するための具体的な方法を理解する				
8	保護者参加の実際 保護者参加の方法と保育士の役割を考える				
9	地域の社会資源の活用と連携 地域の社会資源を把握し、関係機関との連携の方法を理解する				
10	子ども虐待への対応と家庭への支援 子ども虐待に対する対応の方法を理解する				
11	障害のある子どもとその家庭への支援 障害のある子どもを育てる家庭の現状を理解し、支援について説明できる				
12	貧困家庭への支援 貧困家庭への支援のあり方を考え、保育士の役割を考える				
13	多様なニーズのある子どもをもつ家庭への支援 外国につながる子ども等をもつ家庭への支援のあり方を考えることができる				
14	地域の子育て支援施設における支援 保育所等が地域の子育てを担う支援拠点であることを学ぶ				
15	まとめ これからの子育て支援について 今後の保育所等における子育て支援のあり方を考える				
	定期試験期間における試験：実施する				
事前・事後学習の内容:					
事前学習として、次の授業内容に即したテキストの箇所をあらかじめ読み、自分の考えをまとめておく。 事後学習としては、各授業のキーワードを含んだ小課題を示す。 日頃より、インターネットなどを使い、自身の住んでいる地域の子育て支援のリソースについて情報を収集する。					
テキスト:					
新・子育て支援 子どもの姿を喜びに変えるために 松井剛太編著 教育情報出版					
参考文献:					
保育所保育指針解説書 必要箇所を紹介する					
学生に対する評価:					
定期試験 60% 授業での取り組み(小課題含む) 40% により総合的に評価する。					
実務経験のある教員による授業科目					
保育、幼児教育、子育て相談、療育施設などの現場での実務経験のある教員が、具体的な事例を踏まえて、子育て支援の現場に必要な知識や技術についての演習をおこなう。					

開講年次:2年次秋		選択・必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		子育て支援			
担当教員		川崎 理香			
授業概要: 現代の社会環境における子育て家庭の現状について理解し、子育て支援の概念や基本的な知識および技術を習得する。また、授業は講義形式を中心に進めるが、主体的・対話的学びを目指し、グループワークを通じて受講者の考えを意識化する作業も行う(習熟度により応用ワークを実施する場合もある)。なお、授業の進行状況等により内容変更の可能性がある。					
授業の到達目標: 1. 現代社会における子育て家庭のニーズを学び、子育て支援の基本を理解する。 2. 保育士が行う子育て支援について、多様な場や対象に即した支援の内容と方法および技術を養う。 3. 保育士の専門性を活かした相談支援について、その特性と展開を習得する。 以上、保育士が行う「子育て支援」の特性を学習する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	オリエンテーション 講義内容・取り組み方等の説明を行う				
2	保育士による保護者支援 保育の専門性を活かした保護者支援を理解する				
3	保育者の基本的態度 -バイステック7原則- 保護者との相互理解(信頼関係の形成)までのプロセスを理解する				
4	家庭支援の多面的理解 子育て家庭を取り巻く現代社会の現状を理解する				
5	支援における子ども・保護者理解 相談支援のプロセスを理解する				
6	支援計画の立案と環境の構成 専門職として客観性の高い相談支援の展開を理解する				
7	支援計画の実施と評価-PDCAサイクルの活用- 専門的知識・技術を活用した事例を検討する				
8	保育所における支援の実際と配慮 保育所の支援事例を検討する				
9	支援における組織的な取り組み 保育の質の向上に向けた職員間の連携・協働を理解する				
10	地域の社会資源の活用と専門職との連携・協働 身近な子育て支援に関する社会的資源を理解する				
11	地域の子育て支援施設における支援 地域での子育て支援施設の特性を活かした支援の現状を検討する				
12	障害のある子どもおよびその家庭への支援 幼児の障害児支援を検討する				
13	特別な配慮を要する子どもおよびその家庭への支援 現代社会において家庭内に発生した事件(虐待・DV等)を検討する				
14	要保護児童および家庭への支援と多様な支援ニーズを抱える家庭への理解 子どもの貧困等を検討する				
15	まとめ これまでの講義内容の復習と資料作成を行う				
	定期試験期間における試験: 実施する				
事前・事後学習の内容: ・次回の講義内容に即した課題を提示し、アクティブラーニングの習慣化を図る。 ・ワークシートを配布し、講義後の知識や技術の習得に活用する。 ・現代社会における子育て家庭に関する事象に興味や関心を持ち、主体的な所感を日常的に意識する。					
テキスト: 『新基本保育シリーズ19 子育て支援』中央法規					
参考文献: 保育所保育指針解説書、必要に応じて紹介する。					
学生に対する評価: 定期試験(50%)、授業への取り組み(50%)により総合的に評価する。					
実務経験のある教員による授業科目 保育・幼児教育現場、児童厚生施設での実務経験のある教員が子育て支援における知識や現場に必要な技術を授業内で展開する。					

開講年次:2年次春		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:講義
科目名		子どもの人間関係			
担当教員		菅原 陽子			
授業概要					
保育の中の「人間関係」について、その専門的捉え方、深め方について学ぶ。 幼児の発達に応じた「人間関係」にかかわる具体的な保育の実際こついて理解する。					
授業の到達目標:					
幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景について学び、人と関わる力の育ちがその後に続く一人一人の人生を支える力となることを理解する。 幼児期の人間関係の発達について、園生活における関係発達論的視点から理解する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	保育内容「人間関係」をめぐる視点				
2	人とのかかわりの育ちの意味				
3	人とのかかわりの原点				
4	人とのかかわりの発達				
5	家族や地域とのかかわりと育ち				
6	領域「人間関係」のねらいと内容				
7	領域「人間関係」と小学校とのつながり				
8	それぞれの願いを大切に過ごす3歳未満児の生活				
9	安心感からひろがる3歳児の姿				
10	遊び込み伝え合おうとする4歳児の姿				
11	目標を共にし協働する5歳児の姿				
12	子ども理解から保育をつくる				
13	子どもが対話する保育				
14	領域「人間関係」の現代的課題を考える				
15	定期試験・解説				
	定期試験期間における試験：実施しない				
事前・事後学習の内容:					
*テキスト・配布資料の通覧。 *実習などの具体的な保育場面や幼児の姿を通して人間関係の発達や指導を考察する。					
テキスト:					
*大豆生田啓友・岩田恵子・久保健太(編著), 2022年,『アクティバート保育学⑧ 保育内容「人間関係」』ミネルヴァ書房。					
参考文献:					
*大豆生田啓友・豪田トモ, 2022年,『子どもが対話する保育「サークルタイム」のすすめ』小学館。 *Rheta DeVries & Betty Zan, 橋本裕子・加藤康彦・玉木哲淳(監訳), 2002年,『子どもたちとつくりだす道徳的なクラス 構成論による保育実践』大学教育出版。					
学生に対する評価:					
定期試験(60%)、授業への参加様態・リアクションペーパー(40%)					
実務経験のある教員による授業科目:					
幼稚園教諭(3・4・5歳児クラス担任の経験・実習指導経験)					
NPO法人訪問型保育支援事業子育てサポーター(生後2か月から4歳児の保育・家庭支援の経験)					

開講年次:1年次秋		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		子どもの環境			
担当教員		岩田 大			
授業概要:					
子どもを取り巻く環境(物的環境、人的環境、自然環境、社会的環境)についての理解を深め、乳幼児が自ら心を動かし、主体的に関わることの重要性についても学ぶ。それらを通して子どもの活動が豊かになるための環境構成を知る。子どもの心が育つ保育環境の中でも保育現場が守るべき環境と子ども自ら体験を重ねて身につけていくものの保育の境界線を理解し、安心・安全な環境の中で社会情動的スキルが身につく環境についても考えを深めていく。本学習を基礎として保育現場の実習等につがるようにする。					
授業の到達目標:					
1. 子どもを取り巻く環境とその関わり的重要性、乳幼児の発達こととしての環境の意義を理解する					
2. 乳幼児期の思考・科学的概念を理解し、それを育むための環境構成について知る					
3. 子どもの安心安全な保育環境についての保育現場での実践を理解し、保育者としての責務と子ども自らの体験活動の重要性について理解を深める					
4. 実習や保育現場に身を置くことをイメージし、環境を見る視点について身につける					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	イントロダクションー「子どもの環境」				
2	「領域」の意義と領域「環境」のねらい及び内容				
3	保育の基本と乳児保育における「環境」とのかかわり				
4	保育の基本と幼児教育における「環境」とのかかわり				
5	遊びと生活から考える「環境」				
6	子どもの安全な環境と心の育ち				
7	安全教育 リスクとハザードの境界線 ～リスクマネジメント・ハインリッヒの法則等の園での取り組みを理解する～				
8	科学する心～数量や図形との関わり～				
9	幼児子の終わりまでの育てほしい姿を捉える				
10	地域の文化や伝統、行事・外国の文化などに親しむ保育の実践				
11	社会とのかかわりを支える保育の展開 ～様々な資源の活用～				
12	持続可能な社会に向けた環境教育①				
13	持続可能な社会に向けた環境教育②				
14	領域「環境」をめぐる現代的な課題				
15	修学のまとめ レポート試験				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容:					
『保育所保育指針解説』、『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育保育要領解説』をよく読んでおくこと。 「保育内容指導法 環境」を既に学んだ学生は、授業内容を思い出しておくこと。					
テキスト:					
久保健太・高嶋景子・宮里暁美 編著 『保育内容「環境」』ミネルヴァ書房					
参考文献:					
文部科学省, 2018,『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。 厚生労働省, 2018,『保育所保育指針解説』フレーベル館。 内閣府, 2018,『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館。 適宜PPTを使用して実施(東京都保育士等キャリアアップ研修にて実施している内容に基づいた内容:講師本人作成資料)					
学生に対する評価:					
レポート試験 60% 受講姿勢(発表・制作物評価含む) 40%					
実務経験のある教員による授業科目:○					

開講年次:1年次秋		必修	単位数: 1	時間数: 30	授業形態: 演習
科目名		子どもの環境			
担当教員		岸 久美子			
授業概要:					
保育内容指導法「環境」で学んだこと活かして、幼児教育の現場で実践する方法を学ぶ。 インクルーシブ教育における保育環境、ユニバーサルデザインについて学ぶ。 グループディスカッションや発表を通して、子どもの発達や状況に合わせた留意及び配慮の方法を学ぶ。					
授業の到達目標:					
指導案を作成後、実際に模擬保育を行い、その振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実践について理解する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	ガイダンス				
2	指導計画と環境				
3	秋の折り紙				
4	多文化・障がいのある子どもの環境				
5	小テスト ユニバーサルデザイン				
6	自然との関わり				
7	季節に合わせた環境作り①				
8	季節に合わせた環境作り②				
9	地域環境との関わり①				
10	小テスト 地域環境との関わり②				
11	保育者の環境①				
12	保育者の環境②				
13	クリスマスに向けた折り紙				
14	子どもの安全を考えた環境				
15	まとめ				
	定期試験期間における試験: 実施する				
事前・事後学習の内容:					
駒井美智子・横山文樹 編著(2021)保育内容「環境」 中央法規					
テキスト:					
駒井美智子・横山文樹 編著(2021)保育内容「環境」 中央法規					
参考文献:					
厚生労働省(2018)保育所保育指針解説 フレーベル館、文部科学省(2018)幼稚園教育要領解説 フレーベル館、内閣府(2018)幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館 適宜、プリントを配布する。					
学生に対する評価:					
筆記試験 60%					
小テスト、提出物、受講態度(出欠席含む) 40%					
実務経験のある教員による授業科目: -					

開講年次:2年次春		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		子どもの言葉			
担当教員		浅井 忍			
授業概要: 子どもの実際や具体的事例・映像を通して、発達段階に即した専門的知識や技術活用の判断力を養う。子どもと関わる姿や場面を想定・推察した「構成力」「実践力」の構築を学びの基盤として演習へ繋げる。ICTの積極的活用から能動且つ積極的な対話によるアクティブラーニング学習を重点に授業展開を行う。					
授業の到達目標: ・保育者になるイメージから「言葉」を用い、設定場面で適切な技術を活用できるようになる。 ・「言葉」の領域と他領域の関連を理解し、柔軟で豊かな構想に繋げる。 ・子どもが育む領域「言葉」の目標に対する理解を、自らの主体的な学びにより伝えあいや発表で深める。 ・子どもの「言葉」について保育者の関わりの重要性を説明できるようになる。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	人間のもつ「言葉」の機能 ワークショップ				
2	児童文化財の用い方と演習				
3	子どもの「言葉」の獲得 発達過程と言葉のつながり【乳児】視覚教材				
4	子どもの「言葉」の獲得 発達過程と言葉のつながり【幼児】視覚教材				
5	言葉遊び 保育教材作成・演習①				
6	言葉遊び 保育教材作成・演習②				
7	言葉遊び 保育教材作成・演習③				
8	領域「言葉」と他領域の関わり				
9	領域「言葉」の育ちと小学校への連携				
10	領域「言葉」における援助				
11	領域「言葉」に関わる具体的な指導案作成①				
12	領域「言葉」に関わる具体的な指導案作成と教材準備②				
13	領域「言葉」に関わる具体的な指導案作成と教材準備③				
14	領域「言葉」に関わる具体的な指導案作成と教材準備による実演④				
15	まとめ・定期試験				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容: ・授業毎にフィードバックを行い、今後の予定と資料収集・準備について伝える。 ・課題提出、発表を適宜、行う。					
テキスト:なし					
参考文献: 安野光雅、大岡信、谷川俊太郎、松居直、1979、『にほんご』福音館書店。 イルカ、2010、『まあいいのち』小学館。 江戸子ども文化研究会編、1993、『浮世絵のなかの子どもたち』くもん出版。 さかなクン、2007、『さかなのなみだ』二見書房。 たにかわしゅんたろう、2019、『へいわとせんそう』プロンズ社。 町田おやじの会、2004、『障害児なんだろうちの子ってと言えたおやじたち』ぶどう社。 六々園春足、1830、『猿蟹ものがたり』(浅井所蔵)。 柳煙堂、1832、『幼稚画手本』(浅井所蔵)。 厚生労働省、2017『保育所保育指針』フレーベル館。 文部科学省、2017『幼稚園教育要領』フレーベル館。					
学生に対する評価: ワークシートの提出・発表50%、定期試験50% (授業態度・主体性・意欲により総合的に判断)					
実務経験のある教員による授業科目: 現在にかかえる教育・保育現場での課題点(子どもへの発達と生育環境の差・保護者対応・保育現場の人間関係・地域のコミュニティ低下)を、領域「言葉」とコミュニケーションを通して解決する手段と方法の指導を行う。					

開講年次:2年次秋		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名	子ども理解				
担当教員	徳田 多佳子				
授業概要:					
子ども理解は、保育・教育におけるあらゆる営みの基本である。実際の子どもの姿を想定しながら、保育者はどのように子ども理解を進めていけばよいか、どのような援助をしていけばよいかについて検討する。その際アクティブ・ラーニングの視点から、子ども個体の内面だけでなく、周囲を取り巻く様々な環境を含めて検討する。理論的な側面から実践へと発展できるように、学生が自ら手立てを考察できるようにする。					
授業の到達目標:					
1.乳幼児期の子どもの発達の意義を理解し、そこから子どもの発達や学びを捉える原理を理解している					
2.子ども理解を深めるための、保育者の基礎的な態度を理解している					
3.観察や記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる					
4.個と集団の関係を捉える意義や方法を理解し、子どものつまずきを周りの子どもとの関係やその他の背景から理解している					
5.保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	イントロダクション 保育における子ども理解の意義				
2	現行の幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針について 子ども理解に基づく養護・教育の一体的展開				
3	保育者の自己理解と他者理解 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり				
4	保育者の専門性としての子ども理解① 子どもの生活と遊び				
5	保育者の専門性としての子ども理解② 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達				
6	保育者の専門性としての子ども理解③ 子ども相互の関わりと関係づくり				
7	保育者の専門性としての子ども理解④ 集団における経験と育ち				
8	保育者の専門性としての子ども理解⑤ 保育環境の理解とその構成・変化・移行				
9	子どもを理解する方法① 観察、記録				
10	子どもを理解する方法② 評価・省察				
11	保護者支援 職員間の対話・保護者との情報の共有				
12	多様な子どもへの理解① 発達の課題に応じた援助と関わり				
13	多様な子どもへの理解② 特別な配慮を要する子どもの理解と援助				
14	幼児期の生活と小学校とのつながり 発達の連続性と就学への支援				
15	実践者としての保育者 学びのふりかえり				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容:					
テキストを事前に学習しておく 授業後、配布資料の見直しをして学んだ内容について復習しておく					
テキスト:					
請川滋大, 2020, 『子ども理解 一個と集団の育ちを支える理論と方法』萌文書林。					
参考文献:					
文部科学省, 2018, 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。 厚生労働省, 2018, 『保育所保育指針解説』フレーベル館。 内閣府, 2018, 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館。 適宜プリントを配布する					
学生に対する評価:					
定期試験 70% 受講姿勢(提出物評価含む) 30%					
実務経験のある教員による授業科目:－					

開講年次:1年次秋		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		子どもの造形表現Ⅱ			
担当教員		森脇 環帆			
授業概要: 本講義は、オリジナルの教育教材を作成し地域で実践する演習です。まず、地域の魅力と危険を調査しお散歩マップを作成します。マップの情報を子どもに伝える目的の教育教材を作成し、地域の公園で子どもを対象に実践します。これらから、子どもの造形表現教育のねらいを理解すると共に、保育者として自身の感性を磨きグループで協働する方法、子どもの安全を保障しながら表現活動を援助する方法を学びます。					
授業の到達目標: ・子どもの造形表現教育のねらいを理解する ・保育者として自身の感性を磨く方法を知る ・グループで協働する方法を知る ・子どもの安全を保障しながら表現活動を援助する方法を知る					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	ガイダンス				
2	お散歩マップの作成演習Ⅰ				
3	お散歩マップの作成演習Ⅱ				
4	お散歩マップの作成演習Ⅲ				
5	お散歩マップの作成演習Ⅳ				
6	教育教材の作成Ⅰ				
7	教育教材の作成Ⅱ				
8	教育教材の作成Ⅲ				
9	教育教材の作成Ⅳ				
10	教育教材の作成Ⅴ				
11	教育教材の実践Ⅰ				
12	教育教材の実践Ⅱ				
13	教育教材の実践Ⅲ				
14	教育教材の実践Ⅳ				
15	ふりかえり				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容: 事前学習は、指定された課題に対して日常的に興味をもつこと指示された準備物を用意すること。 事後学習は、授業で取り組んだ内容をレポートにまとめること。					
テキスト: 樋口一成, 2018, 『幼児造形の基礎』萌文書林。					
参考文献: (1) 浜口順子, 2018, 『新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉表現』萌文書林。 (2) 逃げ地図づくりプロジェクトチーム, 2019, 『災害から命を守る「逃げ地図」づくり』, ぎょうせい。 (3) 三輪律江, 2017, 『まち保育のススメ』, 萌文社 (4) 経済産業省, 2013『想定外から子どもを守る 保育施設のための防災ハンドブック』					
学生に対する評価: 課題、レポート(80%)受講姿勢(20%)					
実務経験のある教員による授業科目:－					

開講年次:1年次春・		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		音楽Ⅰ			
担当教員		織井 朝子・覺前 亜希子・笠原 青子・加藤 香代子・神崎 由布子・後藤 ゆかり・小峰 純子・鳥居 留美子・三橋 淑子			
授業概要:					
① ピアノの基礎的な技術を習得する。					
② 歌唱や楽器を用いた活動を援助するために必要な五線譜を読み解く知識と技能を身につける。					
③ 自分たちが何故ピアノを練習するのか、音楽が何故子どもに必要なのかを理解させる。					
授業の到達目標:					
教本で簡単な基礎を学び、弾き歌いを中心に、自らも楽しいと感じながら子どもに音楽遊びを経験させることができるようにする。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	オリエンテーション 楽典1	教本	音符ドリル		
2	楽典1の復習	教本	楽典1確認小テスト		
3	季節のうた(a)春の歌	教本	音符ドリル		
4	季節のうた(a)歌唱	教本	音符ドリル		
5	生活のうた(b)	教本	音符ドリル		
6	生活のうた(b)歌唱	教本	音符ドリル		
7	楽典2(拍子を中心に)	教本	音符ドリル		
8	楽典2復習	楽典2確認小テスト			
9	マーチ(c)2拍子	教本	音符ドリル		
10	季節のうた(d)夏の歌	教本	音符ドリル		
11	スキップ(タッカタッカのリズム)	教本	音符ドリル		
12	スキップ・ギャロップのリズム	教本	音符ドリル		
13	a～dの中から1曲を歌う	教本	音符ドリル		
14	教本・歌の試験リハーサル				
15	春季音楽Ⅰ試験				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容:					
テキスト:教職課程のための大学ピアノ教本 教育芸術社 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1・2 大海由佳 古谷和子 肝付文子 学研 おんぷドリル 丸子あかね 学研					
参考文献:ー					
学生に対する評価:①実技試験60%②受講姿勢40%(態度・取り組み方)9					
実務経験のある教員による授業科目:ー					

開講年次:1年次秋		必修	単位数:1	時間数:15	授業形態:
科目名		音楽Ⅱ			
担当教員		織井 朝子・覺前 亜希子・笠原 青子・加藤 香代子・神崎 由布子・後藤 ゆかり・小峰 純子・鳥居 留美子・三橋 淑子			
授業概要:					
① ピアノの基礎的な技術を習得する。					
② 歌唱や楽器を用いた活動を援助するために必要な五線譜を読み解く知識と技能を身につける。					
③ 自分たちが何故ピアノを練習するのか、音楽が何故子どもに必要なのかを理解させる。					
④ 先生ごっこ、楽器演奏等、保育現場で役に立つ技術を学ぶ。					
授業の到達目標:					
教本で簡単な基礎を学び、弾き歌いを中心に、自らも楽しいと感じながら子どもに音楽遊びを経験させることができるようにする。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	オリエンテーション(音符の確認)		音符ドリル		
2	秋の歌(a)	保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1・2ステップⅠ以上			
3	秋の歌(a)歌唱	保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1・2ステップⅠ以上	音符ドリル		
4	生活の歌(b)コード<C>	保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1・2ステップⅠ以上	音符ドリル		
5	生活の歌(b)コード<C>	保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1・2	ステップⅠ以上	音符ドリル	
6	生活の歌(b)コード<C>	保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1・2	ステップⅠ以上		
7	生活の歌(b)コード<C>	保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1・2	ステップⅠ以上	音符ドリル	
8	冬の歌(c)	保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1・2ステップⅠ以上			
9	器楽アンサンブル クリスマスにちなんで				
10	器楽アンサンブル グループ練習				
11	器楽アンサンブル グループ発表		音符ドリル		
12	(a)(b)(c)から自分で選曲		音符ドリル		
13	(a)(b)(c)から選曲した曲をテストで弾く練習		音符ドリル		
14	試験リハーサル				
15	秋季音楽Ⅱ試験				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容:					
テキスト:「教職課程のための大学ピアノ教本」(教育芸術社) 「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1・2」(学研) おんぷドリル 丸子あかね 学研					
参考文献:ー					
学生に対する評価:①実技試験60%②受講姿勢40%8態度・取り組み方)					
実務経験のある教員による授業科目:ー					

開講年次:2年次春		必修	単位数:1	時間数:15	授業形態:
科目名	音楽Ⅲ				
担当教員	織井 朝子・覺前 亜希子・笠原 青子・加藤 香代子・神崎 由布子・後藤 ゆかり・小峰 純子・鳥居 留美子・三橋 淑子				
授業概要:					
① ピアノの基礎的な技術を習得する。					
② 歌唱や楽器を用いた活動を援助するために必要な五線譜を読み解く知識と技能を身につける。					
③ 自分たちが何故ピアノを練習するのか、音楽が何故子どもに必要なのかを理解させる。					
④ グループに分かれてアンサンブル等の協働作業を経験し、アクティブラーニングを身につけさせる。					
授業の到達目標:					
① 教本で簡単な基礎を学び、弾き歌いを中心に、自らも楽しいと感じながら子どもに音楽遊びを経験させることができるようにする。					
② 音楽の真の面白さに気付き、更なる興味を持ってもらう事を期待する。保育者として、子どもを前に自信を持って音楽表現活動を行うことが出来るための知識、技能を習得し、総合的な音楽力を身につけることを目的とする。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	オリエンテーション 音符ドリル				
2	連弾 音符ドリル				
3	春の歌(a)「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1・2」ステップ2以上 音符ドリル				
4	マーチ(b)「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1・2」ステップ2以上 音符ドリル				
5	生活の歌(c)「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1・2」ステップ2以上 音符ドリル				
6	アンサンブル(連弾・合奏・歌唱) 音符ドリル				
7	アンサンブル(連弾・合奏・歌唱) 音符ドリル				
8	アンサンブル発表会				
9	夏の歌(d)「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1・2」ステップ2以上				
10	ハンドベル 音符ドリル				
11	ハンドベル				
12	試験曲の復習(a)(b)(c)(d)から選曲する 音符ドリル				
13	試験曲の復習(a)(b)(c)(d)から選曲する 音符ドリル				
14	試験リハーサル				
15	春季音楽Ⅲ試験				
	定期試験期間における試験: 実施しない				
事前・事後学習の内容:－					
テキスト:「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1・2」学研 おんぷドリル上・下 内藤雅子 デプロMP					
参考文献:「子どもの音感受の世界―心の耳を育む音感受教育による保育内容「表現」の探求」無藤隆監修・吉永早苗(萌文書林)					
学生に対する評価:①実技試験60% ②受講姿勢40%(態度・取り組み方)					
実務経験のある教員による授業科目:－					

開講年次:2年次秋		必修	単位数:1	時間数:15	授業形態:
科目名	音楽Ⅳ				
担当教員	織井 朝子・覺前 亜希子・笠原 青子・加藤 香代子・神崎 由布子・後藤 ゆかり・小峰 純子・鳥居 留美子・三橋 淑子				
授業概要:					
① ピアノの基礎的な技術を習得する。					
② 歌唱や楽器を用いた活動を援助するために必要な五線譜を読み解く知識と技能を身につける。					
③ 自分たちが何故ピアノを練習するのか、音楽が何故子どもに必要なのかを理解させる。					
④ グループに分かれてアンサンブル等を協働作業し、アクティブラーニングを身に付けさせる。					
授業の到達目標:					
① 教本で簡単な基礎を学び、弾き歌いを中心に、自らも楽しいと感じながら子どもに音楽遊びを経験させることができるようにする。					
② 音楽の真の面白さに気づき、更なる興味を持ってもらうことを期待する。保育者として、子どもを前で自信を持って音楽表現活動を行うことができるための知識。技能を習得し、総合的な音楽力を身に付けることを目的とする。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	生活の歌(a)コード付けができる人は取り組む		卒業試験曲リストから1曲合格する		
2	生活の歌(a)コード付けができる人は取り組む		卒業試験曲リストから1曲合格する		
3	連弾(b)6手を展開できる人は取り組む		卒業試験曲リストから1曲合格する		
4	連弾(b)6手を展開できる人は取り組む		卒業試験曲リストから1曲合格する		
5	マーチ(c)行進のリズムを体感する		卒業試験曲リストから1曲合格する		
6	秋の歌(d)「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1・2」ステップⅡ以上 卒業試験曲リストから1曲合格する				
7	秋の歌(d)「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1・2」ステップⅡ以上 卒業試験曲リストから1曲合格する				
8	クリスマスソング		卒業試験曲リストから1曲合格する		
9	クリスマスソング		卒業試験曲リストから1曲合格する		
10	アンサンブルグループワーク		卒業試験曲リストから1曲合格する		
11	アンサンブルグループワーク		卒業試験曲リストから1曲合格する		
12	アンサンブルグループワーク発表会				
13	(a)(b)(c)(d)の中から1曲選択しテスト準備		卒業試験曲リストから1曲合格する		
14	試験リハーサル				
15	秋季音楽Ⅳ試験				
	定期試験期間における試験: 実施しない				
事前・事後学習の内容:ー					
テキスト:「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1・2」学研 おんぷドリル上・下 内藤雅子 デプロMP					
参考文献:「子どもの音感受の世界―心の耳を育む音感受教育による保育内容「表現」の探求」無藤隆監修・吉永早苗(萌文書林)					
学生に対する評価:①実技試験(歌唱・アンサンブル・ピアノ卒業試験)60%②に受講姿勢40%(態度・取り組み方)					
実務経験のある教員による授業科目:ー					

開講年次:1年次秋		必修	単位数:4	時間数:180	授業形態:実習
科目名		保育実習Ⅰ（保育所）			
担当教員		安達 麻衣子・土井 美沙緒			
授業概要:					
・保育士資格取得のために、認可保育所にて観察・参加・部分実習を行い、保育所の一日の流れや発達過程を理解する。 ・既習の教科の内容をふまえて直接子どもと関わる中で、子ども理解や保育所への理解を深め、保育所保育を体験的に学ぶ。 ・子どもや保育士の姿を通して「養護」と「教育」を一体的に行う保育所保育の基本等について、理解を深める。 ・保育の計画やの記録・省察について理解を深める。 ・保育者の姿を通して保育士の役割と職業倫理について理解する。					
授業の到達目標:					
1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
	< 保育所実習の内容 > 1. 保育所の役割と機能 (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開 2. 子どもの理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助や関わり 3. 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画・観察・記録 (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携・協働 (3) 保育士の役割と職業倫理				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容:					
(1) 保育実習指導Ⅰ 保育所(事前指導)を受け、実習課題を設定するとともに事前学習を行う。 (2) 実習先の沿革や保育方針について各自で調べる。また、オリエンテーション等の事前訪問を通して実習先について理解に努める。 (3) 教材準備や教材研究等保育の事前準備を行う。 (4) 実習中は毎日、実習日誌の記録をすることを通して、省察を行う。					
テキスト:					
(1) 草苑保育専門学校 実習センター 2023年『実習の手引き』草苑保育専門学校 (2) 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 2017『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 (3) 小櫃智子編著 田中君枝・小山朝子・遠藤純子 2015『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社					
参考文献:					
(1) 厚生労働省 2018年「保育所保育指針」フレーベル館 (2) 保育実習指導のミニマムスタンダード Ver.2「協働」する保育士養成 一般社団法人全国保育士養成協議会編集					
学生に対する評価:					
(1) 実習評価(実習園からの評価)60% (2) 実習日誌、提出物(提出期限、提出物内容など)40%					
実務経験のある教員による授業科目					
・保育実習における目的や姿勢、心構えや、現場での具体的な経験を伝え実習で実践できるよう授業を展開し、実習中の巡回指導を行う。					

開講年次:2年次春(2組1年次秋)		必修	単位数:4	時間数:180	授業形態:実習
科目名	保育実習Ⅰ(施設)				
担当教員	田口 美登里				
授業概要:・保育士資格取得のために、児童福祉施設及び障害者施設にて観察・参加・部分実習を行い、施設の役割と機能を理解する。 ・既習の教科の内容をふまえて直接利用児や利用者に関わる中で、利用児・利用者理解や施設への理解を深める。 ・施設における保育士の援助や関わりを体験的に学び、保育士の多様な役割と職業倫理について理解する。 ・観察や記録(日誌)を通して利用児・利用者理解について省察し、理解を深め専門性を高める。 ・実習前には事前訪問、実習中には見学・活動参加・指導実習、反省会が行われる。					
授業の到達目標:1. 児童福祉施設や障害者施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や利用児・利用者との関わりを通して利用児・利用者への理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、利用児の発達支援及び、家族支援、地域支援について総合的に理解する。 4. 観察・記録・日誌の記入方法及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
	<福祉施設等(保育所以外)における実習の内容> 1. 施設の役割と機能 (1)施設における利用児・利用者の一日の流れ、支援内容や関わりを理解する。」 (2)施設の役割と特質について理解する。 2. 利用児と利用者の理解 (1)観察とその記録 について学ぶ。 (2)個々の状況に応じた支援や関わりについて学ぶ。 3. 施設における利用児・利用者の生活と環境 (1)計画に基づく活動や支援について。 (2)施設内での活動計画のねらい、目的を把握する。 (3)虐待防止、健康管理、安全対策、感染症等予防について理解する。 4. 計画と記録、日誌 (1)個別支援計画の理解と活用(アセスメント・モニタリング)について学ぶ。 (2)日誌に基づく省察・自己評価 について学ぶ。 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1)保育士の業務内容、発達支援、家族支援、地域支援 を理解する。 (2)保育士の役割と職業倫理を理解する。(権利擁護、虐待、個人情報の管理、苦情解決) (3)多職種との連携 や他機関との連携を学ぶ。 6. 基本的な対応方法 (1)車椅子体験 (2)現場に行っても困らない基本的な関わり方、介助・支援技術を学ぶ。				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容: (1)保育実習指導Ⅰ施設(事前指導)を受け、実習課題を設定するとともに事前学習を行う。 (2)実習先の施設の種別や沿革について各自で調べる。また、オリエンテーション等の事前訪問を通して実習先について理解に努める。 (3)教材準備や教材研究等保育・療育。支援の事前準備を行う。 (4)実習中は毎日、実習日誌の記録をすることを通して、省察を行う。 (5)事後指導として、省察し自己評価と自己理解を行い、保育士として将来必要とされる専門職としての役割を確認する。					
テキスト: (1)草苑保育専門学校 実習センター、2021、『実習の手引き』草苑保育専門学校。 (2)守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵, 2014,『施設実習 パーフェクトガイド』わかば社。 (3)随時プリント配布					
参考文献: (1)施設実習 施設種別の計画と記録の書き方 松本峰雄監修 萌文書林 (2)施設実習ガイド 保育者として成長するための事前事後学習 駒井美智子 編 萌文書林					
学生に対する評価: (1)実習評価(実習施設からの評価)60% (2)実習日誌、提出物(提出期限、提出物内容など)40%					
実務経験のある教員による授業科目:－ 重症心身障害児・者入所施設・母子指導(児童指導員)、保健所での子育て相談室(保育士)障害者施設(指導員)、就労支援施設(精神保健福祉士)施設長、NPO法人立ち上げ施設長・理事、小児科でこどもの発達相談室で保護者支援、区立児童発達支援センター センター長として運営管理、特別支援学校の評価委員・東京都社会福祉協議会 知的障害こども部会幹事等、東京都児童発達支援管理責任者・サービス管理責任者の講師を長年行ってきた。それらの経験から具体的事例を通して、実戦で活かせる授業を展開する。					

開講年次:1年次秋(2組1年次春)		必修	単位数:	時間数:	授業形態:
科目名	保育実習指導Ⅰ(保育所)				
担当教員	安達 麻衣子・土井 美沙緒				
授業概要:					
(1)他教科と関連させながら、保育所の役割や一日の流れ、保育者の在り方などを具体的に学ぶ。					
(2)保育所実習での観察の視点、観察の内容の記録の書き方を学ぶ。					
(3)既習の知識や技術を総合的に実践する力を養うとともに、実習に役立つ保育技術や子どもとの関わり方を学ぶ。					
(4)実習に向けての書類、計画、記録の書き方を学ぶ。					
(5)事後指導において、実習の総括と自己評価を行い新たな課題・学習目標を明確にする。					
授業の到達目標:					
(1)保育実習の意義・目的を理解する。					
(2)実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。					
(3)実習施設における子どもの最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。					
(4)実習の計画・実践・記録・振り返り・改善の方法や内容、教材、遊びの意味を知り、現場での実践への意欲を持つ。					
(5)実習事後指導を通して実習の振り返りと自己評価を行い、今後の学習や実習に向けた課題・目標を明確にする。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	実習の目的と意義・概要				
2	子どもの最善の利益の考慮 実習の心構え				
3	保育所の役割理解と実習の視点				
4	保育所の一日の流れを知る				
5	実習における目標設定				
6	個人票の意義				
7	個人票の作成				
8	保育所保育指針の理解				
9	遊びと保育環境・教材研究・実習園との連絡(オリエンテーション準備)				
10	実習日誌の意義と書き方				
11	指導案の意義と作成				
12	模擬保育の実践、振り返り				
13	実習生の心得と最終確認				
14	実習の振り返り				
15	今後の課題とまとめ				
	定期試験期間における試験：実施しない				
事前・事後学習の内容:					
・シラバスの授業内容について示すとともに、授業の最後に次回の講義内容を示し、予習を促す。					
・課題や指導案作成等を適宜実施し事前・事後の学習の習慣化を図る。					
・指導案作成に必要な教材研究、保育のシミュレーションを行う。					
・実習先の沿革や保育方針について、各自で調べ理解を深めていくようにする。					
テキスト:					
(1)草苑保育専門学校 実習センター 2023年『実習の手引き』草苑保育専門学校					
(2)小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 2017『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社					
(3)小櫃智子編著 田中君枝・小山朝子・遠藤純子 2015『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社					
参考文献:					
(1)厚生労働省 2018年「保育所保育指針解説」フレーベル館					
(2)久富陽子 編著 善本眞弓・五十嵐裕子・堀科 2014					
「学びつづける保育者をめざす 実習の本 保育所・施設・幼稚園」萌文書林					
(3)大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜 編著 2020					
「学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規					
(4)随時必要なプリントを配布する。					
学生に対する評価:					
(1)受講姿勢60%(授業態度、発表、実践など)(2)提出物40%(提出物期限、提出物内容など)					
※事前指導13回のうち欠席が3分の1を超えた者は実習失格とする					
実務経験のある教員による授業科目:保育実習における目的や姿勢、心構えや、現場での具体的な経験を伝え実習で実践できるよう授業を展開する。					

開校年次:2年次春(2組1年次春)		必修	単位数:2	時間数:60	授業形態:演習
科目名		保育実習指導Ⅰ(施設)			
担当教員		田口 美登里			
授業概要: 他教科と関連させながら、施設の各区分の社会的特性と個別ニーズの内容、その支援にまつわる具体的な視点を学び、現場で利用児・利用者とコミュニケーションを図ることにより、実習を有意義なものとする。					
授業の到達目標: (1)施設実習の意義・目的を理解する。 (2)各施設の概要を把握し、施設の実態を理解する。 (3)利用児・利用者の支援及び家族支援について総合的に理解する。 (4)保育士としての業務や職業倫理について具体的に理解する。 (5)現場での実習において利用児・利用者とコミュニケーションを図ることで利用児・利用者への理解を深める。 (6)実習の事前事後指導を通して、実習の振り返りと自己評価を行い、今後の学習や実習に向けた課題・目標を明確にする。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	ガイダンス(実習の意義・概要)				
2	実習のねらいと心構え 実習施設の理解 個人票作成①				
3	施設種別の理解 子どもの理解(社会的養護施設) 個人票作成②				
4	施設種別の理解 障害者の理解(福祉型障害者支援施設・福祉型障害者福祉サービス事業所・福祉型入所施設)				
5	障害児・者の特性に応じた基本的な支援方法、関わり方を学ぶ①(車椅子体験)				
6	施設種別の理解 障害児の理解 (福祉型障害児通所施設・福祉型児童発達支援センター・福祉型・医療型児童入所施設)				
7	施設職員とその業務の理解 権利擁護、虐待、個人情報、苦情解決について				
8	障害児・者の特性に応じた基本的な支援方法、関わり方を学ぶ② 実習先でのオリエンテーションについて				
9	実習日誌と実習記録について				
10	外部講師による施設現場での現状と課題、実習生に求められることを聴講				
11	実習の諸注意と心得				
12	施設実習後の振り返り				
	定期試験期間における試験: 実施しない				
事前・事後学習の内容: ・シラバスの授業内容を示し、各施設についての予習をする。 ・実習先の施設の種別や沿革について、各自で調べ理解を深めていくようにする。 ・日誌返却後に面談により、個別に省察し自己評価と課題を確認する					
テキスト: (1)草苑保育専門学校 実習センター, 2021,『実習の手引き』草苑保育専門学校。 (2)守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵, 2014,『施設実習 パーフェクトガイド』わかば社。					
参考文献: (1)施設実習 施設種別の計画と記録の書き方 松本峰雄監修 萌文書林 (2)『児童発達指針』CDSジャパン 『児童発達支援事業ガイドライン』『生活介護ガイドライン』厚生労働省 (3)随時プリント配布					
学生に対する評価: (1)受講姿勢60%(授業態度、グループワーク、発表など)(2)提出物40%(提出物期限、提出物内容など) ※事前指導8回のうち欠席が3分の1を超えた者は実習失格とする。					
実務経験のある教員による授業科目 重症心身障害児・者入所施設・母子指導(児童指導員)、保健所で子育て相談室(保育士)障害者施設(指導員)、就労支援施設(精神保健福祉士)施設長、NPO法人立ち上げ施設長・理事、地域の小児科でこどもの発達相談室で保護者支援、区立児童発達支援センター センター長として運営管理、特別支援学校の評価委員・東京都社会福祉協議会幹事等、東京都児童発達支援管理責任者・サービス管理責任者の講師を長年行ってきた。それらの経験から具体的事例を通して、実戦で活かせる授業を展開する。					

開講年次:2年次春		選択必修	単位数:2	時間数:90	授業形態:実習
科目名		保育実習Ⅱ			
担当教員		安達 麻衣子・土井 美沙緒			
授業概要:					
・保育士資格取得のために、認可保育所にて観察・参加・責任実習を行い、自らの実践を通して具体的に学ぶ。 ・既習の教科の内容や保育実習Ⅰの知識や技能を踏まえ、総合的に実践する応用力を身に付ける。 ・保育の計画・実践・省察評価・改善について実際に取り組み、理解を深め、実践力を身に付ける。 ・保育士の役割や職業倫理について具体的な実践を通して理解し、専門職としての自覚をもつ。 ・実習での体験を通して、自己の課題を明確にするとともにその課題に向き合う。					
授業の到達目標:					
1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わり方の視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 実習における自己の課題を明確化する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
	<内容> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 (1)養護と教育が一体となって行われる保育 (2)保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育の理解 (1)子どもの心身の状態や活動の観察 (2)保育士等の援助や関わり (3)保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1)環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 (2)入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 (3)関係機関や地域社会との連携・協働 4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 (1)全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2)作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 (1)多様な保育の展開と保育士の業務 (2)多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容:					
(1)保育実習Ⅰの経験、保育実習指導Ⅱ(事前指導)を受け、実習課題を設定するとともに事前学習を行う。 (2)実習先の沿革や保育方針について各自で調べる。また、オリエンテーション等の事前訪問を通して実習先について理解に努める。 (3)教材準備や教材研究、指導案の作成等保育の事前準備を行う。 (4)実習中は毎日、実習日誌の記録をすることを通して、省察と改善を行う。 (3)小櫃智子編書 田中君枝・小山朝子・遠藤純子 2015 『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社					
テキスト:					
(1)草苑保育専門学校 実習センター 2023年『実習の手引き』草苑保育専門学校 (2)小櫃智子 守巧 佐藤恵 小山朝子 2017 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 (3)小櫃智子編書 田中君枝・小山朝子・遠藤純子 2015 『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社					
参考文献:					
(1)厚生労働省 2018年「保育所保育指針」フレーベル館 (2)保育実習指導のミニマムスタンダード Ver.2 「協働」する保育士養成 一般社団法人全国保育士養成協議会編集					
学生に対する評価:					
(1)実習評価(実習園からの評価)60% (2)実習日誌、提出物(提出期限、提出物内容など)40%					
実務経験のある教員による授業科目					
・保育実習における目的や姿勢、心構えや、現場での具体的な経験を伝え実習で実践できるよう授業を展開し、実習中の巡回指導を行う。					

開講年次:2年次春		選択必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		保育実習指導Ⅱ			
担当教員		安達 麻衣子・土井 美沙緒			
授業概要:					
(1)保育実習Ⅰを振り返り課題を明確にする。					
(2)責任実習に向けて、保育士の援助や環境、指導案の理解、作成、実践を通して総合的に学ぶ。					
(3)子ども理解をもとに、記録や指導案の書き方の実践を行い計画・実践・評価・改善について学ぶ。					
(4)自らの保育に対する課題を明確にし、専門職である保育士としての自覚を身に付ける。					
授業の到達目標:(1)保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。					
(2)実習や既習の教科の内容を踏まえ、保育の実践力と技術向上を目指す。					
(3)保育の記録、計画及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して理解する。					
(4)保育士としての専門性と職業倫理について理解する。					
(5)実習事後指導を通して実習のまとめと自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	保育実習Ⅱについて/目的と意義・概要				
2	保育所における養護と教育の理解と観察の視点				
3	保育の環境と子ども主体の遊びについて 責任実習の流れと留意点 計画案の視点(年齢ごと)と書き方・実践後の考察				
4	責任実習の指導案作成に向けて				
5	実習自己課題の明確化・実習における目標設定				
6	個人票の作成				
7	責任実習の指導案作成に向けて・準備・実施手順 実習園との連絡(オリエンテーション準備)				
8	責任実習の実践				
9	責任実習の実践 実践の振り返りに基づく考察・指導案の改善				
10	実習日誌について 構成・書き方の確認				
11	実習生の心得と最終確認				
12	実習の振り返り 今後の課題とまとめ				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容:					
・シラバスの授業内容について示すとともに、授業の最後に次回の講義内容を示し、予習を促す。					
・課題や指導案作成を適宜実施し、事前・事後の学習の習慣化を図る。					
・指導案作成に必要な教材研究、保育のシミュレーションを行う。					
・実習先の沿革や保育方針について、各自で調べ理解を深めていくようにする。					
テキスト:					
(1)草苑保育専門学校 実習センター 2023年『実習の手引き』草苑保育専門学校					
(2)小櫃智子 守巧 佐藤恵 小山朝子 2017『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社					
(3)小櫃智子編書 田中君枝・小山朝子・遠藤純子 2015『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社					
参考文献:					
(1)厚生労働省 2018年「保育所保育指針」フレーベル館					
(2)随時必要なプリントを配布する。					
学生に対する評価:					
(1)受講姿勢60%(授業態度、グループワーク、実践など)(2)提出物40%(提出物期限、提出物内容など)					
※事前指導11回のうち欠席が3分の1を超えた者は実習失格とする。					
実務経験のある教員による授業科目:保育実習における目的や姿勢、心構えや、現場での具体的な経験を伝え、実習で実践できるよう授業を展開する。					

開校年次:2年次春		選択必修	単位数:2	時間数:90	授業形態:実習
科目名		保育実習Ⅲ(施設)			
担当教員		田口 美登里			
授業概要:・児童福祉施設及び障害者施設にて観察することの意味を理解し、自ら実践する。 ・保育実習Ⅰでの施設の学びを基に、直接利用児・利用者とかかわる中で、幅広い知識と理解を深める ・観察や記録(日誌)を通して利用児・利用者理解について省察し、理解を深め専門性を高める。 ・施設における保育士の支援や関わりを体験的に学び、施設保育士の多様な役割と職業倫理について理解する ・できる限り受講生の関心に沿い、その後の学びや進路に十分活かせるような形で展開する。 ・実習前には事前訪問、実習中には見学、活動参加、反省会など行われる。施設により部分実習を行うこともある。想定した内容とする					
授業の到達目標:1. 人権を理解して尊重する態度を身につける。 2. 保育所以外の児童福祉施設、児童発達支援施設、障害者支援施設等の役割や機能の理解を深める。 3. 利用児・利用者への具体的な実践を通して理解を深める。 4. 日誌や部分実習を通して自己評価等を行うことで自己の課題を具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解を深める。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
	<児童福祉施設等(保育所以外)における実習の内容> 1. 施設の役割と機能 (1)施設における利用児・利用者の一日の流れ、内容を把握する。 (2)施設の役割と特質について理解を深める。 2. 利用児と利用者の理解 (1)観察とその記録の重要性を知る。 (2)個別支援計画と支援方法を学ぶ。 3. 施設における利用児・利用者の生活と環境 (1)利用児、利用者の発達や特性に応じた施設職員の関わり方について深める。 (2)施設内での活動計画のねらい、目的を把握して理解を深める。 (3)虐待防止、健康管理、安全対策、感染症等予防について理解を深める。 4. 日誌 (1)実習Ⅰで実習した経験を基に目標やねらい考察など記入内容を再度確認し深める。 (2)利用児・者とのコミュニケーションを通して省察・自己評価をする。 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1)保育士の業務内容、発達支援、家族支援、地域支援を理解する。 (2)保育士の役割と職業倫理を理解する。(権利擁護、虐待、個人情報の管理、苦情解決) (3)多職種との連携や他機関との連携を学ぶ。 6. 基本的な対応方法 (1)実習現場で困らない基本的な介助・支援技術を学ぶ。 (2)実習先での行事を想定した、制作を行う				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容: (1)保育実習指導Ⅲ(施設)事前指導を受け、実習課題を設定するとともに事前学習を行う。 (2)実習先の施設の種別や沿革について調べ、事前学習をして、疑問点をまとめ明確にして実習に臨む。 (3)オリエンテーション等の事前訪問を通して実習先について理解に努める。 (4)実習中は毎日、実習日誌の記録・省察を通して自己の支援課題を理解する。					
テキスト: (1)草苑保育専門学校 実習センター, 2021,『実習の手引き』草苑保育専門学校。 (2)守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵, 2014,『施設実習 パーフェクトガイド』わかば社。 (3)随時プリントの配布					
参考文献: (1)施設実習 施設種別の計画と記録の書き方 松本峰雄監修 萌文書林 (2)保育実習指導のミニマムスタンダード「協働」する保育士養成Ver.2					
学生に対する評価: (1)実習評価60%(実習施設からの評価)(2)実習日誌、提出物(提出期限、提出物内容)など)40%					
実務経験のある教員による授業科目:－ 重症心身障害児・者入所施設・母子指導(児童指導員)、保健所で子育て相談室(保育士)障害者施設(指導員)、就労支援施設(精神保健福祉士)施設長、NPO法人立ち上げ施設長・理事、地域の小児科でこどもの発達相談室で保護者支援、区立児童発達支援センター センター長として運営管理、特別支援学校の評価委員・東京都社会福祉協議会幹事等、東京都児童発達支援管理責任者・サービス管理責任者の講師を長年行ってきた。それらの経験から具体的事例を通して、実戦で活かせる授業を展開する。					

開講年次:2年次春	選択必修	単位数:2	時間数:90	授業形態:実習
科目名	保育実習Ⅲ(児童館)			
担当教員	小玉 絹江			
授業概要: ・児童厚生員二級の資格取得に必要な実習であり、児童の健全育成に関わる児童館に於いて観察・参加・部分実習等を行い、児童館の機能と役割を体験的に理解する。 ・既習の教科の内容を踏まえて直接子どもや利用者に関わる中で、子ども理解・保護者理解など児童館機能への理解を深める。 ・児童館で展開される児童への健全育成や、子育て支援・援助を体験的に学び、保育者の多様な役割と職業倫理について理解する。・観察や記録を通して、子ども・利用者理解について省察し理解を深めるとともに、専門性を高める。				
授業の到達目標 1.児童館・放課後児童クラブの役割や機能を具体的に理解する。 2.児童館・放課後児童クラブの利用者の様子及び、職員の役割と対応を観察し、児童厚生員・放課後児童支援員の業務の理解を深める。 3.既習の教科の内容を踏まえ、子どもや保護者支援について総合的に理解する。 4.健全育成の観察・記録および自己評価等について具体的に理解する。 5.児童厚生員・放課後児童支援員の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。				
授業計画				
授業回数	授業内容及び計画			
	【児童館に於ける実習の内容】 1. 児童館の役割と機能 (1)児童館・放課後児童クラブにおける必要な知識・援助技術の内容理解 (2)児童館の機能と活動内容の理解 2. 児童館・放課後児童クラブの子ども理解 (1)子どもの観察とその記録 (2)個々の状態に応じた援助や関り (3)子どもが求める福祉的ニーズの理解力・対応力 3. 児童館に於ける利用者(子育て親子・小学生・中学生・高校生)の活動と支援 (1)子どもや家庭支援と対応 (2)計画に基づく活動や関り (3)子どもの活動と環境 (4)健康管理・安全対策の理解 4. 計画・観察と記録 (1)活動計画の理解と記録 (2)PDCAサイクルの記録実践と記録に基づく省察・自己理解 5. 専門職としての役割と倫理 (1)児童厚生員・放課後児童支援員の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)児童厚生員・放課後児童支援員の職業倫理			
事前・事後学習の内容: (1)保育実習指導Ⅲ児童館(事前指導)を受け、実習課題を設定するとともに事前学習を行う。 (2)実習先の児童館の沿革等について各自調べる。また、オリエンテーション等の事前訪問を通して実習策について理解に努める。 (3)教材準備や教材研究等保育の事前準備を行う。 (4)実習中は、毎日実習日誌の記録をすることを通して考察を行う。				
テキスト: (1)草苑保育専門学校 実習センター 2022「実習の手引き」草苑専門学校 (2)守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵 2019「施設実習パーフェクトガイド」わかば社				
参考文献: 保育実習指導のミニマムスタンダード「協働」する保育士養成Vor.2				
学生に対する評価: (1)実習評価(実習施設からの評価)60％ (2)実習への姿勢(実習日誌・提出物・PDCAサイクルの考察・積極性など) 40％				
実務経験のある教員による授業科目: 中、高校生センター・教育委員会特別支援・子ども女性相談ワーカーの経験を活かし実践的講義内容を行っていく。				

海溝年次:2年次春		選択必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名	保育実習指導Ⅲ(施設)				
担当教員	田口 美登里				
授業概要:					
(1) 保育実習Ⅰ(施設)で経験した内容を更に深め、様々な施設の機能や職務内容について学ぶ。					
(2) 施設における保育士の支援や関わりを体験的に学び、施設保育士の多様な役割と職業倫理について理解する。					
(3) 視聴覚教材の使用や実習を想定したロールプレーを行い、理論と実際の理解を深め、実践へ活かせるようにする。					
(4) できる限り受講生の関心に沿い、その後の学びや進路に十分活かせるような形で展開する。					
(5) 実習では実習前に事前訪問、実習中には見学、活動参加、反省会など行われる。施設により部分実習を行うこともある。想定したSSTを行う。					
授業の到達目標:					
(1) 施設の特徴や機能について実践を通して理解を深める。					
(2) 施設保育士としての多様な業務内容や倫理について把握し、適切に実践できるようになる。					
(3) 実習を通して自己の課題を明確化し、将来に備える。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	保育実習Ⅲの意義と概要				
2	実習の概要と心構え				
3	福祉施設の種別と概要の理解				
4	福祉施設を利用する子どもと障害者の理解				
5	福祉施設における実習形態と内容				
6	実習課題とねらいの設定				
7	福祉施設職員とその職務の理解				
8	実習想定の基本的な支援方法の演習①				
9	実習想定の基本的な支援方法の演習②				
10	実習日誌と記録の着目点について 個別支援計画書、PDCAサイクルについて				
11	実習についての諸注意と確認				
12	実習の振り返りと今後の課題				
	定期試験期間における試験: 実施しない				
事前・事後学習の内容:					
・シラバスの授業内容を示し、各施設についての予習をする。					
・実習先の施設の種別や沿革について、各自で調べ理解を深めていくようにする。					
・実習を通して自己の課題を明確化し、将来に備える。					
・実習先から日誌の返却後、個別面談をおこない自己評価を行い課題を明確にする。					
テキスト:					
(1) 草苑保育専門学校 実習センター, 2021,『実習の手引き』草苑保育専門学校。					
(2) 守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵, 2014,『施設実習 パーフェクトガイド』わかば社。					
参考文献:					
(1) 施設実習 施設種別の計画と記録の書き方 松本峰雄監修 萌文書林					
(2)『児童発達指針』CDSジャパン 『児童発達支援ガイドライン』『生活介護ガイドライン』厚生労働省					
(3)随時プリント配布					
学生に対する評価:					
(1)受講姿勢60%(授業態度、グループワーク、発表など)(2)提出物40%(提出物期限、提出物内容など)					
※事前指導8回のうち欠席が3分の1を超えた者は実習失格とする。					
実務経験のある教員による授業科目					
重症心身障害児・者入所施設・母子指導(児童指導員)、保健所での子供の相談室(保育士)障害者施設(指導員)、就労支援施設(精神保健福祉士)施設長、NPO法人立ち上げ施設長・理事、地域の小児科でこどもの発達相談室にて保護者支援、区立児童発達支援センター センター長として運営管理、特別支援学校の評価委員・東京都社会福祉協議会幹事等、東京都児童発達支援管理責任者の講師を長年行ってきた。それらの経験から具体的事例を通して、実戦で活かせる授業を展開する。					

開講年次:2年次春		選択必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名	保育実習指導Ⅲ(児童館)				
担当教員	小玉 絹江				
授業概要:					
(1) 児童館・放課後児童クラブの一日の流れや、利用者の様子・多様な活動内容・児童厚生、児童支援員の関わりの実際について、実習前後のグループワーク・発表などの演習から理解する。					
(2) 各地の活動内容から、児童館・放課後児童クラブの現場の取り組みを具体的に把握する。					
(3) 利用者の発達理解をもとに、記録や指導案の書き方の実践を行い、計画・実践・評価・改善について把握する。					
授業の到達目標					
(1) 児童館・放課後児童クラブの現場を実際に体験することで、児童厚生・児童支援員の役割・業務を理解する。					
(2) 実習を通して自己の適性を見つめ直し、課題を明確化する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	オリエンテーション:児童館実習の目的と概要				
2	これまでの実習の振り返り:自己分析・KJ法・グループワーク・発表				
3	児童館・放課後児童クラブの概要と特性の確認Ⅰ:機能・運営				
4	児童館・放課後児童クラブの概要と特性の確認Ⅱ:児童厚生・児童支援員の職務内容				
5	個人票の下書きおよび本書きの実技指導と、オリエンテーションの基本事項の確認				
6	実習日誌のポイントⅠ:実習日誌の日々のねらい・振り返りの書き方・内容				
7	実習日誌のポイントⅡ:実践記録の方法を用いて考察に活かす				
8	部分実習教材研究・指導案作成に向けてⅠ:グループワーク				
9	部分実習教材研究・指導案作成に向けてⅡ:準備・発表				
10	実習時の心構え・マナー・礼儀などの基本事項の確認 及び 守秘義務の重要性 実習に関する疑問の整理 及び お礼状の書き方の実技指導				
11	実習の振り返りⅠ:今後の課題とまとめ				
12	実習の振り返りⅡ:今後の課題とまとめ				
事前・事後学習の内容:					
児童館ガイドライン・放課後児童クラブ運営指針の該当箇所について十分に予習をする。					
実習先の児童館の沿革・施設目標などについて各自調査し、理解を深めて実習に臨むようにする。					
テキスト:					
(1) 草苑保育専門学校 実習センター 2021「実習に手引き」草苑保育専門学校					
(2) 守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵 2019「施設実習パーフェクトガイド」わかば社					
(3)小櫃智子・田中君枝・小山朝子・遠藤純子 2017「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」わかば社					
参考文献:					
児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ②「児童館論」児童健全育成推進財団					
放課後児童支援員都道府県認定資格研修教材「認定資格研修のポイントと講義概要」第2版 中央法規					
中山芳一 2018「新しい時代の学童保育実践」かもがわ出版					
学生に対する評価:					
(1)提出物(提出物期限&内容)40%					
(2)受講姿勢(提出物・授業態度・グループワークへの積極性など) 60%					
実務経験のある教員による授業科目:					
中、高校生センター・教育委員会特別支援・子ども女性相談ワーカーの経験を活かし実践的講義内容を行っていく。					

開講年次:1年次春／1年次秋		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		保育・教職実践演習Ⅰ			
担当教員		小堀哲郎			
授業概要: この授業は、2年間の学修や実習を踏まえた集大成の位置づけにある。これまでの学修を振り返りつつ、保育現場で直面する課題や自身が保育者として成長していくための課題に取り組み、知識面でも技術面でも専門職にふさわしい保育者としての力量を高めていく。アクティブラーニングによる授業を行うので、学生自身の積極的な授業参加を求める。					
授業の到達目標: (1) これまでの学修を振り返りながら、保育者として必要な専門知識や技術を習得する。 (2) 保育に関する現代的課題について現状を分析し、その課題への対応方法を考察する力を身に着ける。 (3) グループワークや発表、事例研究等を通じて、社会性や対人関係能力を高め、保育者としての資質の向上を目指す。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	オリエンテーションー保育士・幼稚園教諭の資格・免許を再考する				
2	保育・教育制度を理解する①ー歴史				
3	保育・教育制度を理解する②ー子ども子育て支援新制度				
4	子どもの権利条約を理解する				
5	子どもを取り巻く状況を理解する①ー少子化について				
6	子どもを取り巻く状況を理解する②ー児童虐待について				
7	子どもを取り巻く状況を理解する③ー貧困について				
8	特別な配慮が必要な子どもを理解する				
9	多文化共生を考える				
10	子どもの安全を考える				
11	保護者との関係づくりを考える				
12	地域子育て支援①ーイベントを企画する				
13	地域子育て支援②ーイベントを発表する				
14	幼保小連携を考える				
15	まとめー保育者の専門性について考える				
	定期試験期間における試験：実施しない				
事前・事後学習の内容:発表の準備、知識の整理・定着。					
テキスト:使用しない。必要に応じて資料を配布。					
参考文献:「幼稚園教育要領」(平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 「保育所保育指針」(平成 29 年 3 月告示 厚生労働省)					
学生に対する評価: 授業への参加(アクティブラーニングへの取り組みや積極性)50％ 各回の授業で課される授業内レポート等の提出状況 50％					
実務経験のある教員による授業科目：－					

開講年次:2年次春		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		保育・教職実践演習 I			
担当教員		横山 正美			
授業概要:					
・ 学びの課題に応じてグループ討議・ワークシートの活用・事例を交えながら学びを広げる。 ・ 演習では、保育現場を想定し、ロールプレイ研修や、校外学習を取り入れながら、保育実践の実際と課題を学んでいく。					
授業の到達目標:					
1. 教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。					
2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。					
3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を定着させる。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	オリエンテーション 保育・教職実践演習の概要と今後の学習計画について				
2	☆これまでの学びを保育実習等における体験と結びつけながら振り返りを行う ①自己の課題を明確にする				
3	②保育士の意義や役割について				
4	③保育士の職務内容				
5	④子どもに対する責任、保育倫理				
6	⑤保育者としての社会性、対人関係能力				
7	⑥子どもやその過程の理解				
8	⑦職員間の連携、関係機関との連携				
9	⑧保育や、子育て家庭に対する支援の展開				
10	☆保育に関する現代的課題の分析に基づく研究 ①問いを立てる ②要因と背景をを調べる				
11	③課題解決の方向性をみつける				
12	④課題解決の具体的な方法と、その内容について検討する。				
13	これまでの授業から、自身が習得した知識・技術等と保育における現代的課題から自己の課題を把握する。				
14	目指す保育士像を明確化し、その保育士を目指して今後、取り組むべきことと、その具体的な手段や方法について話し合い、明確化する。				
15	前期のまとめ、レポート記入				
	定期試験:実施しない				
事前・事後学習の内容:					
次回の授業内容を事前に伝え、意欲を持って学べるよう準備を促すと共に、授業内容の予習や振り返り用のワークシートを活用し、事前・事後の学習の習慣化を図ると共に、確実な知識と技術の習得に勤めていく。					
テキスト:『保育の実践 一愛し、任せ、信じ、見守る』本吉圓子・奥田美由紀 萌文書林					
参考文献:					
①『保育所保育指針解説』フレーベル館。					
②『保育・教職実践演習 実力ある保育者を目指して』萌文書林					
③『ここがらがう 放任保育と任せる保育』本吉圓子 萌文書林					
学生に対する評価:提出物・期限 40% 受講姿勢・グループワークへの取り組み・クラスや他者への配慮 60%					
実務経験のある教員による授業科目					
保育士経験の中で、乳児から幼児への発達の流れを経験しており、特に主任保育士として、クラス運営を行う保育士の指導をしてきました。「任せる保育と放任保育」の違いを学びながら、実践を通して子ども達に変化する瞬間に寄り添う経験した事や、2児の母になり保育園の利用者側目線で、保育を考える機会を得た事、「わらべ歌ベビーマッサージ」に携わり母親の抱える問題や不安の相談を受け、励ましに繋がった経験ができた事等を、現場で実践に生かせる知識として授業の中で伝えていきます。					

開講年次:2年次秋		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名	保育・教職実践演習Ⅱ				
担当教員	阿江 美知代				
授業概要:					
・授業のなかで必ず一人一回教育課題を立案し発表する。 ・実習で得た教育課題の解決をグループで行う。その際のチームワークの大切さを知る。 ・授業内容としては様々な場面を想定して役割演技(ロールプレイング)や事例研究等を取り入れ、グループ討論を行う。 ・討論を通じて保育者としての自己課題を発見し必要とされる知識や技能をレポートにまとめる					
授業の到達目標:					
・現在の教育課題を探究することにより、子ども理解を深め、保育者としての使命感・責任感や社会性を含めた対人関係を身につける。 ・半年後に現場で働くことを想定し保育の現場で実践に役立つ理論や技能を学ぶ。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	オリエンテーション 履修カルテ作成				
2	教育実習Ⅱのふりかえり				
3	保育環境と保育内容①季節の行事				
4	保育環境と保育内容②お誕生会				
5	保育環境と保育内容③保育形態				
6	保育環境と保育内容④けんかの仲裁				
7	模擬保育①ゲーム				
8	模擬保育①製作				
9	子育て支援①連絡帳				
10	子育て支援②クラス懇談会				
11	保育現場の課題①多文化保育				
12	保育現場の課題②ITメディア、HP作成にあたって				
13	保育実践①園外保育指導案作成				
14	保育実践②園外保育実踏む及び振り返り				
15	期末レポート作成及び提出 履修カルテ作成				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容:発表前に教員と必ず事前準備を行う。					
テキスト:授業内容に応じたレジュメを配布する。(担当学生作成)					
参考文献:-新版- 保育・教職実践演習 -保育理論と保育実践の手引き- 2018 横山文樹・駒井美智子 編著					
学生に対する評価:					
出席状況・授業態度(グループ討論の参加状況)提出物・レポート等を総合的に評価 提出期限厳守 チームワークも重視します。					
実務経験のある教員による授業科目:幼稚園勤務18年 子ども達が心身ともに健康で過ごすために必要な保育内容・保護者対応等 実践に活かせるものを重視した授業内容・実践演習を展開する。					

開講年次：2年次秋	必修	単位数：2	時間数：60	授業形態：演習
科目名	保育・教職実践演習 II			
担当教員	横山正美			
授業概要： ・ 学びの課題に応じてグループ討議・ワークシートの活用・事例を交えながら学びを広げる。 ・ 演習では、保育現場を想定し、ロールプレイ研修や、校外学習を取り入れながら、保育実践の実際と課題を学んでいく。				
授業の到達目標： 1. 教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を定着させる。				
授業計画				
授業回数	授業内容及び計画			
1	オリエンテーション 保育・教職実践演習（後期）の概要と今後の学習計画について			
2	☆子ども理解と保育実践 1、保育の実践・保育の質とは ～子どもを主体とした保育を実践するために～			
3	2、育てたい子どもの姿 ～保育現場における報告・連絡・相談～			
4	2、育てたい子どもの姿 ～小学校以降の学びへの連続性を意識した保育～			
5	3、保育の計画と評価 ～指導案作成の基礎・保育の改善と評価～			
6	4、保育実践の研究 ～子どもと遊び・保育マップの活用～			
7	5、保育をデザインする・共有する ～子どもと創り上げる行事～			
8	☆家庭と子育て支援 1、子育て支援と虐待対応			
9	2、子育て支援の実際			
10	☆保育の現代的な課題と保育実践 1、保育を語る、対話することの重要性			
11	2、保育実践の研究 ～模擬保育の実際・指導計画立案～			
12	3、保育実践の研究 ～模擬保育の実際・評価・考察～			
13	☆子ども達に向き合うこれからの保育者として求められるもの 1、子どもと向き合ういのち			
14	2、気になる子どもとの関わり・社会情勢からの疑問を保育実践の中で学ぶ			
15	後期のまとめ、レポート記入			
	定期試験：実施しない			
事前・事後学習の内容： 次回の授業内容を事前に伝え、意欲を持って学べるよう準備を促すと共に、授業内容の予習や振り返り用のワークシートを活用し、事前・事後の学習の習慣化を図ると共に、確実な知識と技術の習得に努めていく。				
テキスト：保育の実践 一愛し、任せ、信じ、見守る 本吉圓子・奥田美由紀 萌文書林				
参考文献： ②『保育所保育指針解説』 フレーベル館。 ②『保育・教職実践演習 実力ある保育者を目指して』 萌文書林 ③『ここがちがう 放任保育と任せる保育』本吉圓子 萌文書林				
学生に対する評価：提出物・期限 40％ 受講姿勢・グループワークへの取り組み・クラスや他者への配慮 60％				
実務経験のある教員による授業科目 主任保育士経験として、クラス運営を行う保育士の指導・保護者の育児相談業務等を担当。「任せる保育と放任保育」の違いを園内研修の責任者として企画運営してきた。退職後、2児の母として幼稚園・子ども園の利用者側目線で、保育を考える機会を得た事で、母親の抱える問題や不安實際を体験し、学びに繋がったことを授業の中で現場で実践に生かせる知識として伝えていく。				

開講年次:2年次春		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		園芸Ⅰ			
担当教員		高浜 真理子			
授業概要: (1)園内植物などの生長を観察し、栽培法を身に付け、園芸に関する基礎的な知識を実習中心に学びます。 (2)収穫物は調理実習や作品作りなどに利用します。 (3)天候により、ビデオなどを利用するなど、順序・内容を変更することがあります。 (4)講義は随時実習と組み合わせながら行います。					
授業の到達目標: 保育者として、子どもに提供できる園芸知識と経験を身に付ける。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	園内植物観察、ジャガイモ植え付け				
2	土について、サトイモ植え付け				
3	肥料について				
4	水、光、温度について				
5	夏野菜入手について				
6	夏野菜植え付け				
7	種について 種まき 押花用花材集め				
8	イモ類の育て方 サツマイモ植え付け				
9	農薬について 押花作り				
10	ラベンダークラフト				
11	繁殖法について				
12	行事と植物				
13	植物と環境 ジャガイモ収穫				
14	アイたたき染				
15	園内観察 夏野菜収穫等 まとめ				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容: シラバスの授業計画だけでなく、授業と授業の間の植物の生育変化を感じるよう観察を促す。実習した内容を表にし、年間の作業を把握する。					
テキスト: なし。					
参考文献: 東京都立農芸高校監修, 2016,『はじめてのやさしい野菜づくり60種』新星出版社。					
学生に対する評価: 定期試験60％、受講姿勢40％					
実務経験のある教員による授業科目 体験農園での講師、大学の教育学部での園芸サークル指導、保育所における保育に生かす園芸の仕事をしていた経験等を活かしています					

開講年次:2年次秋		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		保育・教育相談の基礎と方法			
担当教員		長田 美穂			
授業概要: 相談の意義と理論を理解し、方法と展開を学ぶ。相談を進める際に必要な基礎的知識を学び応用と実践に繋げる。 組織的な取り組みや連携の必要性を理解し、現代的課題を含めた教育相談について理解を深める。					
授業の到達目標: (1) 幼児の発達状況に即しつつ、ここの心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基本的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身に付ける。 (2) 早期からの教育相談として乳児を含む子どもを取り巻く現代的課題を含めた教育的相談に応じる保護者支援を理解する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	現代社会と子育て、子育て				
2	子育て・親育ち支援としての保育・教育相談支援				
3	相談支援の基盤としての保育と保護者との関係				
4	相談支援の基礎				
5	保育における相談支援～カウンセリングの基礎知識 受容・傾聴・共感的理解・自己決定・秘密保持等				
6	地域子育て支援における相談支援				
7	0, 1, 2歳児の相談と支援の実際				
8	3, 4, 5歳児の相談と支援の実際				
9	特別な対応を必要とする子どもや家庭への相談と支援～虐待・不登園等に対する相談の進め方				
10	特別な対応を必要とする子どもや家庭への相談と支援～障害児・ひとり親家庭、困難家庭に対する支援				
11	小学校における心理的援助、教育相談				
12	自己理解(エゴグラム)				
13	カウンセリングテクニック(アサーション)				
14	カウンセリングテクニック(コーチング)				
15	まとめ				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容: 授業で扱える内容には限りがあるので、各自教科書以外にも参考書などで積極的に学びを深めることや、子どもおよび子育て家庭を取り巻く問題について、新聞等で取り上げられている内容について自分で調べて授業内容と関連づけていくことが望まれる。授業では振り返りを兼ねた、アクティブラーニングを重視したワークを行い、提出する課題は授業内容を振り返りながら、理解の定着を図ることを目的とする。またグループワークについては、総合的に取り組む姿勢を重視する。					
テキスト: 太田光洋編,2016,『保育・教育相談支援』,建帛社					
参考文献: 随時、授業内でプリント配布。					
学生に対する評価: (1) 定期試験 60% (2) 受講姿勢 40% (授業への取り組み20、提出物20)					
実務経験のある教員による授業科目: スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを兼務し、幼保小中高の教職員、保護者、生徒、地域への講演・講話・研修を多数行ってきた経験を活かして、対人援助職として相談を進める際に必要な知識と技能をもとにカウンセリング、コンサルテーションに関する演習・グループワークを行う。					

開講年次:2年次秋		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名	保育・教育相談の基礎と方法				
担当教員	前川 洋子				
授業概要: 相談の意義と理論を理解し、方法と展開を学ぶ。相談を進める際に必要な基礎的知識を学び応用と実践に繋げる。 組織的な取り組みや連携の必要性を理解し、現代的課題を含めた教育相談について理解を深める。					
授業の到達目標: (1) 幼児の発達状況に即しつつ、ここの心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基本的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身に付ける。 (2) 早期からの教育相談として乳児を含む子どもを取り巻く現代的課題を含めた教育的相談に応じる保護者支援を理解する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	相談支援の意義と展開				
2	保育の特性を生かした相談支援				
3	相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念				
4	子どもの最善の利益を重視する保護者支援				
5	不適切や問題行動の意味とその対応				
6	カウンセリングマインドの必要性				
7	カウンセリングの基礎知識 受容・傾聴・共感的理解・自己決定・秘密保持等				
8	相談における計画・記録・評価・カンファレンス				
9	虐待・不登園等に対する相談の進め方				
10	相談計画における地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携				
11	安全な生活や社会づくりに必要な情報・知識及び方法				
12	食と健康に関するアレルギー相談(食育を含む)				
13	帰国子女・外国籍親子に対する支援				
14	障害児・ひとり親家庭支援				
15	事例検討 心理・発達・教育の相談				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容: 次回の講義内容を示し、予習を促す。授業外の課題やワークの準備については事前指導を行い、効果的なアクティブラーニングを図る。 授業内で扱った事例検討はカンファレンスとして学生にフィードバックし理解の定着を図る。 グループワークは準備から発表まで事前・事後学習において総合的に取り組む姿勢を重視する。					
テキスト: 太田光洋 編著 2017『保育・教育相談支援』建帛社					
参考文献: 随時、授業内でプリント配布。 厚生労働省『保育者保育指針』文部科学省、『幼稚園教育要領』、内閣府『認定こども園教育・保育要領』、フレーベル館 2017					
学生に対する評価: (1) 定期試験 60％ (2) 受講姿勢 40％（授業への取り組み20、提出物20）					
実務経験のある教員による授業科目: 保育所における子育て相談員及び社会福祉法人の第三者委員会委員として保育現場に携わり、また実証的研究として保育研究をする者が、その経験を活かして今日の課題の対応を含めた授業を展開する。教育カウンセラー学会等の委員を務め、相談を進める際に必要なカウンセリングに関する知識と技能をもつ教員が、心理学の知見を活かして心理検査やカウンセリングに関する演習を行う。					

開講年次:2年次秋		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名		キリスト教保育			
担当教員		菅原 陽子			
授業概要: 宣教師によって始められた保育の思想や実践を知り、今日のキリスト教保育に継承されるものについて学ぶ。 キリスト教保育の理念や内容について学び、実践としてのキリスト教保育の園の礼拝や、行事について理解する。					
授業の到達目標: ・キリスト教保育の歴史から、キリスト教主義幼稚園が日本の幼児教育に果たした役割を学ぶ。 ・キリスト教保育指針から、キリスト教の子ども観、キリスト教保育のねらい、キリスト教保育の実践について理解する。 ・キリスト教保育の実践として、子どもの礼拝、園の行事や子ども讃美歌などの理解を深める。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	授業説明・自己紹介・宗教と保育について				
2	キリスト教の人間観・子ども観と保育				
3	キリスト教保育137年の歴史と理念				
4	G.E.キュックリヒのキリスト教保育と働き(1)				
5	G.E.キュックリヒのキリスト教保育と働き(2)				
6	キリスト教保育の実践 子どもの礼拝・お祈り・讃美歌				
7	キリスト教保育の行事(1)イースター・花の日・ペンテコステ・収穫感謝・誕生会				
8	キリスト教保育の行事(2)アドヴェント				
9	キリスト教保育の行事(3)クリスマス				
10	キリスト教保育の行事(4)クリスマス				
11	キリスト教保育の行事(5)クリスマス				
12	キリスト教保育の実践 自然との関わり・遊び				
13	キリスト教保育と保育者 キリスト教保育へのかかわり方				
14	キリスト教保育と保育者 「ともに育つ」				
15	定期試験・解説				
	定期試験期間における試験: 実施しない				
事前・事後学習の内容: *テキスト・配布資料の通覧 *学校礼拝の出席					
テキスト: *聖書 *片山知子(理事長), 2023年『キリスト教保育指針』キリスト教保育連盟。					
参考文献: *高野勝夫・二星啓子, 1995年『キリストから幼児へ, 幼児をキリストへ キリスト教保育の理論と実際』ヨルダン社。 *長山篤子(理事長), 2008年『キリスト教保育50の質問』キリスト教保育連盟。 *G.E.キュックリヒ, 1932-1934『学齢前に於ける宗教々育』「基督教宗教々育講座」基督教出版社。					
学生に対する評価: 定期試験(60%)、授業への参加様態・リアクションペーパー(20%)、礼拝出席(20%)					
実務経験のある教員による授業科目: キリスト教主義幼稚園教諭・教会幼稚園教諭・教会学校教師の経験					

開講年次:2年次秋		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名		教育社会学			
担当教員		江川 栄一			
授業概要:					
1) 社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解します。					
2) 現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解します。					
3)学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解します。					
4)学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解します。					
授業の到達目標:					
現代の学校教育に関する社会的、制度的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解します。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付けます。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	公教育の原理及理念を理解している。教育制度とは何か				
2	公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。その1:教育基本法・国民の権利としての教育へ				
3	公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。その2:教育基本法・我が国の未来を切り拓く教育				
4	学校を巡る近年の様々な状況の変化を理解している。その1:学校教育制度				
5	学校を巡る近年の様々な状況の変化を理解している。その2:幼児教育制度				
6	学校を巡る近年の様々な状況の変化を理解している。その3:保育所制度				
7	諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解している。ICT教育の先進事例をオーストラリアに学ぶ				
8	教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。教員制度、中央教育行政と地方教育行政				
9	地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。学校経営の制度、学校と地域の連携				
10	生活指導上の諸課題に関わる法制度を理解している。児童の問題行動、いじめ				
11	子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。児童虐待、子どもの貧困				
12	教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。外国につながる子どもの教育、ヤングケアラー				
13	学校安全:学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。				
14	学校安全:生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の側面から具体的な取組を理解している。				
15	近年の教育政策の動向を理解している。幼児期の教育をめぐる課題 総まとめ				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容:					
シラバスの授業計画だけでなく、授業の最後に次時の講義内容を示し、予習を促す。また、復習の徹底を指導するとともに、小レポートや課題なども適宜実施し、事前・事後の学習の習慣化を図る。					
テキスト:					
内山絵美子・他編『新訂版 保育者・小学校教員のための教育制度論』教育開発研究所					
参考文献:					
随時プリントを配布します					
学生に対する評価:					
定期試験:70%					
受講姿勢(授業態度・レポート提出状況):30%					
実務経験のある教員による授業科目:ー					

開講年次:2年次秋		必修	単位数:2	時間数:30	授業形態:講義
科目名		教育社会学			
担当教員		竹原 有基			
授業概要: 現代の学校教育に関する社会的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。その際、社会と教育の関係性について社会学的な視点から分析する教育社会学的な視点に立つ。社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、それに対応するための教育政策の動向を理解するのが目標であり、本講義では特に教育格差の問題に着目する。また、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。					
授業の到達目標: 1. 教育に関する社会的事項 (1)学校を巡る近年の様々な状況の変化を理解する。(2)子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解する。 (3)近年の教育政策の動向を理解する。(4)諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解する。 2. 学校と地域との連携 (1)地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解する。 (2)地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解する。 3. 学校安全への対応 (1)学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解する。 (2)生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、具体的な取組を理解する。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	オリエンテーションー教育と社会の関係を考える				
2	教育内容・方法の変遷と社会の関係				
3	教育格差の実態とメカニズム				
4	学校間の格差、学習環境の格差				
5	高校教育制度とSES格差				
6	「教師は社会的存在である」とはどういうことか				
7	保護者や子どもの言動を規定するのは何か				
8	社会的文脈を考慮した学校の在り方、生徒への対応				
9	国内の少年非行の情勢				
10	学歴社会と教育機会				
11	「性別」で子どもの可能性を制限しないために				
12	子どもたちの文化多様性				
13	特別活動と部活動をめぐる格差				
14	不登校といじめのメカニズム				
15	教育社会学の実践と社会調査				
	定期試験期間における試験:実施する				
事前・事後学習の内容: インターネット、TV、新聞等で教育に関わる記事に関心を持ち、批判的に接する習慣を付ける。 授業で提示された資料等は、授業後に目を通すようにする。					
テキスト: 中村高康・松岡亮二編著, 2021,『現場で使える教育社会学ー教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房。					
参考文献: 相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子, 2022,『これからの教育社会学』有斐閣。 片山悠樹他編著, 2017,『半径5メートルからの教育社会学』大月書店。 酒井朗・中村高康・多賀太編, 2012,『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房。 ポール・ウィリス, 1996,『ハマータウンの野郎どもー学校への反抗、労働への順応』ちくま学芸文庫。 松岡亮二, 2019,『教育格差 階層・地域・学歴』筑摩書房。他、講義内で適宜紹介する。					
学生に対する評価: 定期試験:60% 受講姿勢(授業態度・授業内レポート課題):40%					
実務経験のある教員による授業科目:ー					

開講年次:1・2年次春・秋(通年)		必修	単位数:2	時間数:60	授業形態:演習
科目名		保育総合教養(1年次前期)			
担当教員		教務部			
授業概要:					
(1)保育に関する社会的、専門的な学びを深めるため、外部講師による話を聞いたり、施設の見学、体験をする。 (2)礼拝や各行事におけるクラスでの活動に主体的に参加する。 (3)就職指導は2年間を通して行う。 (4)修養会は1・2年生合同で行う。					
授業の到達目標:					
(1)さまざまな要素に触れ、専門的・社会的知識を補い幅広い見識を得て、保育者として必要な人間性の向上をはかる。 (2)行事やホームルームクラスなど学内活動を通してコミュニケーション能力や協働性を培う。 (3)それぞれの就職活動を通し社会において保育者として働く意義を意識し、就職に繋げる。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画 ※クラスによって時期が異なります。また内容が変更になる場合があります。				
1	オリエンテーション				
2	修養会について				
3	オレンジリボンについて				
4	施設見学ガイダンス				
5	ホームルーム				
6	修養会に向けて				
7	修養会				
8	みだしなみ講座				
9	就職ガイダンス・保育実習Ⅰ(施設)アナウンス				
10	施設見学				
11	手話講座(中野佐世子先生)				
12	手話講座(中野佐世子先生)				
13	童謡講座(安田祥子先生)				
14	試験ガイダンス・大掃除				
15	就職フェア				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容:授業の中で指示する。					
テキスト:					
(1)『手話ソングブック』(中野先生) (2)『ともだちになるために』(中野先生)					
参考文献:					
必要に応じてプリント配布。					
学生に対する評価:					
(1)授業の参加姿勢:80% ※行事(修養会・草遊祭・クリスマス礼拝・卒業礼拝)、HR活動の参加姿勢及び意欲・態度を含む (2)提出物:20% (3)礼拝出席率:50%以上出席者に加点 ※半期ごとに3分の2以上の授業に出席すること。他科目と同様、出席数が満たない場合は失格となる。					
実務経験のある教員による授業科目:－					

開講年次:1・2年次春・秋(通年)		必修	単位数:2	時間数:60	授業形態:演習
科目名		保育総合教養(1年次後期)			
担当教員		教務部			
授業概要:					
(1)保育に関する社会的、専門的な学びを深めるため、外部講師による話を聞いたり、施設の見学、体験をする。					
(2)礼拝や各行事におけるクラスでの活動に主体的に参加する。					
(3)就職指導は2年間を通して行う。					
(4)修養会は1・2年生合同で行う。					
授業の到達目標:					
(1)さまざまな要素に触れ、専門的・社会的知識を補い、幅広い見識を得て、保育者として必要な人間性の向上をはかる。					
(2)行事やホームルームクラスなど学内活動を通してコミュニケーション能力や協働性を培う。					
(3)それぞれの就職活動を通し社会において保育者として働く意義を意識し、就職に繋げる。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画 ※クラスによって時期が異なります。また内容が変更になる場合があります。				
1	クラスガイダンス				
2	草遊祭について				
3	草遊祭について				
4	オレンジリボンについての講演会				
5	草遊祭について(校長・学園長)				
6	手話講座(中野佐世子先生)				
7	クリスマス話・点火式				
8	腹話術				
9	実習ガイダンス				
10	手話講座(中野佐世子先生)				
11	童謡講座(安田祥子先生)				
12	絵本講座(福音館書店)				
13	実習報告会				
14	伝承遊び(けん玉)				
15	試験ガイダンス・大掃除				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容:授業の中で指示する。					
テキスト:					
(1)『手話ソングブック』(中野先生)					
(2)『ともだちになるために』(中野先生)					
参考文献:					
必要に応じてプリント配布。					
学生に対する評価:					
(1)授業の参加姿勢:80% ※行事(修養会・草遊祭・クリスマス礼拝・卒業礼拝)、HR活動の参加姿勢及び意欲・態度を含む					
(2)提出物:20%					
(3)礼拝出席率:50%以上出席者に加点					
※半期ごとに3分の2以上の授業に出席すること。他科目と同様、出席数が満たない場合は失格となる。					
実務経験のある教員による授業科目:－					

開講年次:1・2年次春・秋(通年)		必修	単位数:2	時間数:60	授業形態:演習
科目名		保育総合教養(2年次前期)			
担当教員		教務部			
授業概要:					
(1)保育に関する社会的、専門的な学びを深めるため、外部講師による話を聞いたり、施設の見学、体験をする。 (2)礼拝や各行事におけるクラスでの活動に主体的に参加する。 (3)就職指導は2年間を通して行う。 (4)修養会は1・2年生合同で行う。					
授業の到達目標:					
(1)さまざまな要素に触れ、専門的・社会的知識を補い、幅広い見識を得て、保育者として必要な人間性の向上をはかる。 (2)行事やホームルームクラスなど学内活動を通してコミュニケーション能力や協働性を培う。 (3)それぞれの就職活動を通し社会において保育者として働く意義を意識し、就職に繋げる。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画 ※クラスによって時期が異なります。また内容が変更になる場合があります。				
1	オリエンテーション				
2	修養会について				
3	手話講座(中野佐世子先生)				
4	就職ガイダンス				
5	履歴書指導1回目				
6	修養会について				
7	修養会				
8	金融教育				
9	履歴書指導2回目				
10	卒業生講話				
11	卒業生講話				
12	童謡講座(安田祥子先生)				
13	試験ガイダンス・大掃除				
14	就職フェア				
15	防災館				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容:授業の中で指示する。					
テキスト:					
(1)『手話ソングブック』(中野先生) (2)『ともだちになるために』(中野先生)					
参考文献:					
必要に応じてプリント配布。					
学生に対する評価:					
(1)授業の参加姿勢:80% ※行事(修養会・草遊祭・クリスマス礼拝・卒業礼拝)、HR活動の参加姿勢及び意欲・態度を含む (2)提出物:20% (3)礼拝出席率:50%以上出席者に加点 ※半期ごとに3分の2以上の授業に出席すること。他科目と同様、出席数が満たない場合は失格となる。					
実務経験のある教員による授業科目:－					

開講年次:1・2年次春・秋(通年)		必修	単位数:2	時間数:60	授業形態:演習
科目名		保育総合教養(2年次後期)			
担当教員		教務部			
授業概要:					
(1)保育に関する社会的、専門的な学びを深めるため、外部講師による話を聞いたり、施設の見学、体験をする。 (2)礼拝や各行事におけるクラスでの活動に主体的に参加する。 (3)就職指導は2年間を通して行う。 (4)修養会は1・2年生合同で行う。					
授業の到達目標:					
(1)さまざまな要素に触れ、専門的・社会的知識を補い幅広い見識を得て、保育者として必要な人間性の向上をはかる。 (2)行事やホームルームクラスなど学内活動を通してコミュニケーション能力や協働性を培う。 (3)それぞれの就職活動を通し社会において保育者として働く意義を意識し、就職に繋げる。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画 ※クラスによって時期が異なります。また内容が変更になる場合があります。				
1	草遊祭について、集団模擬面接アナウンス				
2	集団模擬面接				
3	集団模擬面接				
4	履歴書返却・個別指導				
5	オレンジリボンについての講演会				
6	童謡講座(安田祥子先生)／草遊祭キックオフ				
7	手話講座(中野佐世子先生)				
8	クリスマスの話・点火式				
9	腹話術				
10	手話講座(中野佐世子先生)				
11	童謡講座(安田祥子先生)				
12	就職講座「メディアリテラシー」				
13	実習報告会				
14	カーボンフリーについて				
15	試験ガイダンス・大掃除				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容:授業の中で指示する。					
テキスト:					
(1)『手話ソングブック』(中野先生) (2)『ともだちになるために』(中野先生)					
参考文献:					
必要に応じてプリント配布。					
学生に対する評価:					
(1)授業の参加姿勢:80% ※行事(修養会・草遊祭・クリスマス礼拝・卒業礼拝)、HR活動の参加姿勢及び意欲・態度を含む (2)提出物:20% (3)礼拝出席率:50%以上出席者に加点 ※半期ごとに3分の2以上の授業に出席すること。他科目と同様、出席数が満たない場合は失格となる。					
実務経験のある教員による授業科目:－					

開講年次:1年次秋		必修	単位数:2	時間数:90	授業形態:実習
科目名		教育実習Ⅰ			
担当教員		祐成 かおり			
授業概要: ・幼稚園教諭二種免許状取得のために幼稚園及び幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園にて観察、参加実習を行う。 ・幼稚園の役割や機能、幼稚園教諭の職務について体験を通して学ぶ。 ・子どもと園生活を共にし、観察やかかわり、部分実習を通して子ども理解を深め、保育者になる自覚を養う。 ・学んできた理論や技術が現場でどのように活用されているかを確認、学ぶ。					
授業の到達目標: 1. 幼稚園生活の流れを学ぶ。 2. 幼稚園の役割や機能、幼稚園教諭の職務内容について理解する。 3. 子どもの育ちや個性を知り、それに応じた保育者の援助や配慮、役割を理解する。 4. 観察したこと丁寧に記録し、気づき、学びを具体的に表現できる。 5. ねらいをもって部分実習の計画と実践を試み、考察をする。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
	<実習内容> 1. 幼稚園の役割と機能 (1)幼稚園の沿革・教育方針・運営等の理解し、実習を行う。 (2)幼稚園の一日の流れ、保育内容について理解する。 2. 子どもの理解 (1)子どもの活動内容、保育内容、保育者の動きなどを観察する。 (2)個々の状態に応じた援助やかかわりを観察し、理解する。 3. 幼稚園における子どもの生活と環境 (1)計画に基づく活動や援助を観察する。 (2)子どもの心身の状態に応じた生活と対応について理解する。 (3)子どもの活動と環境を理解する。 (4)健康管理、安全対策の理解をする。 4. 記録 (1)実習日誌に記録を適切に記入し、記録の取り方を身につける。 (2)記録に基づく省察・自己評価 を行い、課題を見出し、次の実践へ活かす。 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1)幼稚園教諭の業務内容について学ぶ (2)職員間の役割分担や連携を学ぶ。 (3)幼稚園教諭の役割と職業倫理について学ぶ				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容: (1)教育実習演習(事前事後指導)を受け、実習の意義や心構えを理解し、実習課題を設定する。 (2)オリエンテーション等の事前訪問を通して実習先について理解に努める。 (3)教材準備やピアノ練習の事前準備を行う。 (4)自己評価と実習評価を踏まえ自身の課題を明確化する。					
テキスト: ・草苑保育専門学校 実習センター, 2023,『実習の手引き』草苑保育専門学校. ・小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子, 2017,『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社. ・祐成かおり, 2023,『2021年度 教育実習演習(事前事後)』草苑保育専門学校.					
参考文献: ・文部科学省,2018『幼稚園教育要領解説』フレーベル館					
学生に対する評価: (1)実習評価60%(実習施設からの評価) (2)実習日誌、提出物(提出期限、提出物内容)など)40%					
実務経験のある教員による授業科目 幼稚園、保育所での実務経験、実習生指導の経験を活かし、実習の意義や心構えについて実践に繋がる授業を行う。					

開講年次:2年次秋		必修	単位数:2	時間数:90	授業形態:実習
科目名		教育実習Ⅱ			
担当教員		祐成 かおり			
授業概要: ・幼稚園教諭二種免許状取得のために幼稚園及び幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園にて参加・部分・責任実習を行う ・幼稚園の役割や機能、幼稚園教諭の職務、職員間の連携について体験を通して理解を深める。 ・子ども理解を深め、保育者になる自覚を養う。 ・学んできた理論や技術が現場でどのように活用されているかを確認、学ぶ。					
授業の到達目標: 1. 幼稚園生活の流れを理解し、主体的に学ぶ。 2. 幼稚園の役割や機能、幼稚園教諭の職務内容について理解する。 3. 子どもの育ちを理解し、それに合わせた保育者の援助や配慮、保育内容について実践的に学ぶ。 4. 保育者としての責任、幼稚園教諭の職務の多様性と重要性を認識し、専門職としての自覚をもつ。 5. 幼児の発達や状態に応じた指導計画、保育実践、記録、省察を適切に行うことができる。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
	<実習内容> 1. 幼稚園の役割と機能 (1)幼稚園の沿革・教育方針・運営等の理解し、実習を行う。 (2)幼稚園の一日の流れ、保育内容について理解し、主体的に保育に参加する。 2. 子どもの理解 (1)子どもの観察やかかわりを通して発達過程を学ぶ。 (2)個々の状態に応じた援助やかかわりを実践、振り返りを通して理解を深める。 3. 幼稚園における子どもの生活と環境 (1)計画に基づく活動や援助を実践する。 (2)子どもの心身の状態に応じた生活と対応を学び、実践を行う。 (3)幼稚園と家庭、地域、小学校との連携を理解する。 (4)健康管理、安全対策の理解をする。 4. 指導計画と記録 (1)子どもの状況合わせた指導計画案作成を行い部分・責任実習を実践する。 (2)記録に基づく省察・自己評価を通して、課題を見出し、次の実践へ活かす。 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1)幼稚園教諭の業務内容を理解する。 (2)職員間の役割分担や連携を理解する (3)幼稚園教諭の役割と職業倫理について理解を深める。				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容: (1)教育実習演習(事前事後指導)を受け、実習の意義や心構えを理解し、実習課題を設定する。 (2)オリエンテーション等の事前訪問を通して実習先について理解に努める。 (3)教材準備やピアノ練習の事前準備を行う。 (4)自己評価と実習評価を踏まえ自身の課題を明確化する。					
テキスト: ・草苑保育専門学校 実習センター, 2023,『実習の手引き』草苑保育専門学校. ・小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子, 2017,『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社. ・祐成かおり, 2022,『2022年度 教育実習演習(事前事後)』草苑保育専門学校.					
参考文献: ・文部科学省,2018『幼稚園教育要領解説』フレーベル館					
学生に対する評価: (1)実習評価60%(実習施設からの評価) (2)実習日誌、提出物(提出期限、提出物内容)など)40%					
実務経験のある教員による授業科目 幼稚園、保育所での実務経験、実習生指導の経験を活かし、実習の意義や心構えについて実践に繋がる授業を行う。					

開講年次:1年次春		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名		教育実習演習(事前事後指導) ※1年次			
担当教員		祐成 かおり			
授業概要:					
(1) 幼稚園教諭の役割を理解し、目的意識をもちながらどのような視点や心構えが必要かを学ぶ。					
(2) 教育実習Ⅰに向けて書類・日誌の書き方を学ぶ。					
(3) 指導計画案・保育技術の理論と実際を体験学習する。					
授業の到達目標:					
(1) 教育実習の意義・内容について理解する。					
(2) 教育実習に対する個人目標と基本的な心構えを明確にする。					
(3) 実習の流れや準備の仕方を知る。					
(4) 実習に関する書類・日誌の書き方、教材の意味を知り、現場で活かす力を付ける。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	教育実習の意義・概要／教育実習Ⅰの目的について				
2	幼稚園理解・実習の心構え				
3	観察実習・参加実習のねらいと記録 実習日誌の取り扱いと基本的事項				
4	幼稚園見学実習(草苑幼稚園)／実習日誌の実践				
5	見学実習の振り返り／実習日誌の意義と課題				
6	保育教材の理論と実際				
7	保育教材の研究				
8	教材を保育に活かす留意点				
9	実習課題の立て方				
10	個人票の意義・作成				
11	指導計画案の意義・作成				
12	実習オリエンテーションの準備と心構え				
13	模擬保育の実践				
14	実習の諸注意と確認				
15	実習の振り返りと今後の課題				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容:					
・テキスト・配布資料を基に次時授業に対するの予習・教材研究を促し、復習を徹底する。					
・予習復習の課題については添削・フィードバックを行い、実践力に繋げる。					
テキスト:					
・草苑保育専門学校 実習センター, 2023,『実習の手引き』草苑保育専門学校.					
・小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子, 2017,『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社.					
・祐成かおり, 2023,『2023年度 教育実習演習(事前事後)』草苑保育専門学校.					
参考文献:					
・文部科学省, 2018,『幼稚園教育要領解説』フレーベル館.					
学生に対する評価:					
・受講姿勢50%(授業態度・模擬保育実践状況)					
・課題提出物50%(提出物内容・提出状況)					
※事前指導14回のうち欠席が3分の1を超えた者は実習失格とする					
実務経験のある教員による授業科目:					
幼稚園、保育所での実務経験、実習生指導の経験を活かし、実習の意義や心構えについて実践に繋がる授業を行う。					

開講年次:2年次春		必修	単位数:1	時間数:30	授業形態:演習
科目名	教育実習演習(事前事後指導) ※2年次				
担当教員	祐成かおり				
授業概要:					
(1) 演習を通して教育実習の意義や心構えを実践的に学ぶ。					
(2) 教育実習Ⅱに向けて日誌の書き方・指導案の立て方を中心に学ぶ。					
(3) 指導計画案の意義について学び、保育実践力を身につける学習を行う。					
授業の到達目標:					
(1) 教育実習Ⅰを踏まえ、理論と実際の結び付きを図り、保育者としての資質を高める。					
(2) 幼稚園教諭の職務内容の重要性について把握し、適切に実践できるようになる。					
(3) 幼児の発達を把握した上で指導計画案及び実習日誌を適切に作成し、自らの「気づき」を表現できるようになる。					
(4) グループワークを通し、教材研究・保育技術の向上に努める。					
授業計画					
授業回数	授業内容及び計画				
1	教育実習の意義・概要／教育実習Ⅱの目的について				
2	実習日誌について ねらいの立て方及び観察の視点				
3	実習日誌について 観察・実践の記録				
4	実習日誌について 考察の書き方を知る				
5	幼稚園見学実習(草苑幼稚園)／実習日誌の実践				
6	見学実習の振り返り／実習日誌の意義と課題				
7	指導計画案の意義と手順				
8	保育教材の研究				
9	保育教材・活動プレゼンテーション				
10	指導計画案について 腹案作成				
11	指導計画案について 一日の指導計画立案				
12	個人票の意義と課題				
13	個人票作成				
14	実習の諸注意と確認				
15	実習の振り返りと今後の課題				
	定期試験期間における試験:実施しない				
事前・事後学習の内容:					
・テキスト・配布資料を基に次時授業に対するの予習・教材研究を促し、復習を徹底する。					
・予習復習の課題については添削・フィードバックを行い、実践力に繋げる。					
テキスト:					
・草苑保育専門学校 実習センター, 2023年,『実習の手引き』草苑保育専門学校.					
・小櫃智子・田中君枝・小山朝子・遠藤純子, 2017,『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社.					
参考文献:					
・文部科学省, 2018,『幼稚園教育要領解説』フレーベル館.					
・小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子, 2017,『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社.					
学生に対する評価:					
・受講姿勢60%(授業態度・グループワーク・プレゼンーション)					
・課題提出物40%(各種提出物内容・提出状況など)					
※事前指導14回のうち欠席が3分の1を超えた者は実習失格とする					
実務経験のある教員による授業科目:					
幼稚園、保育所での実務経験、実習生指導の経験を活かし、実習の意義や心構えについて実践に繋がる授業を行う。					